

南陽市遺跡分布調査報告書（5）

2017年3月

南陽市教育委員会

(追加・修正) 21～23頁

平成 29 年 4 月の市内小岩沢地区の踏査において、標高 420 m 以上の山中に位置し、形状及び立地環境が類似するマウンドを新たに確認した。小岩沢のマウンドは、開口部（焚口）が明瞭で炭焼窯跡と判断できることから、この南須畑田の塚は炭焼窯跡であると思われる。報告内容を訂正する。

南陽市遺跡分布調査報告書（5）

南陽市埋蔵文化財調査報告書第15集

平成29年3月

南陽市教育委員会



南須刈田遺跡（円形塚、東から）

序

この度、「南陽市遺跡分布調査報告書（5）」を発行する運びとなりました。本書は、南陽市教育委員会が平成28年に国庫補助事業（市内遺跡発掘調査等事業）として各種の開発事業と埋蔵文化財保護との調整を図るために実施した踏査、試掘調査、立会調査等の分布調査の成果をまとめたものです。

今年度は、住宅地開発等の民間事業に関連した調査が増加傾向にあり、これまで遺跡として保護されてきた範囲やその周辺にも開発が進んできており、埋蔵文化財の保護が課題となっております。地道な分布調査の積み重ねから、新たに確認された遺跡や周知の遺跡において新たな知見を得ることができました。

本市は、北に丘陵、南に沃野と豊かな自然に恵まれ、旧石器時代から中世に至るまで、数多くの遺跡が存在します。人々が生活した住居跡・古墳・役所跡・城館等の「遺跡」と、石器や土器等の「遺物」は、大地に埋まっている貴重な文化財であるため「埋蔵文化財」と呼ばれ、市内各地には、悠久の歴史を物語る埋蔵文化財が眠っております。土地を離れて人の生活は無く、その土地にはその土地の歴史が息づいております。埋蔵文化財は、その土地や地域の歴史を明らかにし、地域の宝として世代を越えて伝えられ、人々の地域への愛着やそこに生きる人々の誇りと自負を育んでいくものとなります。

現代を生きる私たちは、様々な営みの中で土地を利活用し、開発を行うこととなります。埋蔵文化財を大切にし、ふるさとの歴史を守ることを忘れてはなりません。

私たちには、埋蔵文化財を保護し大切に後世へと引き継いでいく責任があります。分布調査は、埋蔵文化財の所在を把握し、埋蔵文化財を保護するための第一歩となるものです。

最後になりましたが、調査にご指導、ご協力をいただいた関係各位に、厚くお礼を申し上げます。

平成29年3月

南陽市教育委員会
教育長 猪野忠

凡例

- 1 本報告書は、文化庁の補助を受けて平成 28 年度に南陽市教育委員会が実施した開発事業との調整並びに遺跡台帳（遺跡地図）整備に関する市内遺跡分布調査報告書である。
- 2 調査は南陽市教育委員会が実施した。
- 3 調査期間は、平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日までである。
- 4 調査体制は次のとおりである。

調査主任 角田朋行（課長補佐兼埋蔵文化財係長）
主幹課 社会教育課
主幹課長 社会教育課長 佐藤賢一
埋蔵文化財係技能士 鈴木輝生
長岡南森遺跡航空レーザー測量業務 アジア航測株式会社
- 5 本報告書の作成、執筆は、角田朋行が担当し、遺物実測は、山田渚が担当した。
- 6 挿図の縮尺はスケールで示した。
- 7 写真図版は任意の縮尺で採録した。
- 8 挿図における踏査範囲は灰色の塗りつぶしで示し、これによらない場合は各図に個別に示した。なお、薄い灰色の塗りつぶしは遺跡範囲を示す。
- 9 小字名は、地名記録の観点から明治期の地籍図によるものとし、現小字名を括弧書きで採録した。
- 10 本調査にあたっては、次の方々によるご指導、ご協力をいただいた。記して感謝申し上げる。（敬称略）

佐藤鏡雄、佐藤庄一、長井謙治、菊池強一、吉野一郎、角屋由美子

目 次

I 調査の概要	
1 調査の目的と概要	1
2 調査方法	1
3 調査位置図	2
4 調査実施一覧	4
II 遺跡台帳・遺跡地図整備に係る分布調査（踏査）	
1 姫柳字早稲田、字掘田	7
2 岩部山館跡（岩部山東南部）	8
3 大仏遺跡	9
4 赤湯字玉坂山、字名子山	10
5 別所館跡・別所山経塚（上ノ平山～別所山）	11
6 釜渡戸地区（釜渡戸石採取地）	13
7 北ノ沢山遺跡	15
8 上野山山頂	16
9 漆山字曾利橋	17
10 梨郷字寺山、字櫛ヶ峰	18
11 宮内字武道作山	19
12 宮内字閑口（観音堂遺跡隣地）	20
13 南須刈田遺跡（南須刈田経塚）	21
14 大橋城跡、御殿跡	24
15 梨郷字大森	26
16 梨郷字神楽山下	27
17 芹ヶ窪遺跡	28
18 漆山字東寺町、西寺町周辺及び字曾利橋、字八ツ口周辺	29
19 山居沢山A・D・E遺跡（山居沢山窓跡）	30
20 小滝字水林（新兵衛堤）	32
21 宮内字高日向二	34
III 試掘調査	
1 桜塚字李の木	35
2 北町遺跡	36
3 若狭郷屋字沢見（沢見遺跡隣地）	38
4 蒲生田山古墳群	39
5 中落合館跡（中落合遺跡）	40
6 久保遺跡	42
7 砂子田遺跡	43
8 長岡山遺跡	44
9 宮内字閑口	46
10 高梨字谷地端・字砂取場、字芦刈場	47

11	俎柳字六百刈（中ノ目下遺跡隣地）	48
12	樋ノ口遺跡	49
13	長岡山東遺跡	50
14	中ノ目下遺跡	52
15	宮内字三番縄	53
16	若狭郷屋敷跡	55
17	西田遺跡	56
18	中落合遺跡（中落合館跡）	58
19	中里遺跡（1）	59
20	中里遺跡（2）	61
21	檜原遺跡	62
22	長岡字東田中	63
IV 立会調査		
1	郡山字六百刈（早稲田遺跡隣地）	64
2	西原遺跡	65
3	樋塚字前田	66
4	宮内字八幡田二	67
5	宮内字下田一	69
6	若狭郷屋敷跡	70
7	矢ノ目館跡	71
8	漆山字前田	72
9	宮内字桜田二	73
10	閑根館跡	74
11	宮内字桜田一	75
12	岩屋堂2遺跡	76
V 長岡南森遺跡測量調査		
1	調査概要と目的	77
2	調査方法	77
3	測量方法と経過	77
4	成果	
(1)	地理的環境	78
(2)	南森館跡	78
(3)	南森（古墳推定地）	79

挿図目次

第 1 図 調査位置図	2	第 47 図 中落合館跡 TT1 道構断面図	41
第 2 図 越後守早稻田・字振田踏査範囲図	7	第 48 図 中落合館跡 TT2 道構断面図	41
第 3 図 岩部山南部踏査範囲図	8	第 49 図 久保遺跡開発予定地位置図	42
第 4 図 大仏遺跡追加範囲図	9	第 50 図 久保遺跡トレチ配置図	42
第 5 図 赤湯字玉坂山・字名子山踏査範囲図	10	第 51 図 久保遺跡柱状図	42
第 6 図 上ノ平山及び別所山踏査範囲図	12	第 52 図 砂子田遺跡開発予定地位置図	43
第 7 図 別所山経筒出土候補地位置図	12	第 53 図 砂子田遺跡トレチ配置図	43
第 8 図 釜渡戸地区踏査範囲図	14	第 54 図 砂子田遺跡 TT1 平面図	43
第 9 図 北ノ沢山遺跡踏査範囲図	15	第 55 図 砂子田遺跡柱状図	43
第 10 図 上野山山頂踏査範囲図	16	第 56 図 長岡山遺跡開発予定地位置図	44
第 11 図 漆山字曾利橋踏査範囲図	17	第 57 図 長岡山遺跡試掘位置図	45
第 12 図 梨郷字寺山・字櫛ヶ峰踏査範囲図	18	第 58 図 長岡山遺跡 TT1、TT4 断面図	45
第 13 図 宮内字武道作山踏査範囲図	19	第 59 図 長岡山遺跡柱状図	45
第 14 図 宮内字閑口踏査範囲図	20	第 60 図 宮内字閑口開発予定地位置図	46
第 15 図 南須刈田周辺字限図	22	第 61 図 宮内字閑口試掘位置図	46
第 16 図 南須刈田遺跡踏査範囲図	22	第 62 図 宮内字閑口柱状図	46
第 17 図 塚平面図	23	第 63 図 高梨字谷地端踏査範囲及び開発予定地位置図	47
第 18 図 塚断面図	23	第 64 図 高梨字谷地端試掘位置図	47
第 19 図 大橋城周辺踏査範囲図	24	第 65 図 高梨字谷地端柱状図	47
第 20 図 大橋城及び周辺概略図	25	第 66 図 越後字六百刈開発予定地位置図	48
第 21 図 梨郷字大森踏査範囲図	26	第 67 図 越後字六百刈トレチ配置図	48
第 22 図 梨郷字神楽山下踏査範囲図	27	第 68 図 越後字六百刈柱状図	48
第 23 図 芹ヶ窪遺跡踏査範囲図	28	第 69 図 桶ノ口遺跡開発予定地位置図	49
第 24 図 漆山字東・西寺町・曾利橋周辺踏査範囲図	29	第 70 図 桶ノ口遺跡トレチ配置図	49
第 25 図 山居沢山D 遺跡出土遺物実測図	31	第 71 図 桶ノ口遺跡柱状図	49
第 26 図 山居沢山A～E 遺跡周辺踏査範囲図	31	第 72 図 長岡山東遺跡開発予定地位置図	50
第 27 図 小滝字水林（新兵衛堤）踏査範囲図	32	第 73 図 長岡山東遺跡トレチ配置図	50
第 28 図 新兵衛堤（内脣部）断面図	33	第 74 図 長岡山東遺跡出土遺物実測図	50
第 29 図 新兵衛堤断面略図	33	第 75 図 長岡山東遺跡 TT1、TT2 断面図	51
第 30 図 新兵衛堤断面図記録地点位置図	33	第 76 図 中ノ目下遺跡開発予定地位置図	52
第 31 図 宮内字高日向二踏査範囲図	34	第 77 図 中ノ目下遺跡試掘位置図	52
第 32 図 桜塚字李の木開発予定地位置図	35	第 78 図 中ノ目下遺跡柱状図	52
第 33 図 桜塚字李の木試掘位置図	35	第 79 図 宮内字三番縄開発予定地位置図	53
第 34 図 桜塚字李の木柱状図	35	第 80 図 宮内字三番縄トレチ配置図	53
第 35 図 北町遺跡開発予定地位置図	37	第 81 図 宮内字三番縄 TT2、TT4 平面図・断面図	54
第 36 図 北町遺跡トレチ配置図	37	第 82 図 若狭郷屋屋敷跡開発予定地位置図	55
第 37 図 北町遺跡柱状図	37	第 83 図 若狭郷屋屋敷跡試掘位置図	55
第 38 図 若狭郷屋字沢見開発予定地位置図	38	第 84 図 若狭郷屋屋敷跡柱状図	55
第 39 図 若狭郷屋字沢見試掘配置図	38	第 85 図 西田遺跡開発予定地位置図	56
第 40 図 若狭郷屋字沢見柱状図	38	第 86 図 西田遺跡試掘位置図	56
第 41 図 蒲生田山古墳群開発予定地位置図	39	第 87 図 西田遺跡柱状図	56
第 42 図 蒲生田山古墳群試掘位置図	39	第 88 図 西田遺跡 TP2 断面図、TT3 平面図・断面図	57
第 43 図 蒲生田山古墳群柱状図	39	第 89 図 中落合遺跡開発予定位置図	58
第 44 図 中落合館跡開発予定地位置図	40	第 90 図 中落合遺跡トレチ配置図	58
第 45 図 中落合館跡トレチ配置図	40	第 91 図 中落合遺跡柱状図	58
第 46 図 中落合館跡 TT1、TT2 平面図	41	第 92 図 中里遺跡 (1) 開発予定地位置図	59

第 93 図 中里遺跡 (1) 試掘位置図	59	第 139 図 岩屋堂 2 遺跡 SD1 出土遺物実測図	76
第 94 図 中里遺跡 (1) 平面図	60	第 140 図 計測飛行ルート	77
第 95 図 中里遺跡 (1) 柱状図	60	第 141 図 南森館跡略図	79
第 96 図 中里遺跡 (1) TT4 出土遺物実測図	60	第 142 図 南森丘陵赤色立体地図	80
第 97 図 中里遺跡 (1) SK2 出土遺物実測図	60	第 143 図 南森古墳推定案	80
第 98 図 中里遺跡 (2) 開発予定地位置図	61		
第 99 図 中里遺跡 (2) 試掘位置図	61		
第 100 図 中里遺跡 (2) 柱状図	61		
第 101 図 中里遺跡 (2) 出土遺物実測図	61		
第 102 図 檜原遺跡開発予定地位置図	62		
第 103 図 檜原遺跡調査位置図	62		
第 104 図 檜原遺跡 TT1 平面図	62		
第 105 図 檜原遺跡柱状図	62		
第 106 図 長岡字東田中開発予定地位置図	63		
第 107 図 長岡字東田中レンヂ配置図	63		
第 108 図 長岡字東田中柱状図	63		
第 109 図 郡山字六百刈開発予定地位置図	64		
第 110 図 郡山字六百刈柱状図	64		
第 111 図 西原遺跡開発予定地位置図	65		
第 112 図 西原遺跡調査平面図	65		
第 113 図 西原遺跡 ST2 覆土出土遺物実測図	65		
第 114 図 櫛塚字前田開発予定地位置図	66		
第 115 図 櫛塚字前田 (地点 1) 調査位置図	66		
第 116 図 櫛塚字前田 (地点 1) 深掘地点平面図	66		
第 117 図 櫛塚字前田 (地点 1) 柱状図	66		
第 118 図 宮内字八幡田二開発予定地位置図	67		
第 119 図 宮内字八幡田二調査平面図	67		
第 120 図 宮内字八幡田二 SD1 ~ 6 断面図	68		
第 121 図 古銭出土地点位置図	69		
第 122 図 若狭郷屋屋敷跡開発予定地位置図	70		
第 123 図 若狭郷屋屋敷跡柱状図	70		
第 124 図 矢ノ目館跡開発予定地位置図	71		
第 125 図 矢ノ目館跡立会範囲図	71		
第 126 図 矢ノ目館跡柱状図	71		
第 127 図 漆山字前田開発予定地位置図	72		
第 128 図 漆山字前田柱状図	72		
第 129 図 宮内字桜田二開発予定地位置図	73		
第 130 図 宮内字桜田二調査平面図	73		
第 131 図 宮内字桜田二 SD1 柱状図	73		
第 132 図 開根館跡開発予定地位置図	74		
第 133 図 開根館跡 (明治 8 年字限図より)	74		
第 134 図 開根館跡柱状図	74		
第 135 図 宮内字桜田一開発予定地位置図	75		
第 136 図 岩屋堂 2 遺跡開発予定地位置図	76		
第 137 図 岩屋堂 2 遺跡調査平面図	76		
第 138 図 岩屋堂 2 遺跡 SD1 断面図	76		

図版目次

図版 1	粗柳字早稲田、岩部山東南部	1
図版 2	大仏遺跡、赤湯字玉坂山・字名子山、別所館跡・ 天朝山	2
図版 3	別所山、釜渡戸字松ヶ沢、北ノ沢山	3
図版 4	上野山、塗山字曾利橋、梨郷字寺山、宮内武道作山	4
図版 5	宮内字武道作山、宮内字開口、南須刈田遺跡	5
図版 6	大橋城跡、梨郷字大森、梨郷字神楽山下、 芹ヶ庭遺跡	6
図版 7	塗山字西寺町・字曾利橋、山居沢山、新兵衛堤	7
図版 8	新兵衛堤、宮内字高日向二、李の木遺跡、北町遺跡	8
図版 9	北町遺跡、若狭郷屋字沢見、蒲生田山古墳群	9
図版 10	中落合館跡（中落合遺跡）	10
図版 11	中落合館跡（中落合遺跡）	11
図版 12	中落合館跡（中落合遺跡）、久保遺跡、砂子田遺跡	12
図版 13	長岡山遺跡	13
図版 14	長岡山遺跡、宮内字開口	14
図版 15	高梨字谷地端	15
図版 16	粗柳字六百刈、樅ノ口遺跡	16
図版 17	樅ノ口遺跡、長岡山東遺跡、中ノ目下遺跡	17
図版 18	中ノ目下遺跡、宮内字三番縄	18
図版 19	宮内字三番縄、若狭郷屋敷跡	19
図版 20	西田遺跡、中落合道路	20
図版 21	中里遺跡（1）	21
図版 22	中里遺跡（2）、榆原遺跡、長岡字東田中	22
図版 23	郡山字六百刈、西原遺跡	23
図版 24	柄塚字前田、宮内字八幡田二、宮内字下田一、 若狭郷屋敷跡	24
図版 25	矢ノ目館跡、塗山字前田、宮内字桜田二、 開根館跡、宮内字桜田一	25
図版 26	岩屋堂2遺跡、南森館跡	26
図版 27	南森	27

南陽市遺跡分布調查報告書（5）

I 調査の概要

1 調査の目的と概要

近年は、住宅地造成と集合住宅建設が増加傾向にあり、各種開発との調整を図り遺跡の保護を図るための試掘調査及び立会調査を実施した。

本市では平成28年度現在で288箇所の遺跡を把握しているが、未調査地域も多く残されている現状である。また、発見が古く、容易に立ち入ることのできない山間部の古墳群等、情報が少ない遺跡も存在するため、遺跡台帳整備のための調査を継続して実施している。

平成28年4月から12月までの開発行為に伴う遺跡所在の有無に関する照会は計70件であった。踏査は30件、試掘調査は18件、工事立会は8件である。試掘調査は、埋蔵文化財包蔵地及びその隣接地・分布調査未実施地において実施に努めた。工事立会は、工期に余裕がない場合や工事面積が狭い場合、埋蔵文化財を破壊する恐れが少ないと判断された場合及び分布調査未実施地において実施した。

2 調査方法

(1) 踏査及び分布調査

踏査は、開発事業計画地の範囲内及びその周辺の踏査を行い、遺跡の範囲と開発予定区域の平面的な関係を確認する調査である。分布調査は、主に遺跡台帳整備のための踏査である。いずれも事前・事後に周知の資料により、地形状況や従来の報告等の内容を確認している。GPS付のカメラやスマートフォンを活用し、簡易な位置情報を記録しながら踏査した。遺跡台帳を整備し開発調整を図るために市街地に隣接する重要遺跡の測量調査を行った。

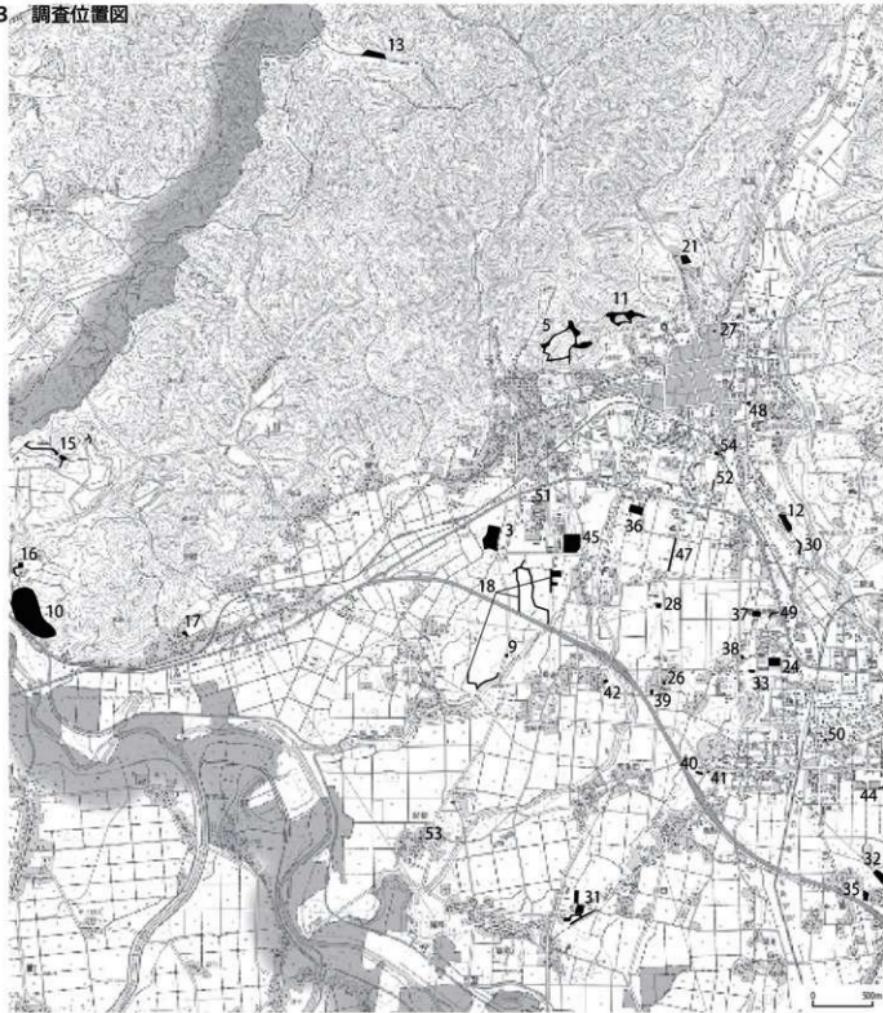
(2) 試掘調査

試掘調査は、坪堀りやトレンチ調査を行って遺構や遺物の平面的な分布範囲や遺構確認面までの深さ等を把握し、遺跡内容の把握を行う調査である。開発予定地内にグリッドを設定し、試掘溝又は試掘穴を配して人力で表土及び堆積土を除去し、遺構の有無を確認した。

(3) 立会調査

立会調査は、基本的に開発事業による遺跡への影響が軽微な場合に、工事施工に立ち会って実施し、遺構や遺物が発見された場合には記録保存を行う調査である。工事の進捗にあわせ、土工事を行う際に立ち会いを行い、遺構・遺物の確認及び土層の確認を行った。掘削深度は工事の掘底面である。遺跡未確認地の場合もできるだけ工事立ち合いを行い遺跡の把握に努めた。

3 調査位置図



<踏査>

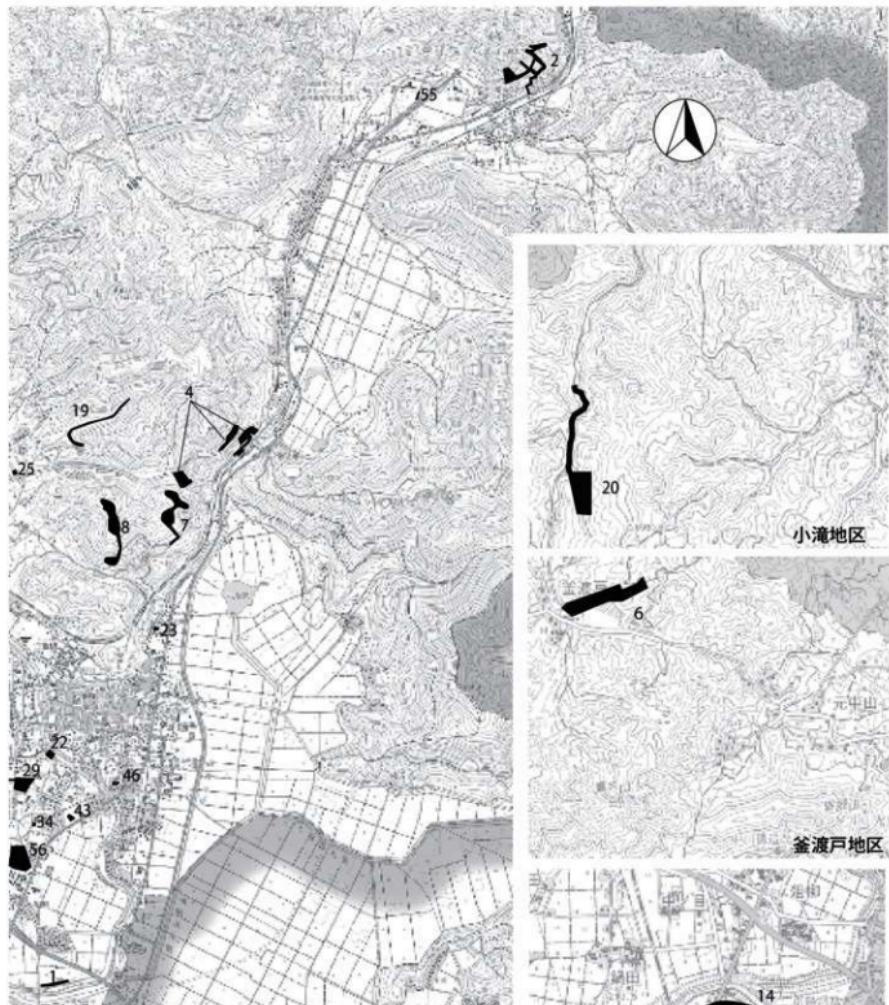
- 1 煙柳字早稻田、字掘田
- 2 岩部山館跡
- 3 大仙遺跡
- 4 赤湯字玉坂山、字名子山
- 5 別所山館跡、別所山経塚
- 6 金渡戸地区(金渡戸石採取地)
- 7 北ノ沢山遺跡
- 8 上野山山頂
- 9 漆山字曾利橋
- 10 梨郷字寺山、字櫛ヶ峰
- 11 宮内字武道作山
- 12 宮内字閑口

13 南須刈田遺跡

- 14 大橋城跡、御殿跡
- 15 梨郷字大森
- 16 梨郷字神楽山下
- 17 芹ヶ窪遺跡
- 18 漆山字東寺町・字西寺町・字曾利橋・字八ツ口
- 19 山居沢山 A・D・E 遺跡
- 20 小瀧字水林(新兵衛堤)
- 21 宮内字高日向二
- <試掘調査>
- 22 堀塚字李の木
- 23 北町遺跡

24 若狭堀屋字沢見

- 25 蒲生田山古墳群
- 26 中落合館跡(中落合遺跡)
- 27 久保遺跡
- 28 砂子田遺跡
- 29 長岡山遺跡
- 30 宮内字閑口
- 31 高梨字谷地端・字砂取場・字芦刈場
- 32 煙柳字六百刈
- 33 桶ノ口遺跡
- 34 長岡山東遺跡
- 35 中ノ目下遺跡
- 36 宮内字三番繩



- 37 若狭郷屋敷跡
38 西田遺跡
39 中落合遺跡（中落合館跡）
40 中里遺跡（1）
41 中里遺跡（2）
42 榎原遺跡
43 長岡字東田中
<立会調査>
44 郡山字六百刈
45 西原遺跡
46 樅塚字前田
47 宮内字八幡田二
48 宮内字下田一
49 若狭郷屋敷跡
50 矢ノ目館跡
51 漆山字前田
52 宮内字桜田二
53 関根館跡
54 宮内字桜田一
55 岩屋堂2遺跡
<測量調査>
56 長岡南森遺跡
(南森館跡、南森古墳推定地)



■ : 調査範囲 0 1km

第1図 調査位置図 S=1/40000

平成 28 年度埋蔵文化財分布・試掘・立会調査実施一覧 (地区別)

地区	事業名	現場調査期間	道跡名等	場所	区分	試掘結果等
赤羽	分布調査	平成 28 年 1 月 13 日	未確認	朝霞字早稻田、宇都原田	踏査	なし
	民間開発	平成 28 年 1 月 13 日	未確認	鶴塚字前田	立会	焼上あり (時代不明)、遺物なし。
	民間開発	平成 28 年 3 月 17 日	李/木道跡北側隣地	鶴塚字李ノ木	試掘	なし
	分布調査	平成 28 年 3 月 31 日	未確認	赤羽字玉坂山、字名子山	踏査	なし
	民間開発	平成 28 年 4 月 13、14 日	北町道路	赤羽字新田前	試掘	縄文早期以前の層位を確認
	分布調査	平成 28 年 4 月 15 日	北ノ沢山道路	赤羽字北ノ沢山	踏査	山頂平坦地にて須恵器片、石器を表探 (新規確認)
	分布調査	平成 28 年 4 月 15 日	上野山古墳群	赤羽字狸沢山	踏査	1、10、11 号墳の埴行残存状況確認
	分布調査	平成 28 年 4 月 19 日	金沢山ノ神道跡・七面坂古墳	赤羽字松林道下、十分一山	踏査	縄文土器、石器、土師器等表探
	民間開発	平成 28 年 4 月 21 日	浦生田山古墳群	上野字山居沢山	試掘	なし
	分布調査	平成 28 年 5 月 2 日	未確認	赤羽字狸沢山、字北ノ沢山	踏査	葛山関連と思われる振り跡多い。山頂鞍部に湿地あり (池)
公共施設整備	平成 28 年 5 月 30 日 ~ 6 月 1 日	長岡山遺跡	長岡字小生堂	試掘	縄文土器、石器等	
	分布調査	平成 28 年 6 月 15、20 日	大橋城跡、御殿跡	大橋字船ノ内他	踏査	略図作成を行なう。西側檐台跡一部残存を確認
	民間開発	平成 28 年 6 月 27、28 日	未確認	粗柳字六百刈	試掘	表土層から上師器 2 点
	分布調査	平成 28 年 7 月 1、19 日	大橋城跡、御殿跡	大橋字船ノ内他	踏査	略図作成のための現地確認
	分布調査	平成 28 年 7 月 1 日	羽州街道	赤堀鳥上坂～北町	踏査	旧街道の古道調査
	民間開発	平成 28 年 9 月 15 日	長岡山東遺跡	長岡字西田中	試掘	遺構無し。縄文土器片出土
	民間開発	平成 28 年 9 月 30 日	未確認	鶴塚字前田	立会	遺構、遺物なし
	農林事業	平成 28 年 10 月 18 日	山居沢山 A 道跡、E 道跡	上野字山居沢山	踏査	灰原の可能性を 2 地點で確認
	農林事業	平成 28 年 10 月 26 日	山居沢山 A 道跡、C 道跡、E 道跡	上野字山居沢山	踏査	A 道跡と C 道跡の間で須恵器出土地点を再確認。A 道跡範囲修正。
	下水道整備	平成 28 年 11 月 2 日	長岡山東遺跡	長岡字西田	立会	遺構・遺物なし
中川	分布調査	平成 28 年 12 月 1 日	長岡山森道跡	長岡字南森地	測量	測量調査、古跡・範囲
	民間開発	平成 28 年 12 月 15 日	未確認	長岡字東田中	試掘	遺物・遺構なし
	分布調査	平成 28 年 3 月 10 日	諏訪原 C 道跡、笠置ノ石産出地	元中山字諏訪原～笠置ノ石産出地	踏査	笠置ノ石を確認
	分布調査	平成 28 年 3 月 10 日	引瀬山崩跡	川穂字岩門山	踏査	横幅・土壌状の遺構を確認
	分布調査	平成 28 年 4 月 11 日	笠置ノ石採取地	笠置ノ石松ヶケ、字松ヶケ	踏査	日臨庁の石材採取地点を確認
市道整備事業	平成 28 年 11 月 28 日	岩屋堂 2 道跡	川穂字岩屋堂二	立会	溝跡、土師器出土	
	平成 29 年 1 月 18 日					
沖縄	下水道整備	平成 28 年 1 月 8 日 ~ 2 月	早稲田遺跡隣地	郡山字六百刈、字塙田	立会	溝跡
		16、6 月 13、14 日				
	民間開発	平成 28 年 4 月 18、19 日	見沢遺跡隣地	若狭郷屋字沢見	試掘	旧表土から須恵器片、遺構なし
	民間開発	平成 28 年 4 月 26、27 日	中落合館跡	中落合字宅地	試掘	平安時代の柱穴等を検出。上師器・須恵器出土
	民間開発	平成 28 年 5 月 10 日	開根崩跡	開根字屋敷	踏査	なし。
	民間開発	平成 28 年 6 月 24 日	未確認	高梨字砂取場、字谷地端	試掘	なし
	下水道整備	平成 28 年 8 月 9 日	若狭郷屋屋敷跡	若狭郷屋字浦城	立会	ピット 1、土師器片 1 点を確認
		~ 23 日				
	民間開発	平成 28 年 9 月 8 日	種ノ口道跡	若狭郷屋字玉ノ木	試掘	遺構無し。土師器片出土
	民間開発	平成 28 年 9 月 16 日	中ノ口下道跡	中ノ口字御ノ木浦	試掘	遺構、遺物なし
那覇	民間開発	平成 28 年 9 月 23 日	矢ノ口崩跡	郡山字角一	立会	遺構、遺物なし
	民間開発	平成 28 年 10 月 13 日	若狭郷屋屋敷跡	若狭郷屋字浦城	試掘	遺構、遺物なし
	民間開発	平成 28 年 10 月 13 日	西田遺跡	若狭郷屋字崩城	試掘	立穴住居 1 棟、土師器・須恵器出土
	民間開発	平成 28 年 10 月 24 日	中落合道跡	中落合字宅地	試掘	遺構、遺物なし
	民間開発	平成 28 年 11 月 14 日	中里遺跡	高梨字中里	試掘	2 地点試掘、須恵器・土師器、土壤
	民間開発	平成 28 年 11 月 16 日	袖原遺跡	西落合字東原	試掘	溝跡、中世陶器出土
	公共施設整備	平成 28 年 11 月 8、10 日	開根崩跡	開根字屋敷	立会	遺構・遺物なし。
		平成 29 年 1 月 4 日				本丸跡の周辺地帯の確認
	分布調査	平成 28 年 4 月 23 日	ヌケッポ道跡	梨郷字白山	踏査	石製耳飾り、石器・土器を表探
	分布調査	平成 28 年 5 月 6 日	未確認	梨郷字寺山、郷ヶ峰	踏査	なし
宮内	分布調査	平成 28 年 7 月 20 日	未確認	梨郷字平野字大森	踏査	なし
	分布調査	平成 28 年 8 月 26 日	梨郷古墳群	梨郷字神楽山下	踏査	須恵器片の散布を確認
	分布調査	平成 28 年 8 月 26 日	片ケ瀬道跡	梨郷字片ケ瀬	踏査	縄文土器片を確認 (新規確認)
	市道整備事業	平成 28 年 1 月 13 日 ~ 2 月 8 日	未確認	宮内字八幡田二	立会	溝跡
	分布調査	平成 28 年 5 月 6 日	未確認	宮内字武道作山	踏査	時代不明のテラス・平坦面あり
	民間開発	平成 28 年 5 月 9 日	未確認	宮内字開口	踏査	なし
民間開発	民間開発	平成 28 年 5 月 17 日	久保道跡	宮内字柳町二	試掘	縄文土器片。(遺跡範囲拡大)
	民間開発	平成 28 年 5 月 27 日	砂子田遺跡	宮内字砂子田	試掘	ピット、須恵器・土師器片少量 (新規確認)

平成 28 年度埋蔵文化財分布・試掘・立会調査実施一覧（地区別）

地区	事業名	現場調査期間	遺跡名等	場所	区分	試掘結果等
宮内	市道整備事業	平成 28 年 6 月 2 日	觀音堂跡	宮内字圓日四、圓日六	試掘	なし
	民間開発	平成 28 年 6 月 10 日	未確認	宮内字下田一	立会	江戸時代の貨幣（米沢藩鉄銭等）出土。
	民間開発	平成 28 年 10 月 4 日	未確認	宮内字二番地	試掘	溝跡あり、遺物なし
	市道整備事業	平成 28 年 11 月 8 日	清水上道路隣地	宮内字板田二	立会	溝跡あり、遺物なし
金山	分布調査	平成 28 年 11 月 11 日	未確認	宮内字高日向二	踏査	土師器、陶器表様
	民間開発	平成 28 年 11 月 28 日	桜田道路隣地	宮内字板田一	立会	なし
	民間開発	平成 28 年 5 月 25 日	未確認	金山字南沢	踏査	なし
漆山	分布調査	平成 28 年 7 月 22 日	金山地区城郭群	金山字寺清水	踏査	廃寺跡推定地
	民間開発	平成 28 年 1 月 12 日	西原遺跡	漆山字西原	立会	耕作土除去後立会、堅穴住居を 3 種確認
	分布調査	平成 28 年 3 月 11 日	大仏遺跡	漆山字大仏二	踏査	須恵器等、大仏道路が北に広がることを確認
別所	分布調査	平成 28 年 4 月 6 日	別所山跡跡、別所山跡塚	池黒字上ノ平（上ノ平山）～宮内字別所山（別所山）	踏査	館跡、絆塚出土推定地の確認。天朝山南尾根に時代不明のテラス帯あり。
	民間開発	平成 28 年 5 月 6 日	未確認	漆山字曾利橋	踏査	なし
	分布調査	平成 28 年 5 月 25 日	世子平遺跡	漆山字世子平、焼平	踏査	石器片
吉野	分布調査	平成 28 年 6 月 8、30 日	南須畠田道路	漆山字南須畠田	踏査	円形塚を確認、絆塚とみられる。（新規確認）
	分布調査	平成 28 年 9 月 7 日	未確認	漆山字東寺町・西寺町	踏査	近世の植跡片 2 点、不明土製品 1 点
	民間開発	平成 28 年 9 月 23 日	未確認	漆山字前田	立会	遺構、遺物なし
森林事業	古野	平成 28 年 10 月 28 日	新兵衛堤	小瀬字水林	踏査	破壊工事に伴う確認。近世堤

調査者 角田朋行 鈴木輝生

II 遺跡台帳・遺跡地図整備に係る分布調査（踏査）

1 祖柳字早稲田、字掘田

(1) 調査日 平成28年1月13日

(2) 調査場所 南陽市祖柳字早稲田、字掘田

(3) 調査目的

対象地は、遺跡の有無未確認地である。高畠町押出遺跡は本市との境に位置することから、本市側の微高地帯における遺跡有無の確認が必要である。押出遺跡の西に位置する吉野川の堤防斜面を広範囲に確認できる状況を把握したことから踏査を行う。

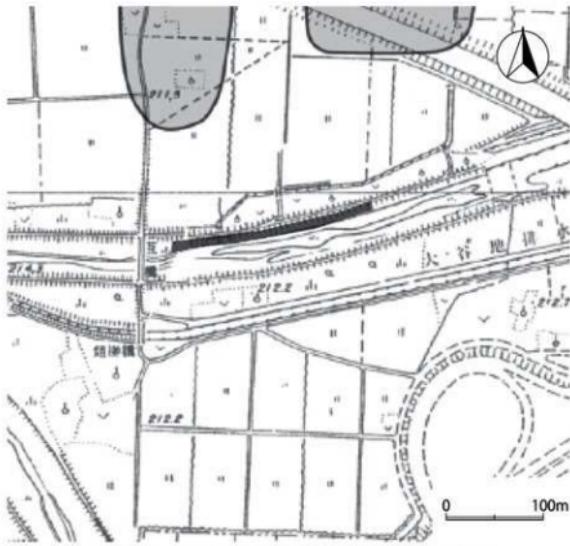
(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査した。調査は、堤防に沿って堤防盛土下の土層を水平方向に踏査し、遺跡の有無を確認した。

(5) 調査結果

吉野川の堤防斜面の表面が削れ、土層が露出している範囲について、堤防土手斜面を水平方向に踏査し、遺跡の有無を確認した。今次調査地の東端は、押出遺跡第4次調査区の南端から西へ約750mの地点となる。

堤防下土層の中位には特徴的な黒褐色粘土層がみられ、その直下の土層は灰色味を帯びた暗褐色粘土層から灰褐色粘土層、灰色粘土層へと推移する。これらの層位は、押出遺跡の第4・5次発掘調査における基本層序と近似すると思われる。いずれの層位、地点でも遺物・遺構は確認できなかったことから当該範囲に遺跡がある可能性は低いと思われる。今後も周辺において遺跡確認を進める必要がある。



第2図 祖柳字早稲田・字掘田踏査範囲図 S=1/5000

2 岩部山館跡（岩部山東南部）

- (1) 調査日 平成 28 年 3 月 10 日
- (2) 調査場所 南陽市川樋字岩部山
- (3) 調査目的

対象地は、岩部山館跡本丸の東南部斜面に位置する。岩部山岩陰遺跡の範囲の広がりや城館址遺構を確認するため踏査する。また、近代に川樋石の名称で知られ、建築用石材として用いられた凝灰岩の石切場分布状況を近代産業遺跡の観点から把握する。

(4) 調査方法及び内容

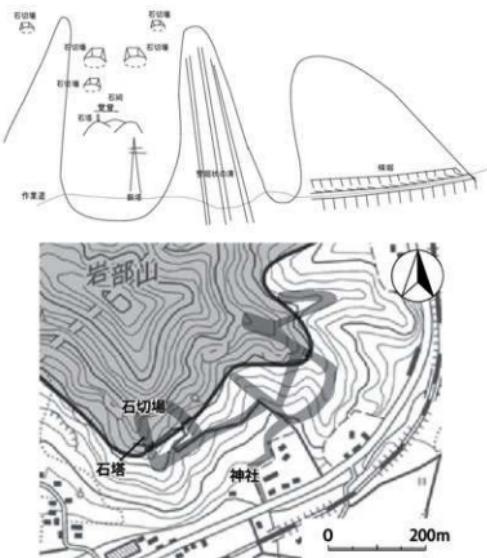
写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 調査結果

岩部山南側山裾の山崎神社北側の谷地形内には、長方形の石材が野積みされており、石材の搬出路及び集積施設があったものと思われる。この谷の東側にある尾根沿いに巨石が点在する。巨石は標高約 460 m と高い位置にあり、岩陰となるような石庇等は発達していない。踏査では岩陰遺跡は確認できなかった。この尾根のさらに東側、岩部山館跡本丸から東南に延びる枝尾根を踏査した。尾根頂は平坦で北方位の元中山方向（中山城方向）への眺望が良く、尾根端からは南西（小岩沢方向）への眺望も良いことから、現在は城館址の範囲に含まれていないが、物見等に使用された可能性はある。

山崎神社北側谷から、東北電力鉄塔保守用の作業道を西に踏査した。電力鉄塔の東側の比較的緩斜面の谷地形部に横堀状の溝と土壌状の掘り残しがあり、作業道はその土壌状の高まりの上を東西に走っている。当該溝や土壌は石切場関連遺構の可能性があるが、城館関連の遺構である可能性も残る。

さらにこの横堀の西端となる小尾根の西側に、畝堀状に 3 本の縦溝が走っている。溝底は中央の溝が一番深く、左右 2 本は浅い。石切場からの石の切り出しに係る施設跡と思われる。鉄塔上方の斜面には岩が露出しており、その岩崖上に奥羽石材商会銘のある大正 11 年銘石柱（常灯塔か）があり、その上方に 2 つの石祠が祀られている。石祠中には文政年間の奉納板が見られ、この石祠の北側に少なくとも 5 箇所の石切場があることが確認できた。



第3図 岩部山南部踏査範囲図 S=1/10000

3 大仏遺跡

(1) 調査日 平成 28 年 3 月 11 日

(2) 調査場所 南陽市漆山字大仏二

(3) 調査目的

対象地は、大仏遺跡の隣地である。現在確認されている遺跡範囲の北側にも自然堤防が切れ目なく続いていることから、大仏遺跡の範囲を確認するため踏査する。

(4) 調査方法及び内容

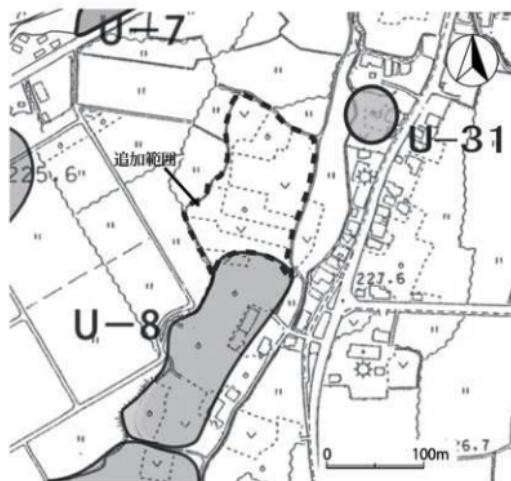
写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 調査結果

周知の大仏遺跡の北側に続く自然堤防上の広い範囲で土器片及び石器片を表採した。大仏遺跡は自然堤防全体に広がっていることが確認された。土器は、土師器・須恵器のほか縄文土器とみられる破片を含む。周知の大仏遺跡の範囲では渦文の施された弥生中期の土器片を表採していることから、縄文～平安時代まで続く複合遺跡であると思われる。



大仏遺跡表採遺物



第4図 大仏遺跡追加範囲図 S=1/5000

4 赤湯字玉坂山、字名子山

(1) 調査日 平成 28 年 3 月 31 日

(2) 調査場所 南陽市赤湯字玉坂山、字名子山

(3) 調査目的

対象地は遺跡の有無確認地である。町報あかゆ第 72 号（昭和 37 年 9 月 1 日）における新田地区的紹介にて「エゾ穴が 1 ケ所残っている」との記述があることから、古墳の所在地を確認するための踏査を行う。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。新田地区と赤湯地区の境付近を踏査する。

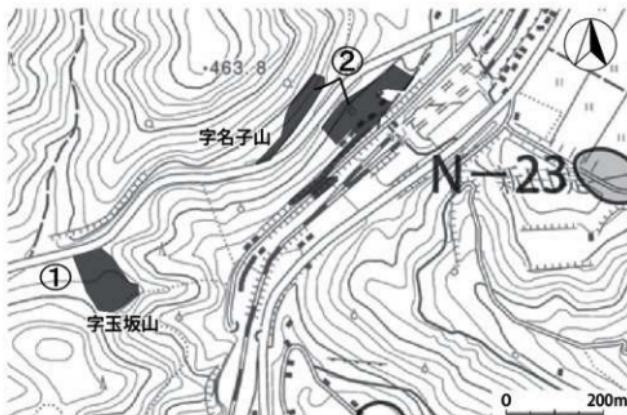
(5) 調査結果

①字玉坂山

農免道の峠付近にある水道施設から南側の山地を踏査した。遺構等は確認できなかった。後日、玉坂山東南方向の尾根を下った付近に古墳があったという情報を聞き取りした。今後確認が必要と思われる。

②字名子山

字名子山について、農免道路より上斜面の荒廃園地を踏査。山の中腹付近まで旧果樹園に伴うとみられる石垣跡が残り、岩が散在している。山の頂上側には斜面を切り崩した跡が見られるが、古墳やその残存と思われるような石は見られない。山を JR 線路側に下り、葡萄園の地権者から聞き取りを行う。「字名子山の葡萄園から頂上までは古墳があると聞いたことはないが、葡萄園上方の山の斜面では、かつて JR の線路をつくるために石を掘削していた。さらに山頂から西側には鉱山と思われる溝跡がいくつも見られる。」とのことである。また、「鳥上坂の東西尾根端付近の少し窪んだ所にはかつて鉱山跡（入口から奥まで約 50 m）があり、クレー射撃場側や金沢方面にも坑道があった。」とのこと。許可をもらい東南斜面に広がる葡萄園内を踏査したが、古墳や遺物等は確認できなかった。このことから、この斜面一帯に見られる岩々は、線路工事の際に掘りだされた石材の残りと思われる。今次踏査地に遺跡は無いと思われ、今後新田地区側を調査する必要がある。



第 5 図 赤湯字玉坂山・字名子山踏査範囲図 S=1/10000

5 別所館跡・別所山経塚（上ノ平山～別所山）

(1) 調査日 平成 28 年 4 月 6 日

(2) 調査場所 南陽市池黒字上ノ平うわのだいら（通称：上ノ平山）、宮内字別所山べっしょやま（通称：別所山）

(3) 調査目的

別所山からは、明治時代に保延 6 年銘別所山経筒が出土し、現在は東京国立博物館に所蔵されているが、その出土地点として、「池黒羽黒山経塚」（県 NO-061）と「別所山経塚」（県 NO-093）の 2 地点が重複して遺跡登録されており、混乱が見られることから遺跡台帳整理のため調査する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行ながら踏査する。池黒の山々は、地元でも人によって呼び名が異なり、従来の文献に混乱が見られる。上ノ平山は、別名羽黒山や池黒山と言う。別所山は、別名宮内天神山と称され、さらに宮内分を宮内別所山、池黒分を池黒別所山とも言う。本報告では、池黒の神明神社北西側に位置する山を上ノ平山、同神社の北東側に位置する山を別所山、上ノ平山・別所山の北側に位置する山を天朝山てんじょうざん（文献によっては天頂山、天長山とも記される）として報告する。

(5) 調査結果

既存の遺跡台帳では「池黒羽黒山経塚」と「別所山経塚」の内容は同一で、保延 6 年銘経筒出土となっている。『宮内町の文化財』（昭和 40 年）では、別所山（宮内字別所山 4318 番地の 2）を出土地点と推定、現在その付近に記念碑が建てられている。南陽市史では、出土地を 4318 番地の 51 としている。

平成 15 年度には市教委による踏査が実施されており、昭和 40 年調査にも参加した地権者に現地を案内していただいている。地権者聞き取りとして「経筒は段々畑（桑畑）の最も西奥で、畑の南側（山の北側斜面下方）にある山道が折り返す地点に栗の木を植栽している最中に出土し、その地点の脇には杉の木があった。また、別所山経筒の出土地が面する谷の下流方向、別所山の東山麓を通称“仏の前”と呼び、谷開口部の扇状地形を“仏のろく（麓）”、谷の正面（東側）に見える山（枝尾根）を“仏の山”と呼ぶ。」と記録され、出土地点は宮内別所山の北側斜面下方であると推定した。地番は宮内字別所山 4318 番地の 45 内と思われるが、調査当時、現地は既に山林化しており、地権者の記憶にも曖昧さが残ることから候補地の一つとして考える必要がある。東京国立博物館の記録では、出土地は「東に仏山をのぞむ」と記されているという。

これらの諸調査から、別所山経塚の出土地点は別所山北側で仏山が目視できる位置であると思われるが、上ノ平山にこれとは別に経塚があるのかどうか確認するため上ノ平山から別所山を踏査した。旧遺跡台帳や市史では、「羽黒山山頂南部から鉄刀（蕨手刀）数振（二振）とともに出土した」と記載されており、むしろ終末期古墳が存在した可能性がある。

池黒の神明神社（皇大神社）から調査を開始。神社石段脇には塚状の墳墓地がある。手水場付近で近世瓦片を採集した。社殿から西側に続く山道を登り上ノ平山山頂の別所館跡へ至る。山頂周囲には中世城館址に伴う帶曲輪が見られる。山頂平坦部の南西端には土壘に接続した直径 10 m 程の櫓台と思われる高台があり、これを経塚とした可能性がある。高台の法面は急峻で切岸状を成しており土壘から連続することから、経塚ではなく、現況からは城郭遺構と考えられる。平坦地の北端には羽黒神社の石碑が建ち、その背後の北斜

面に3本の横堀が巡る。なお、上ノ平山山頂は戦中に砲撃訓練場として利用されている。

羽黒神社石碑から北へ山道を下り、鞍部を通り再び山を登ると、鞍部の谷を挟んだ東側の西向き斜面（天朝山の南側枝尾根）にも複数の帶曲輪状のテラスが巡ることを確認した。枝尾根頂は平坦である。尾根北端は自然の山地形の急傾斜に変わる。平坦面の南端付近では、西側と南側の斜面に数段の帶曲輪状のテラス帯が存在する。堀切や土塁は確認できない。このテラス群の性格は不明であるが、農耕地としては標高が高いことから、中世城館址の可能性も考える必要がある。

尾根を下り、南側の鞍部を経て別所山に至る。別所山の尾根はなだらかであるがやや起伏があり東西方向に長い。別所山山頂には城館址はないと思われる。

別所山の尾根東側で周囲にテラス帯を有する直径8m程の円形塹状の隆起地形を確認した。マウンドの高さは約50cm～80cmと低平で、マウンド中央に直径1m、深さ80cm程度の窪み（盜掘穴）がある。さらにこの円形塹状の隆起地形の西側に接して長さ5.6m×幅4.7mの低平な方形壇状の隆起があり、西端を周塙に溝が切っている。古墳や経塹に類する宗教的土壇等の可能性がある。

池黒上ノ平山には経塹と思われる遺構ではなく、保延6年銘経筒出土土地は別所山であると考えられることから、「池黒羽黒山経塹」は削除が必要であろう。



第6図 上ノ平山及び別所山踏査範囲図
S=1/5000



第7図 別所山経筒出土候補位置図 S=1/3000

6 釜渡戸地区（釜渡戸石採取地）

- (1) 調査日 平成 28年 3月 10日・4月 11日（現地調査）、12月 22日（資料調査）
(2) 調査場所 南陽市釜渡戸字松ヶ沢、字松ヶ沢山、字祖父沢二
(3) 調査目的

遺跡分布調査未実施地区につき、遺跡台帳整備のため地表面踏査を実施する。また、釜渡戸地区は、大正 5年に建てられた国指定重要文化財「山形県旧県庁舎及び県会議事堂」（現在の文翔館）に使われている石材「釜渡戸石」を産出した地であるが、石の採取場が不明であることから、併せて近代産業遺跡としての調査を行う。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 調査結果

①第一回踏査（3月 10日）

釜渡戸地区は中央を走る県道原中川停車場線で南北に分かれる。道路北側では現在も採石場が操業しているが道路南側の開発は終了し平坦になっている。釜渡戸石産出地について地元の方に聞いたところ、「釜渡戸石は主に道路南側で砂質の土層内に巨石が石塊として含まれているものを採取していた」という。そのため、いわゆる石切場のようなものではないとのこと。釜渡戸石は峠を越えた金山側でも産出し、北方の山（大森山付近）は小金万分と称し、金が採れたと聞いている。」とのこと。

②第二回踏査（4月 11日）

旧県庁工事の契約文書に釜渡戸石の産地として「釜渡戸松ヶ沢」との記載があることが判明したため、税務課所管の釜渡戸地区字限図を確認後に現地を踏査した。字限図（全図）では、釜渡戸地区には字松ヶ沢と字松ヶ沢山が存在している。

字松ヶ沢は西向きの谷地形である。谷の北側が松ヶ沢山、南側が祖父ヶ沢山となる。農道沿いに谷を上流方向（東方向）へ踏査する。谷入口付近では祖父ヶ沢山斜面の標高の高い位置に花崗岩の石塊が見られる。谷内には直径約 1 m の花崗岩が点在し、上流に花崗岩を産する地層があることが窺える。谷は上流まで段々畑状で農道には所々花崗岩が軟弱地盤の舗装材として使用されている。谷奥でやや広いテラスとなる荒廃園地に出る。その西斜面には花崗岩の大石が數個埋没しており、農道脇の沢にも花崗岩が散見される。谷が開けていることから、石材を掘り出した産出地点である可能性があるため周辺を踏査すると、農道脇の石塊に石を割るために矢を叩きいれる矢穴列がある岩を確認した。石材加工痕は石材産出地を判断するうえで重要な情報である。位置は、簡易 GPS データでは 38.114708、140.180954 で、標高は約 425 m である。なお字松ヶ沢山の斜面には掘削跡は特に見られない。

さらに奥の字祖父沢二を踏査したが、上流には地層に花崗岩が見られず、花崗岩を含む層の上位層にあたると思われる。上流の地層は花崗岩を含まないことや谷入口付近では花崗岩の石の大きさが小さいことなどから、標高約 420 m 前後に大きい花崗岩の石塊を含んだ地層があると考えられる。移動して字吹畠山を中心に現在も山砂を探掘している採石場の切り崩した崖面を敷地外から観察した。採石場は、現在、山を半分断ち割った状況で地層が良く見えており、切り崩した山の底辺付近（標高 420 ~ 430m）に花崗岩の岩塊が地層に混ざっていることが確認できる。元々の山の形からすれば、この岩塊はかなり深い位置にあり、道路北側には花崗岩の露頭がないという地元の情報は、 13

地表に近いところに露頭がないことを示していると思われる。道路南側は地形的に石を採取しやすく道路に近いため長期的な主要採取地になったと思われる。現在の採石場で見られる花崗岩を含む地層は、先に確認した字松ヶ沢の奥のテラスと標高がほぼ一致する。松ヶ沢は谷のため花崗岩を含む地層が地表面に近く、石が採取可能であったが、搬出に労力が必要となることから採取時期が限定的であったとも考えられる。また、字松ヶ沢のテラス付近は等高線間隔が広く、石材の掘り出しで斜面が削られた結果とも考えられる。これらのことから字松ヶ沢の谷奥が旧山形県庁の主要石材産出地点と考えられ、その地番は南陽市釜渡戸字松ヶ沢 4407、4381～4385、4387、4388 付近である。

③資料調査（旧県庁正面の門柱石材産出地について）

昭和 51 年中川老人クラブ誌及び加藤和男氏の話（中川地区文化財協力員渡邊氏記録）によれば、「松ヶ沢から採取された石は、元中山地区との境の峠まで道路に線路を設いてトロッコで運搬し、峠からの下り坂は土樋で花窪地区まで運び、花窪から中川停車場までは馬車で運んだと言う。門柱の石は特に大きく、釜渡戸の字大下にあった名石「大石」と金山から採石された石の計 2 本を、雪上を樋を使って 10 数名で 3 日がかりで金山の原まで運び、原からは馬車で駅まで運んだ。旧県庁の土台石は、縦 3 尺・横 2 尺・高 1 尺の大きさで 40,718 枚、釜渡戸には石工者 30 名程と工事関係者 100 名以上が入り、1 年以上採石したと聞く。当時は沢沿いに 2 ～ 3 m 前後の転石が至る所にあり、それも採取した。当時の地区の石の売上高は 200 ～ 300 円だったと言う。」とのことである。また、昭和 51 年金山高砂会の『やすらぎ第 4 号』に金山地区で実際に石材運搬に参加した渡部栄氏の回顧録があることを確認した。それによれば、「旧県庁舎の正面玄関の両側の丸柱石（バルコニーを支える石）で二本共荒採りの二尺五寸四面に十二尺という長物で全石材中の大物でした。それが我が金山の萱ノ入山から割り採った物です。今でも跡が残って居ます。」とある。萱ノ入山は釜渡戸字裏山の西方、釜渡戸と金山の原の間に位置する山である。両地区的記録から旧県庁の丸柱石の産出地は、釜渡戸字大下と金山字萱ノ入山（萱ノ入山十二・十三付近か）の 2 箇所であることが明らかとなった。



7 北ノ沢山遺跡

(1) 調査日 平成28年4月15日

(2) 調査場所 南陽市赤湯字北ノ沢山

(3) 調查目的

対象地は、上野山古墳群大沢山支群の北側に位置する山である。遺跡の分布調査未実施のため踏査する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

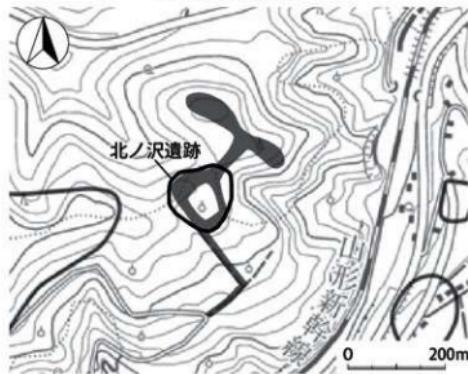
(5) 調查結果

北ノ沢山の尾根はなだらかで平坦地が広がっており、現在は主に葡萄園となっている。東から登る農道が尾根平坦面に達した付近で壺蓋等の須恵器片と石器剥片の散布を確認した。上野山古墳群大沢山支群の範囲が当該地まで広がるとも考えられるが、遺跡は山頂の広い平坦地に位置しており、居住可能な広さがあることや石器剥片も存在すること、古墳構造材となる大きな石が現況では見当たらないことなどから、古墳群とは別に北ノ沢山遺跡として新規登録することが妥当と思われる。

さらに北ノ沢山の北端方向の山中を踏査。北端の尾根頂はほぼ平坦であるが、当該尾根の南端方向には、斜面の途中に堀切や切通しを思わせるような溝が掘られ、溝内に3つの大縦穴が穿たれている。溝は鉱山関係の掘削跡と思われる。尾根西端方向、山頂の北側斜面にも2つの掘削跡が残り、これも同様の鉱山跡（試掘跡）と思われる。



北ノ沢遺跡表採遺物



第9図 北ノ沢山遺跡踏査範囲図 S= 1/10000

8 上野山山頂

(1) 調査日 平成28年5月2日

(2) 調査場所 南陽市赤湯字狸沢山、字北ノ沢山（上野山山頂）

(3) 調査目的

対象地の上野山の南～東斜半には上野山古墳群が分布する。上野山古墳群の範囲を確認するため、遺跡の分布調査が未実施である山頂周辺について踏査を行う。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

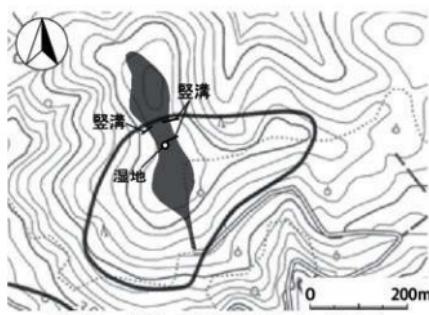
(5) 調査結果

農道の行き止まり地点から北へ山を登る。山頂東端には大きな岩がいくつか存在しており、これらの岩の下からは弥生土器が出土したと伝えられている。今回はこれら周知の遺跡範囲よりも西側の尾根頂について踏査した。尾根頂は広く平坦になっており、南半と北半は小高くなっている。東西方向に長い尾根頂の中間地点付近に直径10m程度の池状の湿地があり、そこから溝が北斜面方向に伸びている。この山頂の湿地は鉱山に由来する人工的なため池跡の可能性もある。さらに湿地の西側には豊堀と思わせるような溝が北側斜面に向って掘られている。

尾根西半は小高くなっているが概ね平坦で、西斜面には高さ50cm程度の段差となっている人工的な切土地形があるが、城館址に関連するような遺構とは考えにくい。尾根の北側斜面には鉱山の露頭掘跡が散見される。尾根西半の南側の一段低い平坦な緩斜面の肩部から尾根東半の南側にかけて数多くの露頭掘跡が見受けられることから、これら山頂の遺構群は、鉱山関係の可能性が高いと考えられる。

露頭掘跡が斜面に穿たれる場合はその下方にズリ山が生じていることが多く、ズリ山は一見すると古墳の墳丘に見間違えやすい。古墳群の場合はマウンドの山側にマウンドと山を切離すように周塙または一定のテラスが見られる場合が多いが、ズリ山の場合は山側の切り離しが曖昧で、なおかつ山側にU字又はV字断面の窪地を有する傾向がある。

上野山尾根頂は南半が遺跡範囲に入っているが、尾根の西半には古墳や城館址の可能性がある地点は確認されず、広範囲で鉱山関連遺構（露頭掘跡・試掘掘跡）が確認される状況にある。



第10図 上野山山頂踏査範囲図 S=1/10000

9 漆山字曾利橋

- (1) 調査日 平成28年5月6日
- (2) 調査場所 南陽市漆山字曾利橋
- (3) 調査目的

対象地は遺跡分布調査の未実施地である。農産物の直売所設置工事の計画があることから分布調査を行う。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 調査結果

開発予定地は、織機川右岸の畠地で自然堤防の微高地となっている。対象地及びその周辺を踏査したが、遺物は確認されなかった。遺跡は無いものと思われる。



第11図 漆山字曾利橋踏査範囲図 S=1/3000

10 梨郷字寺山・字櫛ヶ峰

(1) 調査日 平成 28 年 5 月 6 日

(2) 調査場所 南陽市梨郷字寺山、字櫛ヶ峰（通称「寺山」）

(3) 調査目的

対象地は分布調査未実施地である。対象地北側には平野古窯跡があり、東側の谷を挟んだ尾根には経塚山古墳群が立地することから、遺跡台帳整備のため字寺山から字櫛ヶ峰の尾根を踏査し、古墳群や中世城館址等、遺跡の有無確認を行う。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行ながら踏査する。

(5) 調査結果

寺山の南西斜面にある神社境内を踏査。遺物などは確認できない。次に山の北に位置する平野古窯跡から踏査、西側から山へ登る。山の北東側には小さな谷がいくつかあり、窯跡等がある可能性があるが笹藪のため地表面が見えず確認できない。

山の尾根に達してから南端まで踏査し、折り返して北端に至り、北斜面を降り途中で西方向へ山裾の斜面を踏査した。

山頂は平坦で起伏は殆どなく、マウンドや古墳状の隆起地形は見られず、中世城館的な遺構も確認できなかった。同様に東斜面、北斜面ともにマウンドや窪地形等は確認できなかった。南西斜面は急傾斜のため踏査しなかった。字名が寺山であることから山頂平坦地に寺院跡等が存在する可能性はある。

今次踏査した寺山と経塚山の間にある広い窪地である通称「大窪の古屋敷」には、かつて建高寺があったが享保 11 年に火災に遭い現在地に移転したという。建高寺には大窪から移築したという南北朝時代中頃の板碑があることから、大窪には中世の寺院遺構があるものと考えられるが、今次は大窪の踏査はできなかった。



第 12 図 梨郷字寺山・字櫛ヶ峰踏査範囲図 S=1/5000

11 宮内字武道作山

- (1) 調査日 平成28年5月6日
(2) 調査場所 南陽市宮内字武道作山
(3) 調査目的

対象地は、分布調査未実施地である。東側の谷を挟んで中世城館址である南館跡が立地し、西側の山地には別所山経塚が立地していることから、武道作山を中心に踏査し、遺跡の把握に努める。

(4) 調査方法及び内容

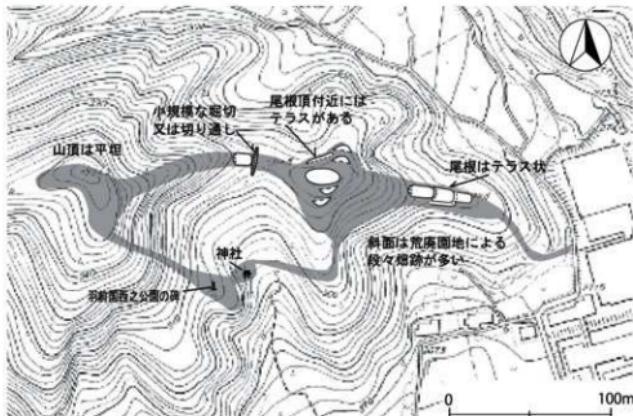
写真撮影を行ながら踏査する。

(5) 調査結果

宮内の武道作山や熊野山には、前九年の役の際に源氏が陣城を築いたという伝承が残る。市ふれあいの丘公園から踏査を開始し、対象である山の東南端から登る。山は東南に尾根が延びており、斜面は尾根頂まで段々畠状の荒廃園地である。東南端の尾根頂には果樹園として利用されていたとみられる平坦なテラスが数段つくられている。

さらに西へ急な斜面を登った先に尾根頂があり、尾根頂は平坦で見晴らしが良く北側と南側に曲輪状のテラス（段々畠跡か）がある。尾根頂西側の鞍部西端には堀切又は切り通し状の溝があり、尾根を切っている。溝は幅3m程度で埋没が進んでいる。溝を越えて西へ登ると武道作山の山頂に至る。

武道作山の山頂は平坦で南側にも一段低い平坦面がある。その南～東斜面にも帯状のテラスが散見される。山頂から南東方向に下ると、途中枝尾根があり平坦になっており、「羽前国西之公園」と刻まれた石碑が1基建っている。石碑左側に「粟野・・」と刻まれているように読めるが年号は無く由来は不明である。この石碑の東側、一段低いテラスに稲荷神社が祀られている。武道作山は、堀切形状の溝や山頂を囲むテラス帯等から城館関係の遺構があった可能性もあるものの、段々畠状の荒廃園地が尾根まで達しており、神社の造成や公園の計画があったことが窺える石碑があるなど後世の改変が著しいと考えられ、現況では城館址かどうか判断は難しい。継続調査を要する。



第13図 宮内字武道作山踏査範囲図 S=1/3000

12 宮内字閑口（観音堂遺跡隣地）

(1) 調査日 平成 28 年 5 月 9 日

(2) 調査場所 南陽市宮内字閑口

(3) 調査目的

対象地は、観音堂遺跡の隣地である。自動車学校移転予定があることから平成 27 年度に低地部分を中心に踏査を実施。今次対象地である西側微高地については、果樹園地であったため、立ち入り可能となった時期に調査することとしていたものである。果樹園立木除去後に踏査し、遺跡の有無を調査する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 調査結果

対象地は吉野川右岸の自然堤防東辺にあたる。立木伐採と抜根作業により数m間隔で土が掘り返されているが、掘削地点及び周辺地表面で遺物は確認されなかった。

前回及び今次踏査でも遺物は確認できなかったことから、対象地内に遺跡は無く、観音堂遺跡の範囲に変更は無いと思われる。



第 14 図 宮内字閑口踏査範囲図 S= 1/3000

13 南須刈田遺跡（南須刈田経塚）

(1) 調査日 平成 28 年 6 月 8 日、6 月 30 日

(2) 調査場所 南陽市漆山字南須刈田みなみすかりだ

(3) 調査目的

対象地は、平成 6 年度に市民から遺物の表探情報がよせられていた地点であるが、当時は発見場所が不明確で現地確認できなかったことから、遺跡台帳整備のため、遺跡の位置の確認と立地状況等を把握することを目的に踏査する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。8 日の踏査で塚状遺構が新規確認されたことから、30 日に平面図作成と上下水道課保有の金属探知機で石廓内部の調査を行う。

(5) 調査結果

① 6 月 8 日調査

対象地は、漆山の大野平遺跡や小須刈田遺跡の東方に位置し、大野平遺跡の立地する扇状地と反対方向に流れる谷川沿いに小須刈田遺跡と南須刈田遺跡が立地する。南須刈田遺跡からは、これまで縄文時代の石器剥片が数十点採集されている。

大野平遺跡を通過し山道を東へ向うと、かつての外沢集落に向う山道との分岐点に至る（石標有り）。この分岐点の小規模な平坦地が小須刈田遺跡である。分岐点からさらに東に進むと南須刈田遺跡に至る。遺跡は谷地形（旧水田）に面した東向きの小規模な緩斜面に立地している。現況は山林及び荒廃園地となり、地表面が見えず遺物は確認できなかったが、環境的に大野平遺跡に類似し、小規模な集落遺跡がある可能性もある。

南須刈田遺跡の中を通る山道の山側（北側）の斜面上、谷地形の内側に、周塙をともなう小円形塚を新規に確認した。塚は頂上から竪穴が穿たれ、竪穴の壁は石が積まれている。塚の直径は下場で東西南北約 6 m、上場で約 1.8 m である。周塙は綺麗に山側を切り離しており、周塙底中央から周塙外の上場までは約 50 cm の幅である。塚の中央に掘られた竪穴（石廓）は直径 1.4 m で現況深さは約 80 cm、壁は積石で形成されている。塚の作られた年代や性格は不明である。塚の形状は円墳に類するが、竪穴の形状からは古墳では無く、何らかの生産施設や経塚等の信仰に関係する塚の可能性が考えられる。塚の位置は簡易 GPS で、38.098030、140.106903 で標高は 432 m である。

② 6 月 30 日

各方位から塚の写真撮影を行う。塚の南側の裾に大きめの石が埋没しているのを確認した。天井付近の石であろうと思われる。塚の外観は、西側周塙が直線的で、円形塚の西側に方形壇が付属しているような形状である。塚の上部南側には盗掘跡とみられる崩落箇所があり、北側も内部の石廓の外側が見えるほど土が掘られ変形を受けている。天井は既に失われ石廓が開口している。金属探知機を使用し調査を行った。石廓内部では金属反応は無かったが、南側の盗掘穴の下に位置する石組の下に強い金属反応を示した。当該箇所の下部石組みは崩された形跡がないことから、石廓を構築した際に石組の隙間に何らかの金属品が埋納されている可能性がある。

石廓内部は、底面の中央付近が直径 50 ~ 60 cm の円形状に柔らかい土で埋まり、枯葉も多く堆積している。枯葉と腐葉土層を鏟籠の幅で深さ約 20 cm 割除し、底面を確認した。若干の炭が混じる締りのない黄褐色の地山風化土が堆積しており、底面は地山である。穴は地山にはほとんど掘りこんでないと判断される。

平面図と石廓西側の壁面の断面図の略図を作成した。石組は石と石の隙間を丁寧に粘土で埋めており、石の平らな面を内部側に揃えている。

(4) 文献調査

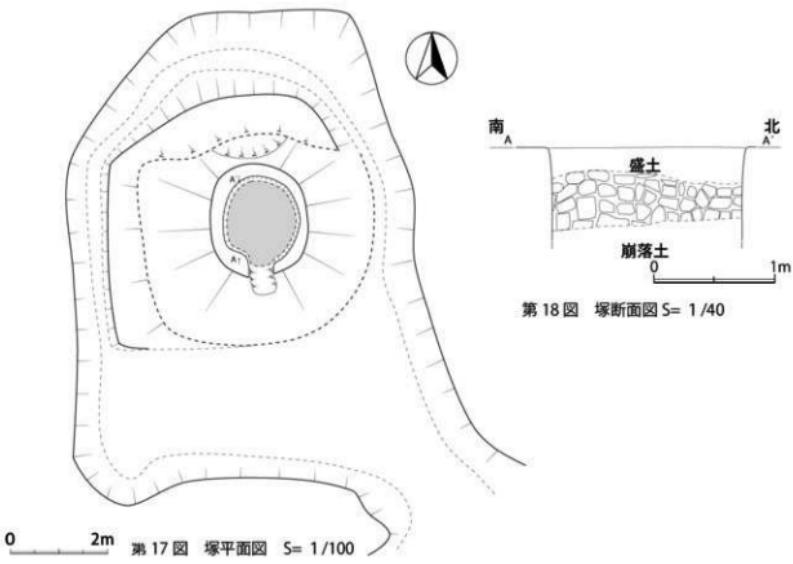
現地調査後に市史編さん室に集められている地域資料や文献の調査を実施したところ、「寛永十五年漆山村之内塗之沢須刈田御検地帳」に「きょうか沢（経ヶ沢）」という地名があることを確認した。御検地帳の記載順は北から右回りに記載している傾向がみられ、「きょうか沢」の前に小須刈田、後に須刈田が出てくることから、中間の今次調査地付近に「きょうか沢」という地名があった可能性が高い。調査地の西方約940mには若松山という信仰の山が位置し、塚の位置する谷の山側、北方約15kmに白鷹山がある。これまでにも白鷹山を取り巻くように経塚が分布することが知られていることや、谷開口部の縁で水田を見下ろす位置に塚があること、石郭内の堆積土に炭が混じること、さらに「経ヶ沢」という地名等からすれば、当該塚が盜掘を受けた経塚である可能性を考える必要があろう。市の遺跡台帳上は南須刈田遺跡（南須刈田経塚）と仮称しておく。



第15図 南須刈田周辺字境図



第16図 南須刈田遺跡踏査範囲図 S=1/10000



第 17 図 塚平面図 S= 1/100

第 18 図 塚断面図 S= 1/40

NO	地区	名称	所在地	年代	経塚の種類	地上標識	備考
1	赤湯	烏帽子山経塚	南陽市赤湯字烏帽子石	平安時代末 (12世紀後半)	埋經塚		蓋に「松喰鏡鏡」を利用
2	赤湯	薬師寺大乘妙典塔	南陽市二色根字館の内	文政7年(1824年)	納経塔		
3	赤湯	松沢一字一石経塚	南陽市松沢字赤石前	不明	礎石経塚(一字)	納経塔	道路沿い倉庫脇
4	宮内	別所山経塚	南陽市宮内字別所山	保延6年(1140年)	埋經経塚		
5	宮内	坂町経塚 (所部・熊野神社経塚)	南陽市宮内字坂町	天文2年(1533年)	埋經経塚		熊野大社の北側畠地
6	宮内	熊野大社一字一石経塚	南陽市宮内字坂町	不明	礎石経塚(一字・多字)		県指定大イチヨウ付近
7	中川	元中山一字一石経塚	南陽市元中山字萬訪原	寛延元年(1748年)	礎石経塚(一字・多字)	納経塔	元中山公民講義敷地西南角付近。道路工事で移築。
8	中川	川越一字一石経塚	南陽市川越字船屋	不明	礎石経塚(一字)		大きな地蔵がある。
9	金山	中里経塚	南陽市金山(中里地区)	不明	礎石経塚(一字)	三界万靈塔	経塚から掘り出した三界塔。万靈塔アリ。墓地の西側。
10	金山	黒在家墓地内経塚	南陽市金山字黒在家	寛延4年(1751年)	礎石経塚(一字)	納経塔	大妻
11	金山	白山在一字一石経塚	南陽市白山在字	不明	礎石経塚(一字)	石塔	白山神社境内
12	沖郷	市杵神社一字一石塔	南陽市高梨字宮之前	元文5年(1740年)	礎石経塚(一字)	納経塔	
13	沖郷	綱正五石書法草塔	南陽市露橋字寺屋敷	享保廿(1735年)		納経塔	
14	沖郷	郡山一字一石経塚	南陽市郡山字寺屋敷	不明	礎石経塚(一字)		寺屋敷からS32年出土
15	沖郷	島貫一字一石経塚	南陽市島貫字六角	不明	礎石経塚(一字)		長堤南端の少し東南地点
16	添山	羽黒神社大乗妙典書写塔	南陽市池黒字上ノ平	寛■4年		納経塔	
17	添山	偏後塚	南陽市添山字偏後塚	不明	礎石経塚(一字・多字)	マウンド	曲物・永楽銭・髪毛
18	添山	西高堆経塚	南陽市添山字西高塚	不明		マウンド	古墳再利用か。150枚の川原石。経塚と伝わるが不明。
19	添山	南須刈田遺跡(残塚)	南陽市添山字南須刈田	不明	埋經経塚	マウンド	石廓露出、地名ケ沢
20	梨郷	本覚寺経塚	南陽市梨郷字宮城	不明	礎石経塚		墓地が一段低くなり崖になっている地点。
21	梨郷	宮城経塚	南陽市梨郷字宮城	不明	礎石経塚(一字)		宮城墳墓付近(墳墓と塚続きの山の斜面上方)
22	吉野	兵経塚	南陽市吉野字中前田	寛保2年(1742年)	礎石経塚(一字)	納経塔	通称中里。寛保2年大日三尊石塔アリ。石室と塔は8m西へ移築した。
23	吉野	向塙C遺跡(マウンド4)	南陽市小湊字向塙七	不明	伝經塚	マウンド	発掘調査で盛土を確認。修繕に関する土壌か。

上記の他に市内の小字名として、関根地区に「きょうつかやち」、梨郷地区に「経塚」、中の目地区に「南経塚」「北経塚」、鍋田地区に「南経塚」、大穂地区に「南経塚」という地名がある。

第 1 表 南陽市内(地区別)の経塚・一字一石経塚等一覧

14 大橋城跡、御殿跡

- (1) 調査日 平成 28 年 6 月 15、20 日、7 月 1 日、19 日
(2) 調査場所 南陽市大橋字館ノ内、字御殿跡、字町浦、字上宿浦、字中宿浦、字九反、
字堂ノ浦、字竹原、字北門口、字南寺ノ内、字西川田、字油小林

(3) 調査目的

大橋城は、山形県中世城館遺跡調査（平成 7 年 3 月）において報告がなされているが、大橋城の周辺地には城下町的な字名が多く残ることや本丸の堀の形状等に不明点が多いことから、現状把握と遺跡台帳整備のため踏査し、周辺状況を含めた略図を作成する。

(4) 調査方法及び内容

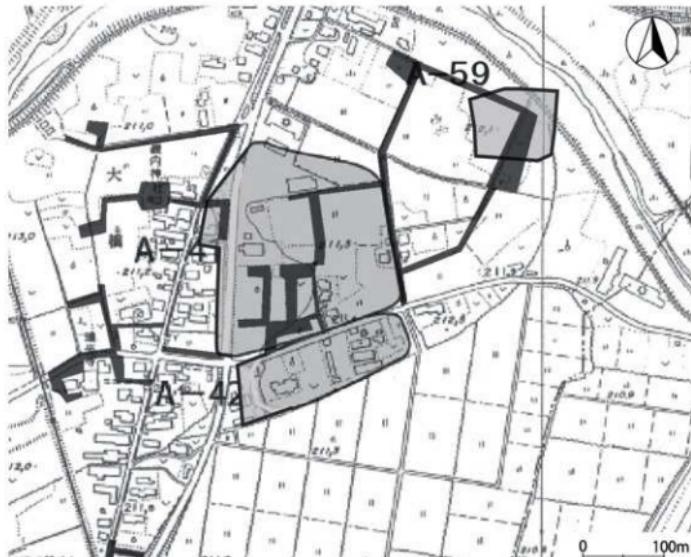
写真撮影を行ながら踏査する。

(5) 調査結果

明治八年の字限図により大橋城周辺の土地利用図を作成し、城郭遺構及び城下町的町割りの検討を行ったうえで、現地を踏査し、基本的に字限図から書き出した図面に加筆する形で略図を作成した。略図の作成にあたっては字限図に昭和 20 年代の航空写真を重ねた検討も実施している。

大橋城は、旧屋代川及び現屋代川の自然堤防上に築城されている。今回の調査では東から西へ連郭状に町場と本丸が配置されている状況がみられた。市指定文化財「享保の絵図」に描かれた大橋城は本丸の南側に堀が描かれていないが、本丸の南側は屋代川の旧河道を堀としている。城域の西側には南北方向に棒川が流れ、外堀のような状況を呈している。

さらに本丸の東側、屋代川により近い位置に古い館跡と思われる区画があることを字限図で確認した。大橋城に先立つ古い館跡かと思われる。





第 20 図 大橋城及び周辺概略図 $S = 1/6000$

15 梨郷字大森

(1) 調査日 平成 28 年 7 月 20 日

(2) 調査場所 南陽市梨郷字大森

(3) 調査目的

対象地は、分布調査未実施地である。西方に開けた斜面及び山地で、最上川を挟んで向かい合う位置に長井市の旧石器時代の遺跡があることから、同様の標高の地点を調査する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら、今次は対象地の地形・地質的特徴の把握を目的とする。

(5) 調査結果

地点①

鉄塔のある山の尾根すじに近い位置で、周辺は西向きの緩斜面が続く牧草地となっている。斜面を削った断面を観察。黄褐色の土に礫を多く含む。

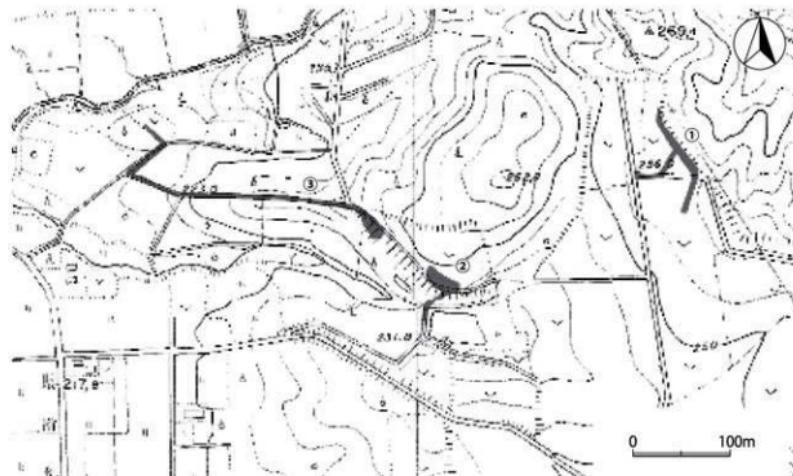
地点②

堤から山の南斜面を登る。斜面の断面に見られる土は地点①と同様である。

地点③

長く西に延びた枝尾根頂を通る農道を進み、山の南西斜面の崩落面を観察した。地点①と同様の地質である。

地点①～③とも黄褐色土層で石器等も表採されなかった。遠景で確認すると、今回観のため立ち入りできなかった大森の丘の上部に赤褐色系の土層が見られることから今後さらに上位層を確認する必要がある。



第 21 図 梨郷字大森踏査範囲図 S=1/5000

16 梨郷字神楽山下

(1) 調査日 平成 28 年 8 月 26 日

(2) 調査場所 南陽市梨郷字神楽山下～字中島平（通称「神楽山」）

(3) 調査目的

対象地は、周知の梨郷古墳群である。市史資料集第 14 号に梨郷地区出土の考古遺物として、梨郷古墳群その他の遺物の出土地点が記されているため、遺跡台帳整備のため現地確認を行う。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行なながら踏査する。今次は資料集の記載地点把握を目的とする。

(5) 調査結果

市史資料集第 14 号には、明治 15 年から昭和 25 年までの遺物出土情報が記載されているが現在遺跡登録されていない場所も含まれている。

周知の梨郷古墳群の遺物出土地点については、写真撮影と踏査を行った。古墳群は通称「神楽山」と言われる台地状の低い丘陵上に立地している。鉄剣の出土地点は、現在小屋が建っている付近と思われ、小屋のすぐ東側でいくつか須恵器片が散布する状況を確認した。小屋西側の畠地でも須恵器片 3 点を表採した。一帯は畠地化しており古墳のマウンド等は確認できない。

明治 15 年に縄文土器や石鎌・石斧等の石器が出土した（遺物は山形大学博物館蔵）と記載されている通称「翁の台」（字寺山）は、平野地区の南に位置する柳ヶ峰の北側山麓付近に位置すると思われるが、藪のため今回は地表面の確認ができなかった。現在遺跡登録されていないことから今後確認が必要である。

また、資料集の略地図では窓跡の位置を農道から南へ 80m と記載されているが、これは周知の梨郷平野古窓跡の位置（農道から約 25m）とは大きく異なる。昨年度確認した 3 号窓跡（仮）の北約 20m にあたり、周知の 1 号窓跡と 3 号窓跡（仮）との中間にあたる。地形的には窓跡があってもおかしくない緩傾斜地である。資料集の記載が事実であれば 4 号窓跡（仮）があった可能性があるため、今後さらに調査が必要である。



第 22 図 梨郷字神楽山下踏査範囲図 S=1/5000

17 芹ヶ窪遺跡

(1) 調査日 平成 28 年 8 月 26 日

(2) 調査場所 南陽市梨郷字芹ヶ窪

(3) 調査目的

対象地は、宮城遺跡の南、酒町遺跡の北に位置し、北側の稻荷山山裾から延びる南向きの緩斜面にあたる。分布調査未実施地であり、個人住宅建設の予定があることから事前に周辺踏査を行い遺跡の有無を確認する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

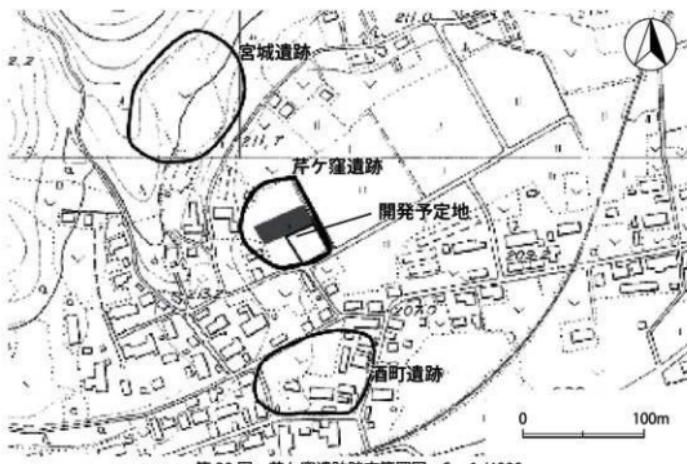
(5) 調査結果

開発予定地は、草が繁茂し地表面を確認できなかったが、予定地北側の隣接畑地では、縄文土器片（縄文中期）が広範囲で採取され、さらに数は少ないが土師器片も確認された。この畑地と開発予定地は地形的に一体の微高地であることから、今次開発予定地まで遺跡が広がる可能性は高い。

遺跡は、周知の縄文遺跡である宮城遺跡と酒町遺跡のちょうど中間地点にあたり、遺跡の範囲が広がっている可能性もあるが、両遺跡から距離的にやや離れていることや、梨郷小館の西に接するが、梨郷小館は中世城館址であることなどから、今次発見の遺跡は新規に芹ヶ窪遺跡とするのが妥当と思われる。



芹ヶ窪遺跡表採遺物



第 23 図 芹ヶ窪遺跡踏査範囲図 S= 1/4000

18 漆山字東寺町、西寺町周辺及び字曾利橋、字八ッ口周辺

(1) 調査日 平成28年9月7日

(2) 調査場所 南陽市漆山字東寺町一～二、字西寺町一～五、字上横打一～二、字下横打一～二、字備後塚、字五合田三、字曾利橋、字八ッ口

(3) 調査目的

対象地は、分布調査未実施地域にあたる。当該地一帯に圃場整備事業（県）の計画があることから事前に地形状況等を把握する。

(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行ながら踏査する。

(5) 調査結果

字東・西寺町には、現在の羽黒神社（觀音堂）の前身である三堀寺宝乘院が元々立地していたが、洪水により現在地に移転したと伝わる。羽黒神社には市指定木造菩薩立像（平安時代）があることから、平安時代に遡る廃寺跡がある可能性がある。また、字曾利橋から字八ッ口付近は周知の天王遺跡の南側にあたり、字塚原という地名がある。天王遺跡では古墳が検出されていることから、字名の塚原は古墳との関連を伺わせる。

①字東寺町、西寺町付近

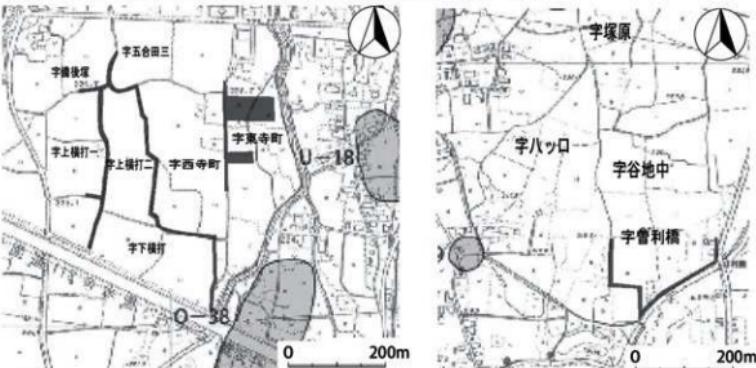
地形的に、織機川右岸の微高地が埋没していることが推定される。水田が多いため地表面観察は困難だが、畑地の部分では近世陶器（すり鉢）を2点、土師質土器片1点を表採した。廃寺の位置については判断できなかった。

②字上横打、下横打、五合田三、備後塚付近

上横打から下横打にかけては、一段低い水田が南北方向に並ぶ様子が見られることから旧河道とその両岸にあたる地形と思われる。その中で字五合田は周辺では一段高い微高地になっている。字備後塚からは明治時代に曲物と永楽錢、一字一石経等が出土したとされる。

③字曾利橋～八ッ口付近

天王遺跡の立地する微高地が塚原～八ッ口方向へ、南へ延びている状況を確認した。微高地の東辺には窪地（後背湿地又は旧河道、字名「谷地中」）が続いている。水田地帯であるため地表面は観察できず遺物の確認はできなかった。



第24図 漆山字東・西寺町、曾利橋周辺踏査範囲図 S=1/10000

19 山居沢山A・D・E遺跡（山居沢山窯跡）

(1) 調査日 平成28年10月18日、26日

(2) 調査場所 南陽市上野字山居沢山

(3) 調査目的

対象地は、蒲生田山古墳群の立地する秋葉山枝尾根東側の谷にあたり、谷あいに山居沢山A遺跡、山居沢山E遺跡が所在する。周辺山林に植林事業の予定があることから、事業地の確認と遺跡の位置及び範囲確認等の調査を行う。

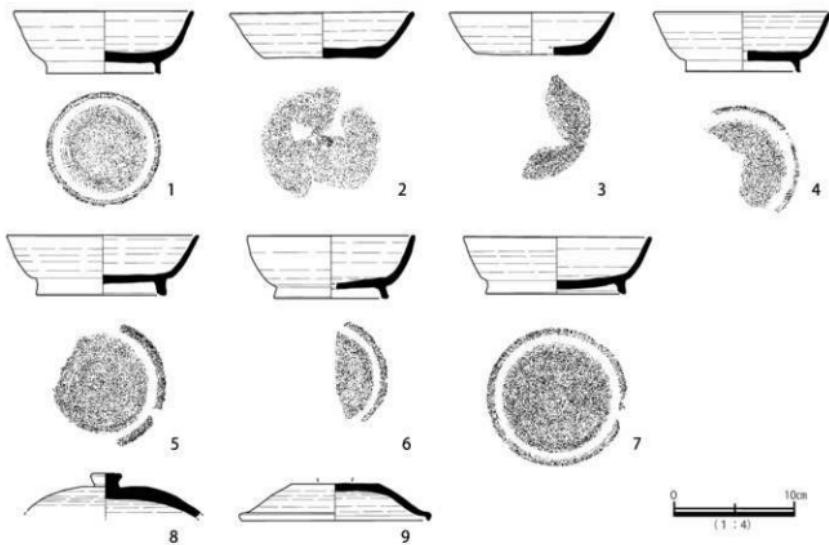
(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。調査起点は通常車で入山できる広場（山居沢山A遺跡内）とする。

(5) 調査結果

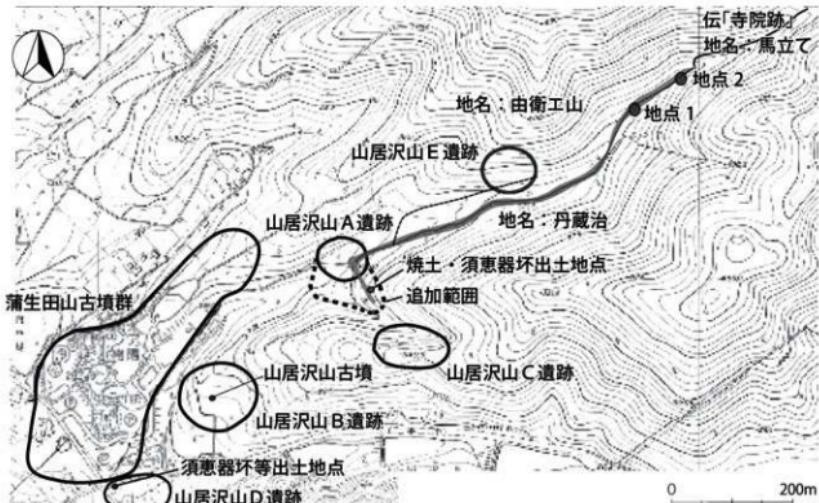
山居沢山E遺跡は、平成12年に樹木の伐採と作業道開削の際に発見されている。遺跡は谷の右岸側の斜面に位置するが、現在は通行できず現地は確認できなかった。E遺跡では緩斜面から須恵器大甕片等が採集されており、窯跡等の生産遺跡が存在する可能性が指摘されている。谷の奥にはかつて寺があったとも伝えられている。谷の出口に立地する下流の山居沢山D遺跡では、平成2年に宅地造成の際に須恵器壺が高台壺5段と高台が無いもの2段の入子状態で一括出土した（第25図）。立地環境や出土状況から窯跡であった可能性が高い。今次は事業予定地である左岸側山道を踏査した。調査基点から約550m上流の山道山側崖面に幅約1.6mにわたって、厚さ5～10cm程度の灰色粘土層を確認した（地点1、緯度：38.07149914、経度：140.16775620、標高：353.1m）。灰色粘土層は炭粒（3～5mm）を含み灰原とも考えられる。地点1から約112m上流の地点で幅約3.4mにわたって、中央部で厚さ約80cmの堆積を成す灰色粘土層を確認（地点2、度：38.07199330、經度：140.16866924、標高：364.7m）。地点1と同様、その前後にはこの土層が見られないことから灰原とも考えられる。地点2の斜面上部には小テラス又は窪地状の地形が見られ、さらにその北側の一段低い位置にも小テラスがあり、地点2が窯跡であった場合には、作業小屋等、何らかの関連施設があった可能性もある。地点1、2ともに遺物は確認できなかった。

植林事業予定地は、林道肩部で周知の遺跡範囲ではなく、踏査でも遺物等は確認されなかつたが、同行していただいた蒲生田森林組合長の川合氏から周辺情報を聞きした。山居沢山E遺跡のある谷あいは、通称地名「丹藏治」と呼ばれており、谷の西側の山は約200年前の人名で、「由衛工山」と呼ぶ。谷奥は、「馬立て」と呼び、切り出した薪を馬（大八車）に乗せるための場所だったとのこと。また、山居沢山C遺跡から出土したとされる須恵器壺の出土地点について、平成6年に川合氏が山道拡張のため鎌を入れたところ焼土とともに須恵器壺と蓋が数枚交互に入子状態で出土し、それを遺跡発見者として記録されている同僚の舟山氏に譲ったとのことで、その出土地点を具体的に教えて頂いた。出土地は小さな枝谷右岸で南向きの緩斜面にあたる（緯度38.06869871、経度140.16248113、標高318.6m）。立地環境や出土状況を考えると窯跡である可能性が高い。出土地点がこれまで考えられていた地点より北にずれ、山居沢山C遺跡よりもA遺跡の範囲に近いため、A遺跡の範囲拡大としC遺跡は縄文時代のみとする内容の修正が必要である。A、D遺跡は入子状態という出土状況や焼土から窯跡の可能性が高い。



NO	種別	器種	計測値				調整技法		
			口径	底径	高さ	厚さ	内面	外面	底面
1	須恵器	高台环	148	99	51	4	ロクロ	ロクロ	回転系切・ヘラナデ
2	須恵器	环	152	92	37	4.5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切・ヘラナデ
3	須恵器	环	(136)	(92)	35	4.5	ロクロ	ロクロ	ヘラナデ
4	須恵器	高台环	(148)	(94)	49	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切・ヘラナデ
5	須恵器	高台环	158	(106)	49	4	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切
6	須恵器	高台环	(138)	(92)	51.5	5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切
7	須恵器	高台环	154	114	47	4.5	ロクロ	ロクロ	回転ヘラ切
8	須恵器	环				9.5	ロクロ	ロクロ	
9	須恵器	环				5	ロクロ	ロクロ	

第25図 山居沢山D遺跡出土遺物実測図 S=1/4



第26図 山居沢山A~E遺跡周辺踏査範囲図 S= 1/8000

20 小滝字水林（新兵衛堤）

- (1) 調査日 平成 28 年 10 月 28 日
- (2) 調査場所 南陽市小滝字水林
- (3) 調査目的

対象地は、小滝字水林に位置する。水林には深刻な水不足を解消するため江戸時代に堤が築かれ、水源地管理のために水林守がおかれた地である。今回、その堤のひとつである新兵衛堤が廃止され破堤されることから、周辺踏査を行いつつ、併せて近世堤の現地確認と記録を行う。

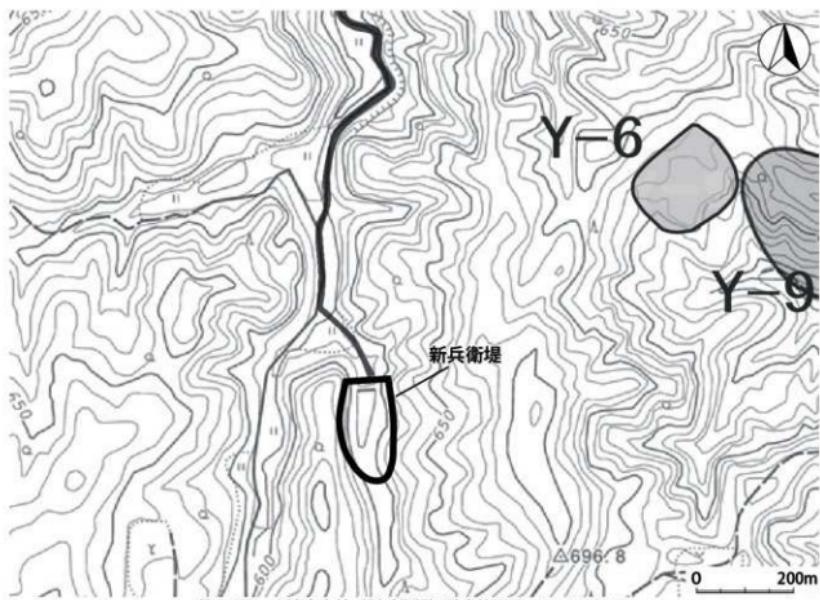
(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行ながら踏査する。破堤箇所について堤の断面を観察、記録する。

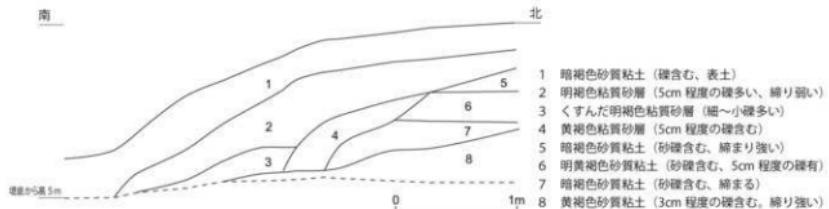
(5) 調査結果

新兵衛堤は、1710 年（宝永 7 年、江戸時代）に鍋田村戸田家五代忠盛が築堤したとされる近世堤で、北条郷（現南陽市）の水不足解消に大きな役目を果たした歴史的経緯を持つ堤のひとつである。現在は既に農業用貯水池としての役割は終了し、管理上危険と判定されたことから 10 月 22 日に破堤作業が実施されている。くぐり滝から新兵衛堤までは踏査を行った。

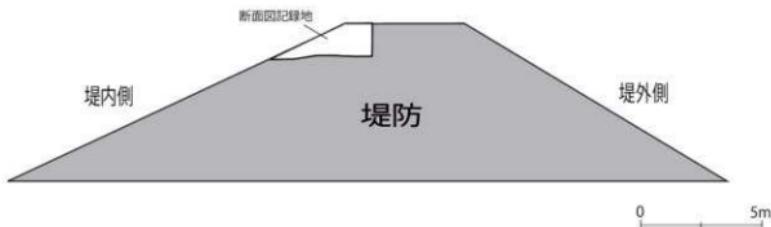
新兵衛堤の破堤部は幅 1 m × 長 3.5 m、既崩壊箇所に接続している。堤の構造は、堤長 51 m、堤高 8 m、貯水量は 6000m³で、砂礫土を盛土した谷池形式の堤である。今次記録地点は、堤防東端から約 14 m 西の地点の破堤箇所にあたり、堤防南側の肩部である。堤は法面は土羽で、砂礫粘土を積み重ねて築堤している。碎いた礫を比較的多く含む層とほとんど含まない層を互層に積んでいる状況が確認できる。



第 27 図 小滝字水林（新兵衛堤）踏査範囲図 S= 1/10000

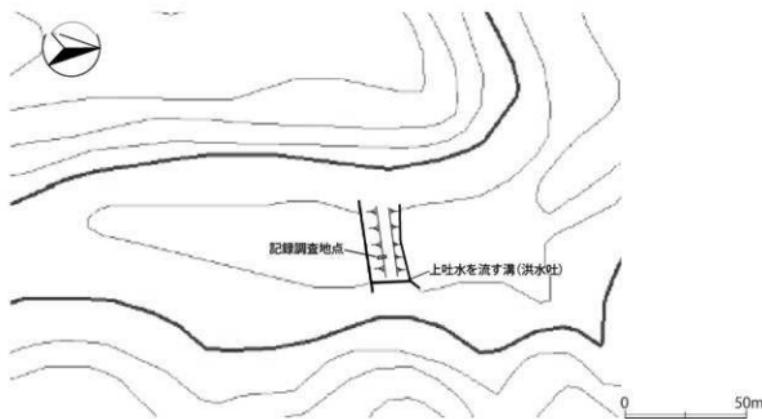


第28図 新兵衛堤（内肩部）断面図 S=1/40



堤体の各部計測値	区分	データ	区分	データ
	堤高	8 m	内側法面の長さ	14 ~ 15.3 m
	堤頂長	51 m	外側法面の長さ	12.6 ~ 18 m
	堤頂幅（天端幅）	5 m	内側法面角度	22 ~ 26 度
	洪水吐（素掘水路）	幅0.9 ~ 1.4 m × 高0.5 m	外側法面角度	28 ~ 29 度
	貯水量	6000m ³		

第29図 新兵衛堤断面略図 S=1/200



第30図 新兵衛堤断面図記録地点位置図 S=1/2000

21 宮内字高日向二

(1) 調査日 平成 28 年 11 月 11 日

(2) 調査場所 南陽市宮内字高日向二

(3) 調査目的

対象地は、宮内の菖蒲沢地区にあたり、周知の慶海山館跡の北側に位置する。遺跡分布調査未実施地であることから踏査を行う。

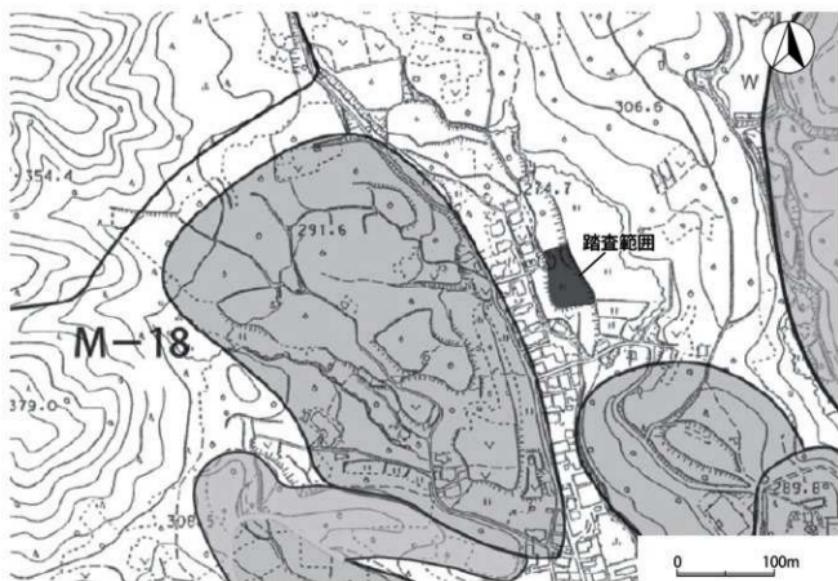
(4) 調査方法及び内容

写真撮影を行いながら踏査する。

(5) 調査結果

調査地は、慶海山館跡の北側、宮沢城の東側に位置し、慶海山の西斜面にあたる。宮沢川に面した段々畑で、「的場」という通称地名が残る。

遺物は、土師器小片 2 点と陶器片 1 点を表探した。遺物は小片であるため時代は不明である。通称地名等から、少なくとも宮沢城等の中世城館址に関連する中世の遺跡が存在する可能性は考えられる。遺跡の広がり等の継続調査が必要である。



第 31 図 宮内字高日向二踏査範囲図 S=1/5000

III 試掘調査

1 桜塚字李の木（李の木遺跡隣地）

- (1) 調査日 平成28年3月17日
- (2) 調査場所 南陽市桜塚字李の木 1632-1, 1632-19
調査対象地（工事）面積 1,322.45m²
- (3) 調査原因 民間開発（93条）
- (4) 調査方法及び内容

当該地は周知の李の木遺跡の北側隣接地である。介護施設の整備計画があることから、10mメッシュで幅1.5m×長1.5mのトレンチを3箇所（TT1～TT3）設定し、試掘調査を実施した。

（5）結果

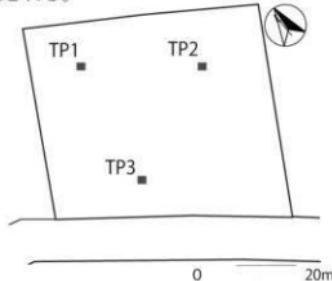
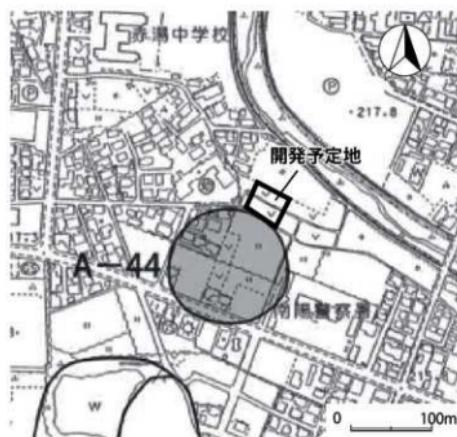
土層の確認と遺構・遺物の確認を行った。遺物はTT3の耕作土層から縄文土器片が1点出土した。遺構は検出されなかった。

（6）考察

対象地は吉野川右岸にあたるが、自然堤防はあまり発達しておらず、後背湿地や旧河道に近い低平な土地である。

事前に対象地及びその周辺畠地を踏査したが遺物は表採されなかった。試掘によりTT3から縄文土器片1点出土したが、旧表土層からの出土であり流れ込みによるものと思われる。遺構は確認されなかった。

隣接する李の木遺跡は平安時代の遺跡であるため、吉野川上流の自然堤防上に未確認の縄文時代の遺跡がある可能性がある。土層観察では、周辺遺跡で平安時代の遺構面して検出されるオリーブ褐色粘土層が深さ120cmで確認される。



TP1	TP2	TP3	T T 1～3
耕作土	耕作土	耕作土	1 明褐色粘質砂層
1	1	1	2 灰褐色シルト粘土
2	2	2	3 黒褐色シルト粘土
3	3	3	4 オリーブ褐色シルト粘土
4	-	4	5 灰オリーブ褐色砂層
		5	

第34図 桜塚字李の木柱状図 S= 1/40 35

2 北町遺跡

(1) 調査日 平成 28 年 4 月 13 日～14 日

(2) 調査場所 南陽市赤湯字新田前 1908-1 (北町遺跡)

調査対象地 (工事) 面積 897.76m²

(3) 調査原因 民間開発 (93 条)

(4) 調査方法及び内容

対象地は北町遺跡の範囲である。対象地に住宅新築工事の計画が生じたことから、対象地 897.76m² のうち工事範囲 159.27m² について、試掘溝 1 箇所を設定のうえ、幅 2.5m × 長 8m の範囲を重機で盛土層まで除去し、手掘りで階段状に掘下げ幅 1.2 m × 長 2m の範囲で試掘調査を実施した。途中、深度が深くなつたことから安全確保のため精査範囲の周囲を重機でさらに拡張し、手掘りにより約 2.5 m まで掘り下げる、無遺物層に達した後、下位層序及び遺物確認のため重機でさらに掘下げを行つた。記録後は埋め戻しを行つた。

(5) 結果

4 つの層から石器が出土し、縄文草創期～前期の北町遺跡の層位に関する知見を得た。平安時代の遺物が表探された。調査には東北芸術工科大学考古学研究室の協力を得た。

(6) 考察

調査地は、現況宅地で周知の北町遺跡の範囲内である。白竜湖の西方にあたり、山際に広がる東向きの緩斜面で、かつては湖の畔であったと思われる。平成 7～8 年に今次調査地の西及び西北に位置する市道で下水道工事を行った際に多くの遺物（縄文草創期・早期・前期）が出土したが、工事中の不時発見であったことや工事立会いの制約上、出土層位等の確認が充分ではなく未報告となっている。平成 8 年に主に D 地点付近から出土した遺物（個人採取）は、『うきたむ考古 14 号』で報告されている（平成 22 年佐藤鎮雄・秦昭繁）。

遺構・遺物の検出と土層確認を行つたが遺構は確認できなかつた。現表土から 1.5 m 下までは盛土層とみられ、約 0.4 ～ 0.9m 下に旧民家の基礎石を確認、0.9 ～ 1.5m 下では大きな石を多量に入れ込んだ近世陶器片を含む盛土層を確認した。北町地区は寛永年間に開拓が進められたと伝わることから、その時期の盛土層と思われる。遺物は現表土から約 2 m ～ 2.5 m 下の第 4 ～ 6 層で石器を確認。さらに無遺物層を挟んで現表土から約 3.2 ～ 3.4 m 下の第 9 層からも石器剥片を確認した。約 3.4 m 下の第 10 層は厚さ約 20cm で広域火山灰層と見られる灰色粘土層である。周辺踏査で市道を挟んだ山際の畠地で須恵器片を表探、平安時代の追加も必要となる。



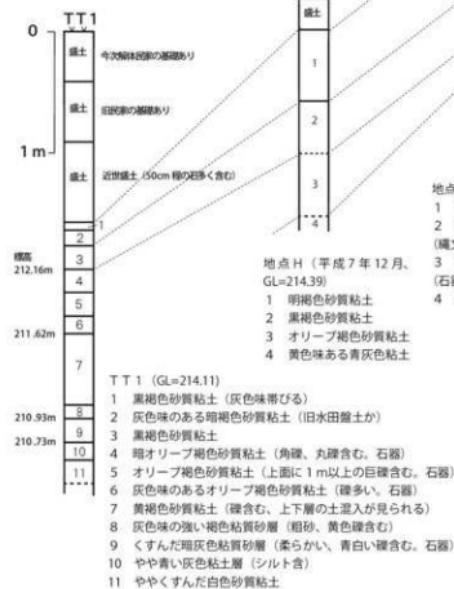
北町遺跡 T T 1 出土遺物及び表探遺物



第35図 北町遺跡開発予定地位置図 S= 1/6000
 (A～Jは立会調査等の実施地点)

地点名	出力年月	石器類	土器類	備考
B	H7.11月	14	18	
B	H7.9-12月	156	0	小石切丸頭器
C	H7.9月	40	0	地表下5.5mで発見
D	H8.9月-10月	145	2	うさぎの歯古14号から
E	H8.9月-10月	0	0	尾根斜面平地で、盛土下は地表
F	H8.9月-10月	0	0	尾根斜面平地で、盛土下は地表
G	H7.9月	9	0	上野山B地に準じる。
H	H7.9月-12月	58	0	久留里の跡地
I	H7.9月-12月	2	0	上野山B地に準じる。

平成7～8年北町遺跡出土遺物数



第37図 北町遺跡柱状図 S=1/40



第36図 北町遺跡トレンチ配置図 S=1/500

總四

地圖

地点A

地点B(平成7年11月、GL=215.26)

- 1 黄色味のある明褐色砂質粘土
 - 2 黒褐色砂質粘土
(縄文早期中葉～後半の土器、石器)
 - 3 暗青灰色粘土に黄褐色粘土混じる
(石器 100 点余、縄文草創期か)
 - 4 暗青灰色粘土(木片食む)

地點 A (西城 3 幢 13 層 GL-314.13)

- 地點 A (平成 7 年 12 月、GL=214.12)

 - 1 黃褐色砂礫層
 - 2 黑色粘土
 - 3 明黃褐色砂質粘土（土器、石器）
 - 4 膠壓褐色砂質粘土（膠壓燒土塊）

率地が A.R.M. の土壤に加わる。

注記は平成7年当時の記録による。

3 若狭郷屋字沢見（沢見遺跡隣地）

(1) 調査日 平成 28 年 4 月 18 日～19 日

(2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字沢見 811-1

調査対象地（工事）面積 5,155.85m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

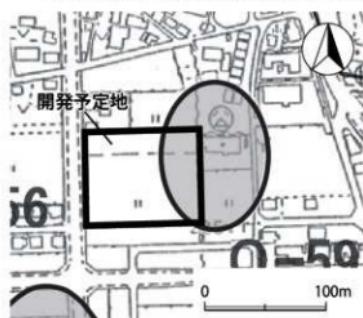
対象地は沢見遺跡の西辺に位置する。対象地に介護老人福祉施設にかかる造成工事の計画が生じたことから、遺跡の範囲確認のため試掘調査を行った。調査対象地 5,155.85m²について、20 m メッシュを基本に幅 1 m × 長 1 m の試掘穴 9 箇所と、幅 1 m × 長 5 m の試掘溝 2 箇所を設定のうえ手掘りにより調査し、試掘後は埋め戻した。

(5) 結果

旧耕作土層から遺物が検出されたが流れ込みと思われる。

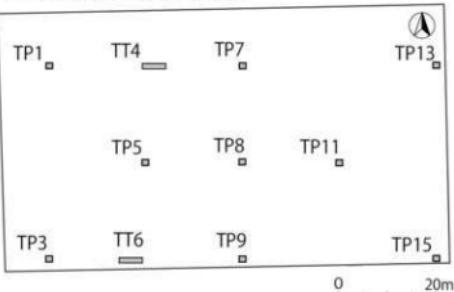
(6) 考察

遺物は、TT4 と TT6 の旧耕作土層から須恵器 1 点と土師器 1 点が出土した。流れ込みと思われる。遺構は確認されなかった。土層観察により当該地西半は低地で、河川跡あるいは後背湿地にあたると思われる。TP6, 9 では現表土から 1.2 ～ 1.3 m 下で沢見遺跡の弥生時代包含層である灰褐色層が見られ、TP13, 15 では、0.5 ～ 0.6 m 下で平安時代遺構面となる比較的縮まりの良い粘土層の広がりが見られた。

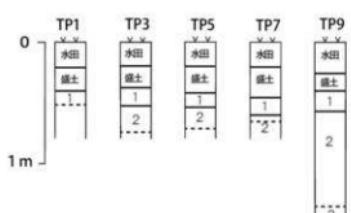


第 38 図 若狭郷屋字沢見開発予定地位置図

S= 1/4000



第 39 図 若狭郷屋字沢見試掘位置図 S= 1/1000



第 40 図 若狭郷屋字沢見柱状図 S= 1/40

TP1	1 灰色砂質粘土	TP11	1 <すんだ灰色砂質粘土
TP3	1 水田 2 砂土	TP13	2 褐色砂質粘土
TP5	1 水田 2 砂土	TP15	1 暗褐色粘土
TP7	1 水田 2 砂土	TP5	2 灰褐色砂質粘土
TP9	1 水田 2 砂土	TP7	3 <すんだ灰色粘土
TP11	1 水田 2 砂土	TP9	2 灰色砂質粘土
TP13	1 水田 2 砂土	TP15	3 灰色粘質砂層 (緑多い)
TP15	1 水田 2 砂土 3 灰褐色砂質粘土	TP7	1 灰褐色粘土
TT4	1 水田 2 砂土	TP9	2 灰褐色粘質砂層
TT6	1 水田 2 砂土	TP9	3 青灰色粘質砂層

4 蒲生田山古墳群

- (1) 調査日 平成 28 年 4 月 21 日
- (2) 調査場所 南陽市上野字山居沢山 1855-110
調査対象地（工事）面積 362m²
- (3) 調査原因 民間開発（93 条）
- (4) 調査方法及び内容

対象地は、周知の蒲生田山古墳群の南東端に位置する。調査対象範囲 362m²のうち盛土造成を行う範囲について、幅 1m × 長 1m の試掘地点 2箇所を設定し、試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

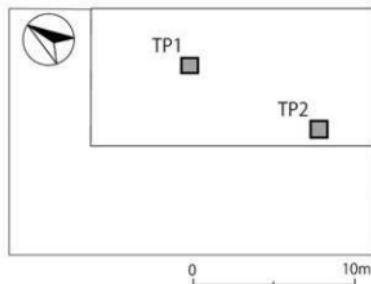
遺構・遺物は検出されなかった。

(6) 考察

遺構・遺物は確認されず、耕作土下は地山風化土の黄褐色層で、その下はすぐに地山となる。現在、対象地西方の尾根に民家が建っているが、かつてその付近に「(下の)山ノ神神社」が祀られており、民家建設の際に壺が出土し、壺を宮内の宝積坊へ奉納したという。対象地上方の同じ尾根上にある（上の）山ノ神神社が蒲生田山 2 号墳（前方後円墳）の後円部墳頂に祀られていることや、蒲生田山古墳群 2～4 号墳（古墳時代前期）は 40～50m 間隔で尾根上に並んでいるが南端に位置する 2 号墳から「(下の)山ノ神神社」跡地までの距離は概ね 50～60m と考えられ、古墳間の距離と近似することなどから、「(下の)山ノ神神社」のあった場所にも 2 号墳と同様の古墳があった可能性がある。



第 41 図 蒲生田山古墳群開発予定地位置図 S= 1/6000



第 42 図 蒲生田山古墳群試掘位置図 S= 1/300



第 43 図 蒲生田山古墳群柱状図 S= 1/40

5 中落合館跡（中落合遺跡）

(1) 調査日 平成 28 年 4 月 26 日～27 日

(2) 調査場所 南陽市中落合字宅地 636

調査対象地（工事）面積 284.35m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

対象地は、周知の中落合館跡内に位置する。住宅建設の計画があることから遺跡保護のため、試掘調査を行うものとした。調査対象範囲 284.35m²について、幅 2m × 長 5m の試掘溝 2 箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

新たに平安時代の遺構と遺物が検出された。中落合遺跡の範囲拡大が必要である。

(6) 考察

中落合館跡は、中世館跡で遺跡範囲の西側は中落合遺跡と重複している。中落合遺跡は平成 17 年度に一部発掘調査が行われ、古代置賜郡衙の関連施設とされる周縁施設が検出された重要遺跡である。^{（いとう）}

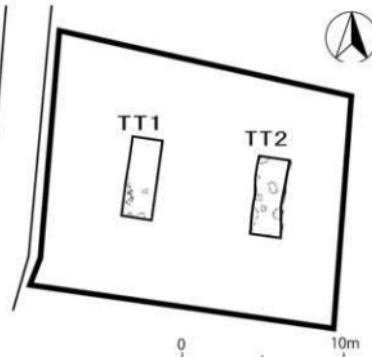
遺物は、表土層から石器 1 点、平安時代の須恵器片（甕）と近世陶器片（擂鉢等）が出土した。包含層（第 1 層、第 48 図 S P 1 断面図）からは平安時代の須恵器片が出土した。T T 2 の S P 2、5 からは平安時代の土師器片が出土した。

遺構は、TT 1、2 で柱穴（ピット）14 基、溝跡 1 条を確認した。このうち S P 2、6、7 は平安時代の掘立柱建物の一部あるいは柵と思われ、軸方位は概ね北（磁北）を向くことから公的な施設の一部である可能性もある。S P 1、4、5 は大きめの掘り方であるが比較的浅い。これも同様に建物跡の可能性がある。TT 1 の S P 11、14 は土質や形状及び切合関係から近世の柱穴である可能性がある。

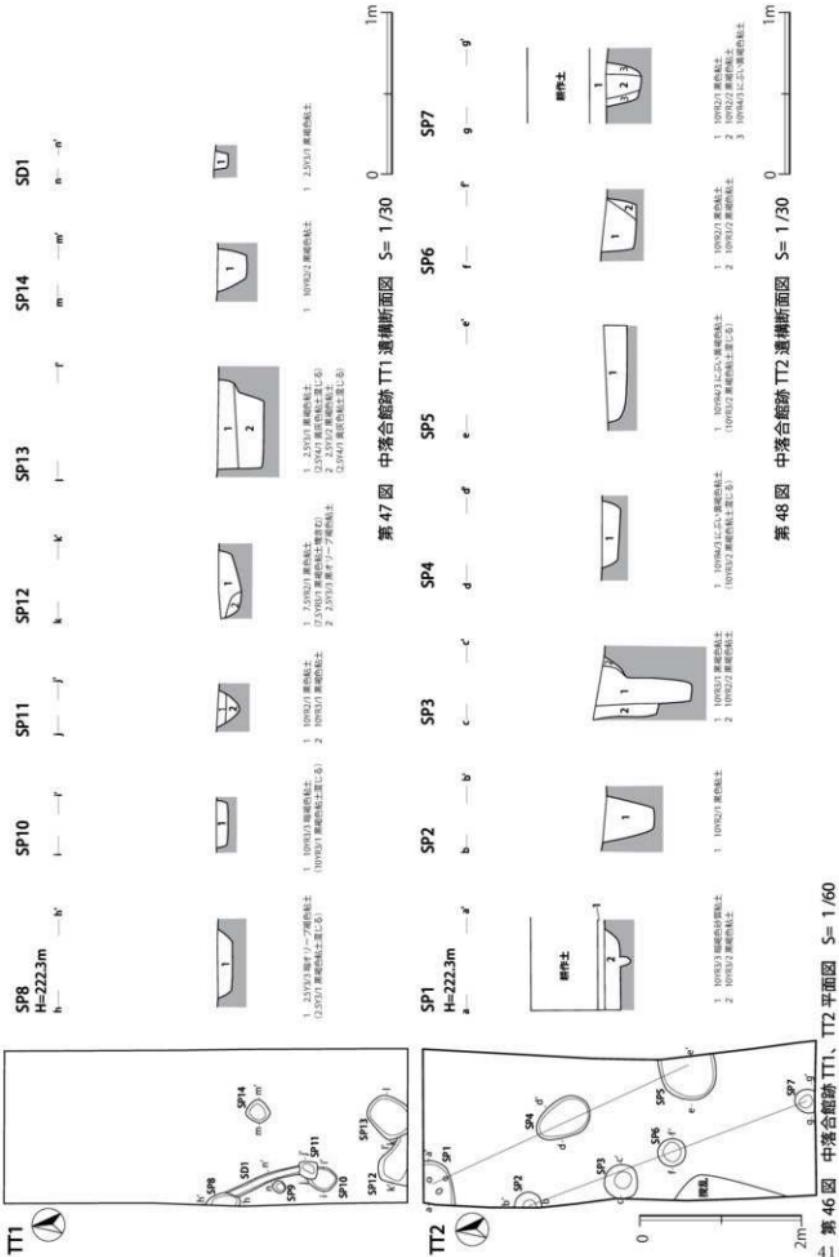
平安時代の遺構が確認されたことから、現在一部で範囲が重複する中落合遺跡の範囲をさらに東へ拡張し遺跡範囲を修正するか、又は中落合館跡の時代に平安時代を追加する必要がある。



第 44 図 中落合館跡開発予定地位置図 S=1/5000



第 45 図 中落合館跡トレンチ配置図 S=1/300



6 久保遺跡

(1) 調査日 平成 28 年 5 月 17 日

(2) 調査場所 南陽市桐町式 3619-3

調査対象地（工事）面積 55m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

対象地は、周知の久保遺跡東側に位置し、分布調査未実施地である。個人住宅増築工事の計画が生じたことから、土工事の前に遺構の有無確認を行うものとした。調査対象範囲 55m²について、幅 1 m × 長 2 m の試掘穴を 1 箇所設定し、手掘りで試掘を実施した。

(5) 結果

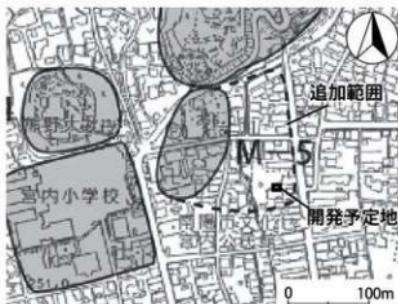
縄文土器片が検出された。久保遺跡の範囲拡大が必要である。

(6) 考察

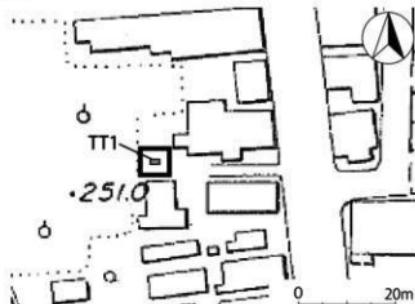
当該地は、宮沢川と吉野川に挟まれた南向きの緩傾斜地で宮内扇状地の扇頂部にあたる。付近には宮内小学校敷地内遺跡等の縄文時代の遺跡が分布しており、西北約 85m には縄文時代中期の久保遺跡が広がる。

遺物は、地表から 70cm 下で、褐色粘土層（第 2 層）と黄褐色粘質砂層（第 3 層）の境界から縄文土器片や炭粒が検出された。遺構は確認できなかったが、黄褐色粘質砂層（第 3 層）が遺構面に相当すると思われる。

当該地は、久保遺跡が立地する宮沢川左岸の微高地上に位置し、地形的な連続性があることや昭和 57 年久保遺跡発掘調査における遺構面（II C 層）と今次遺構面の黄褐色粘質砂層が類似すると考えられることなどから、久保遺跡の範囲が当該地を含む微高地一帯に広がっていると考えることが妥当と思われる。



第 49 図 久保遺跡開発予定地位置図 S= 1/6000



第 50 図 久保遺跡トレンチ配置図 S= 1/1000



第 51 図 久保遺跡柱状図 S= 1/40



久保遺跡出土遺物

7 砂子田遺跡

(1) 調査日 平成 28 年 5 月 27 日

(2) 調査場所 南陽市宮内字砂子田 718-1

調査対象地（工事）面積 1,041m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

対象地は、分布調査未実施地である。民間開発の計画が生じたことから、遺跡の有無を確認するため試掘調査を行うものとした。調査対象範囲 1,041m²について、幅 1m × 長 5m の試掘溝 2 箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

平安時代の須恵器片やピットが検出された。新規遺跡である。

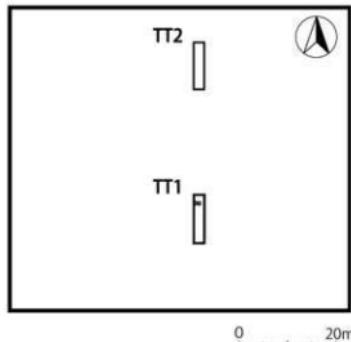
(6) 考察

郡山郡衙関連遺跡として重要な遺跡である中落合遺跡から北へ連なる自然堤防上に位置し、条里水田があったと考えられている地域内にあたる。

TT1 から須恵器の大襲片 1 点と土師器片が出土した。遺構は地表下 60cm の褐色粘土層から掘り込まれたピットが 2 基検出された。TT2 からは土師器片 1 点が出土したが遺構は検出されなかった。さらに周辺踏査を行い、対象地の東に位置する畑地で石器剥片 1 点と土師器片を表採した。自然堤防の微高地に遺跡が広がるものと思われる。



第52図 砂子田遺跡開発予定地位置図 S= 1/6000



第53図 砂子田遺跡トレンチ配置図 S= 1/1000



第54図 砂子田遺跡 TT1 平面図 0 1m
S= 1/60



第55図 砂子田遺跡柱状図 S= 1/40

8 長岡山遺跡

(1) 調査日 平成28年5月30日～6月1日、11月25日

(2) 調査場所 南陽市長岡字小生堂（長岡堤）

調査対象地（工事）面積12,430m²

(3) 調査原因 地域防災拠点広場整備（94条）

(4) 調査方法及び内容

対象地は、長岡山遺跡の範囲内である。長岡堤を埋め立て、防災広場を整備する計画が生じたことから試掘調査を行うものとした。調査対象範囲12,430m²について、10mグリットを配し、幅1m×長5mの試掘溝10箇所と試掘穴5箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。11月に工事立会を実施した。

(5) 結果

長岡堤に面した丘陵端部で遺物が出土した。丘陵部は多くの地点で地山まで削平されていた。堤内では遺構・遺物は確認されなかった。試掘溝のうちTT3、5、9は前後の試掘溝の実施状況から試掘を実施しなかった。

(6) 考察

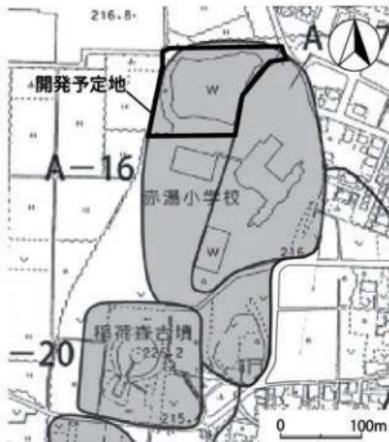
調査地は、長岡堤と堤に面した丘陵斜面である。長岡堤は吉野川旧河道の名残で、旧河道は現赤湯中学校付近から南下し、稲荷森古墳西側を南へ流れていたと考えられる。小字名の小生堂は、丘陵上に越王神社が祀られていたことに由来する。

遺物は、丘陵部のTT1、4、8、10から縄文土器片9点、石器3点が出土した。主に表土層から出土しTT10のみ第2層からも出土した。

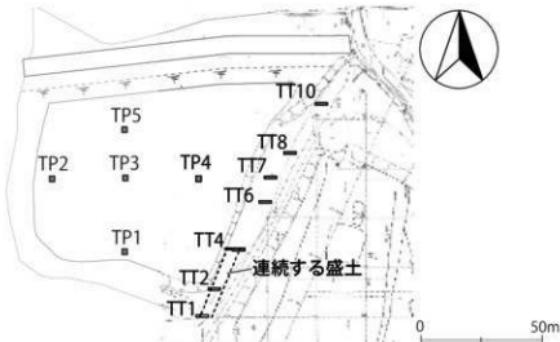
遺構と断定できるものは確認できなかった。おそらく長岡山に赤湯園芸高校が建てられた時に大規模な削平を受けたものと思われる。TT1、2、4では、堤に面したテラスの縁辺沿いに、地山を平らに整地した上に、非常に硬く締まった粘土層（盛土層。橙色粘土ブロックを所々に含む）が、幅約5m×高さ約0.2mで18mほど南北に連続する状況が確認された（断面図TT1第6層、TT4第2層）。TT1では、盛土西端の地山に区画溝とも考えられる溝跡（SD1）が検出された。

この盛土層からは時代を示す遺物は確認されず年代は不明であるが、長岡山は中世城館址として利用されていることから、今次調査地の丘陵部（削平面）が城館址の曲輪に相当し、この連続する盛土は土塁の基礎である可能性もある。

試掘穴TP1～TP5は、堤底に位置し、著しく軟弱な湿地性の粘土層が堆積しており遺構・遺物は確認されなかった。

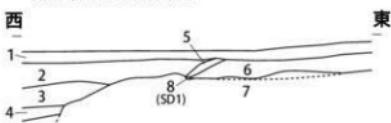


第56図 長岡山遺跡開発予定地位置図 S=1/6000



第57図 長岡山遺跡試掘位置図 S= 1/2000

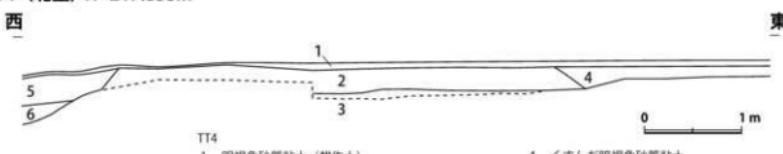
TT1 (北壁) H=217.670m



TT1

- 1 明褐色砂質粘土
- 2 オリーブ褐色砂質粘土
- 3 オリーブ褐色砂質粘土 (直径 50mm の礫多く混じる)
- 4 オリーブ褐色砂質粘土層
- 5 くすんだ明褐色砂質粘土 (礫混じり)
- 6 暗褐色砂質粘土 (硬く締まる。褐色粘土塊多く混じる)
- 7 オリーブ褐色砂質粘土 (硬い、地山)
- 8 暗褐色砂質粘土 (満覆土、橙色粘土混じる)

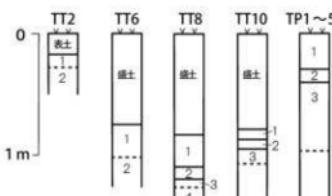
TT4 (北壁) H=217.838m



TT4

- 1 明褐色砂質粘土 (耕作土)
- 2 暗褐色砂質粘土 (硬く締まる。褐色粘土塊多く混じる)
- 3 オリーブ褐色砂質粘土 (硬い、地山)
- 4 くすんだ暗褐色砂質粘土
- 5 オリーブ褐色砂質粘土 (軟)
- 6 くすんだオリーブ褐色砂質粘土 (締混じる)

第58図 長岡山遺跡 TT1、TT4 断面図 S= 1/50



TT2

- 1 暗褐色砂質粘土 (橙色混じり、硬い)
- 2 オリーブ褐色砂質粘土 (地山)

TT10

- 1 くすんだ暗褐色砂質粘土
- 2 灰褐色砂質粘土
- 3 褐色砂質粘土

TT6

- 1 灰色砂質粘土
- 2 暗オリーブ褐色砂質粘土

TP1~5

- 1 褐色粘土 (軟)
- 2 暗灰色粘土 (軟)
- 3 灰色粘土 (軟)

TT8

- 1 くすんだオリーブ褐色砂質粘土
- 2 オリーブ褐色砂質粘土
- 3 明褐色砂質粘土
- 4 オリーブ褐色砂質粘土

第59図 長岡山遺跡柱状図 S= 1/40

9 宮内字閑口

(1) 調査日 平成28年6月2日

(2) 調査場所 南陽市宮内字閑口四85-3地先～字閑口六133-4地先（市道湯街道1号線）

調査対象地（工事）面積849m²

(3) 調査原因 道路整備・下水道整備（94条）

(4) 調査方法及び内容

当該地は、観音堂遺跡の東辺に位置する。開発は、市道の拡幅及び下水道工事である。調査対象範囲849m²について、20mグリッドを配し、幅1m×長1mの試掘穴7箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

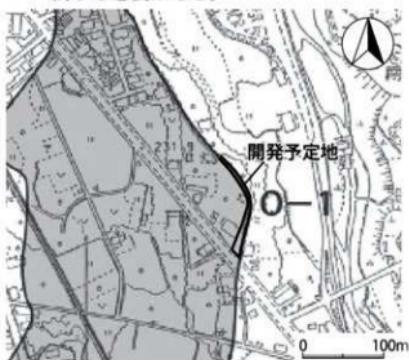
(5) 結果

遺構・遺物は検出されなかった。

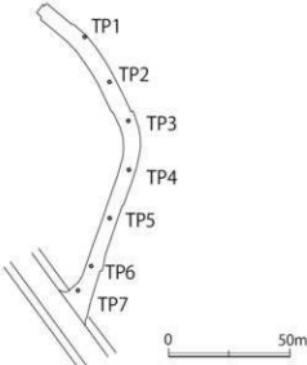
(6) 考察

今次調査地は、吉野川右岸の旧河道の川岸にあたる。観音堂遺跡は吉野川右岸の自然堤防上に立地し、これまでにも市教委及び県教委による試掘調査が幾度か行われてきたが、明らかな遺構は確認されず、散布地となっている。

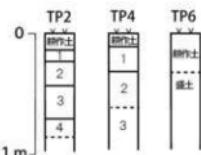
今回の試掘では、遺構・遺物とともに検出されず、土層状況から河川跡とみられる。今次調査地から西へ約20mの地点で50cm程度地表が一段高くなり南北に続くことから、この微高地が遺跡の立地する自然堤防であると思われる。遺跡は市道に沿って線引きされているが、今次調査地は遺跡範囲ではないと考えられることから、遺跡範囲の一部修正も検討する必要がある。



第60図 宮内字閑口開発予定地位置図 S=1/6000



第61図 宮内字閑口試掘位置図 S=1/2000



TP2
1 褐色砂質粘土
2 <すんだ褐色砂質粘土(礫含む)
3 暗褐色粘質砂層
4 灰褐色砂礫層

TP4
1 褐色砂質粘土
2 <すんだ褐色砂質粘土(礫含む)
3 褐色砂礫層

第62図 宮内字閑口柱状図 S=1/40

10 高梨字谷地端・字砂取場・字芦刈場

(1) 調査日 平成 28 年 6 月 24 日

(2) 調査場所 南陽市高梨谷地端 1284 他、字砂取場 1267-1、芦刈場 1325-1 他
調査対象地（工事）面積 4,041m²

(3) 調査原因 民間開発

(4) 調査方法及び内容

当該地は、富塚遺跡の西南約 200m に位置し、遺跡分布調査未実施地である。宅地造成の計画が生じたことから、遺跡の有無を確認するため試掘調査を行う。調査対象範囲 4,041m²について、20m グリッドを配し、幅 1 m × 長 1 m の試掘穴 10 箇所を設定のうえ手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

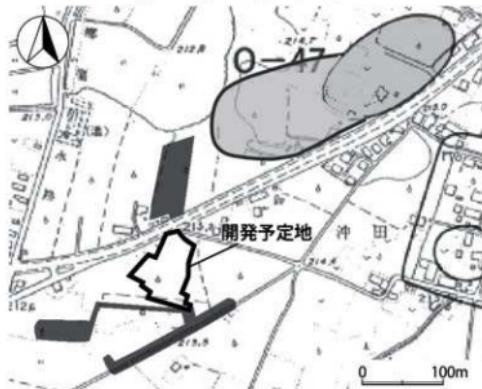
遺構・遺物は検出されなかった。

(6) 考察

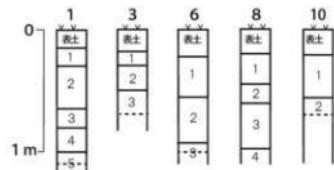
対象地は、吉野川旧河道の左岸にあたるとみられ、自然堤防の微高地が東西方向に伸びている。旧河川又はその支流が流れた可能性もあり周辺に比べやや低地となっている。

遺構・遺物は検出されなかった。周辺踏査において、対象地の北にある県道の北側畠地で須恵器片 1 点を表探した。土層の状況等から、今次対象地は北側中央に中州状の微高地があり、その東西を低湿地が囲んでいたものと考えられる。この微高地は県道北側の住宅地方向に広がることや表探遺物から対象地北側の微高地に遺跡がある可能性もある。

現在、TP 3、7 の北側に東西方向に流れる大きな溝があるが、これは地権者が排水対策として掘った新しい溝である。



第 63 図 高梨字谷地端踏査範囲及び開発予定地位置図 S= 1/6000 第 64 図 高梨字谷地端試掘位置図 S= 1/1500



第 65 図 高梨字谷地端柱状図 S= 1/40

TP1(TP2)	TP6	TP10(TP9)
1 暗灰褐色粘土	1 褐色砂質粘土	1 灰色粘質砂層
2 灰オリーブ褐色粘土	2 底暗褐色粘質砂層	2 オリーブ褐色粘質砂層
3 暗灰色粘土	3 暗褐色砂礫層	
4 黒褐色粘土		
5 灰色粘土		

TP3	TP8
1 褐色粘土	1 褐色粘質砂層
2 暗灰色粘質粘土	2 赤褐色粘質砂層
3 灰色粘土	3 灰色粘質砂層
4 オリーブ褐色粘土	4 暗褐色粘土
5 オリーブ褐色粘土	5 オリーブ褐色粘土

11 祖柳字六百刈（中ノ目下遺跡隣地）

(1) 調査日 平成28年6月27日、28日

(2) 調査場所 南陽市祖柳字六百刈 1000-1、1001-1

調査対象地（工事）面積 4,754.03m²

(3) 調査原因 民間開発

(4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の中ノ目下遺跡の北端に接する位置にし、遺跡分布調査未実施地である。宅地造成の計画が生じたことから、遺跡範囲を確認する試掘調査を行う。調査対象範囲4,754.03m²について、幅1.5m×長10mのトレーニチ5箇所、幅1.5m×長5mのトレーニチ1箇所、計6箇所を設定し、試掘調査を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

遺構は検出されなかった。遺物は盛土・攪乱層から数点検出された。

(6) 考察

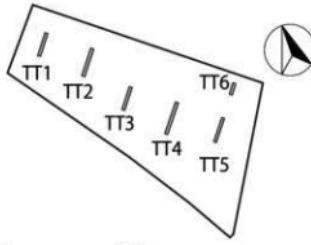
対象地西隣の畠地は南側水田より50cm以上低い低地となっており、北には祖柳堤があること及び土層状況から今次対象地は旧河道内にあたると考えられる。

遺構は検出されなかった。遺物はTT2、4の盛土層から土師器片各1点を検出した。全試掘地点で地山となる河川堆積層の直上まで盛土及び攪乱層となっており、遺跡は確認できなかった。

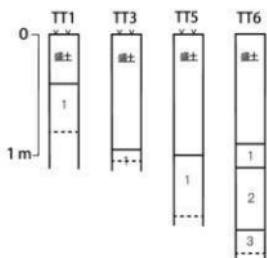
旧河道は、稻荷森古墳の北から西辺を通り、祖柳堤付近で流れを東に転じ、今次調査地を西から東へ流れ、祖柳の水上遺跡方向へ流れていたものと推測され、稻荷森古墳はこの河川を意識して選地されている可能性もある。



第66図 祖柳字六百刈開発予定地位置図 S=1/6000



第67図 祖柳字六百刈トレーニチ配置図 S=1/2000



TT1	1 褐色粘土	TT5	1 黄褐色粘土
TT3	1 黄褐色粘質砂層	TT6	1 灰色粘質砂層
			2 黄褐色シルト粘土
			3 青灰色粘質砂層

第68図 祖柳字六百刈柱状図 S=1/40

12 横ノ口遺跡

(1) 調査日 平成 28 年 9 月 8 日

(2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字西田（字玉ノ木）777-3、784

調査対象地（工事）面積 504.12m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の横ノ口遺跡にあたる。開発は、住宅建築の計画が生じたことから、調査対象範囲 504.12m²について、10m グリットを配し、幅 2 m × 長 5 m の試掘溝 2 箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

遺構は検出されなかった。遺物は旧表土層から土師器片が数点検出された。

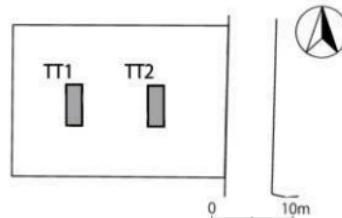
(6) 考察

今次調査地は、JR 赤湯駅から北西約 630m にあたる。横ノ口遺跡は丸堤北側に広がる吉野川旧河道左岸の自然堤防上に立地する。

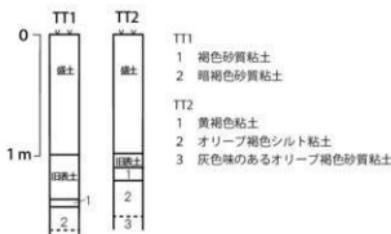
遺構は検出されなかったが、遺物は 2 箇所で旧表土層から土師器の小片（壺、両黒土師器、甕）が検出された。地山のオリーブ褐色粘土層は近隣遺跡では平安時代の遺構面となる層に類似する。微高地の状況から遺跡の主体は当該地より西側にあることが推定される。



第 69 図 横ノ口遺跡開発予定位置図 S= 1/6000



第 70 図 横ノ口遺跡トレンチ配置図 S= 1/600



第 71 図 横ノ口遺跡柱状図 S= 1/40



横ノ口遺跡出土遺物

13 長岡山東遺跡

- (1) 調査日 平成 28 年 9 月 15 日
- (2) 調査場所 南陽市長岡字西田中 1437-2
調査対象地（工事）面積 298m²
- (3) 調査原因 民間開発（93 条）
- (4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の長岡山東遺跡の範囲内である。住宅建築の計画が生じたことから、調査対象面積 298m²について、10m グリッドを配し、幅 2 m × 長 10m の試掘溝 2 箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

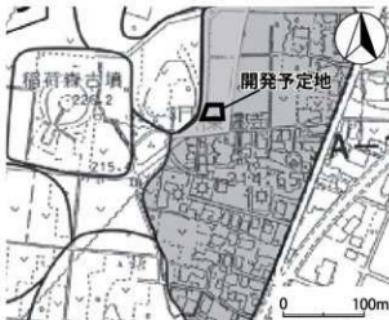
(5) 結果

遺構は検出されなかった。遺物は旧表土層から縄文土器・石器、土師器等が検出された。

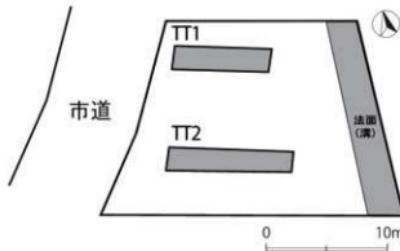
(6) 考察

調査地は、長岡山丘陵東側の山裾の緩斜面にあたる。対象地北側隣地は昨年度に試掘調査を実施している。今回の試掘では、遺構は検出されなかったが、遺物は各トレンチにおいて旧表土層から出土し、縄文土器片と石器、土師器（甕）等、コンテナ 3 箱分を検出した。

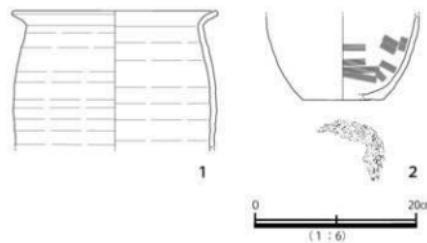
地山は、山側の硬い暗褐色粘土層が東へ沈み込む状況が見られた。遺構面はこの暗褐色粘土層上と見られ、現表土からは約 80cm 下となる。TT2 の山側では一部焼土が見られたが、対象地はかつて山芋畑として利用されていたため深い層まで擾乱されており、明確な遺構は確認できなかった。TT1 でみられるピット群は上位層から斜めに掘り込まれており、山芋栽培穴と判断される。



第 72 図 長岡山東遺跡開発予定地位置図
S= 1/6000



第 73 図 長岡山東遺跡トレンチ配置図 S= 1/400



50 第 74 図 長岡山東遺跡出土遺物実測図 S=1/6

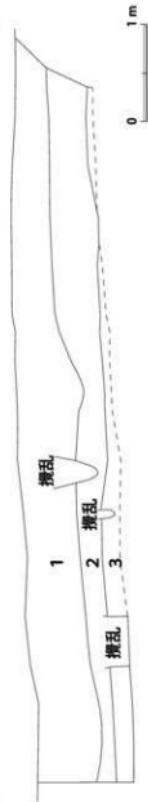


長岡山東遺跡出土遺物（縄文土器）

TT 1 (南壁) H=214.7m

東

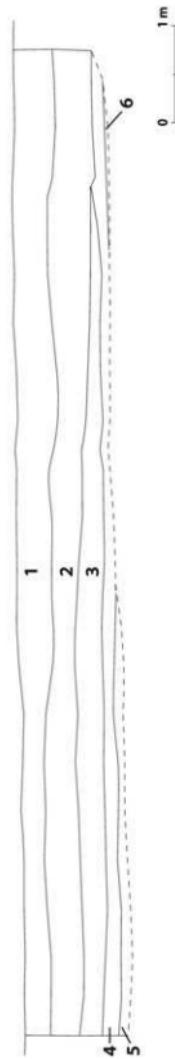
西



TT 2 (南壁) H=214.7m

東

西



- | | |
|--------------------|--------------------|
| TT 1 | TT 2 |
| 1 喬泥色砂質粘土 (耕作土、盛土) | 1 喬泥色砂質粘土 (耕作土、盛土) |
| 2 黑色砂質粘土 (田耕土) | 2 黑色砂質粘土 (田耕土) |
| 3 オリーブ褐色粘質砂層 | 3 オリーブ褐色粘質砂層 |
| 4 やや暗い褐色粘質砂層 | 4 やや暗い褐色粘質砂層 |
| 5 明オリーブ褐色粘質砂層 | 5 明オリーブ褐色粘質砂層 |
| 6 黑褐色粘土 (硬い、崩土有り) | 6 黑褐色粘土 (硬い、崩土有り) |

第75図 長岡山東遺跡 TT1、TT2 断面図 S=1/50

14 中ノ目下遺跡

(1) 調査日 平成 28 年 9 月 16 日

(2) 調査場所 南陽市中ノ目字卯ノ木浦 562-3、563-1、564-1

調査対象地（工事）面積 2,862m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の中ノ目下遺跡の西辺にかかる。集合住宅建築の計画が生じたことから、調査対象範囲 2,862m²について、20m グリットを配し幅 1m × 横 1m の試掘穴 9 箇所と幅 1m × 長 5m の試掘溝 1 箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻した。

(5) 結果

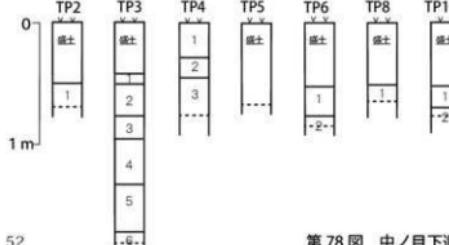
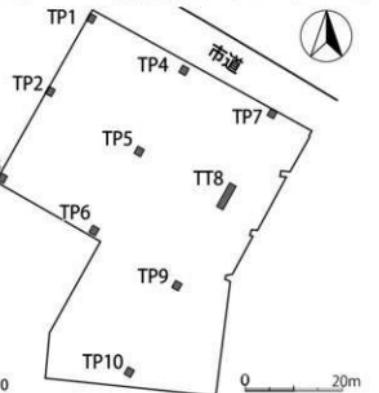
遺構・遺物は検出されなかった。現況は表土剥離の後に盛土されている状況である。

(6) 考察

中ノ目下遺跡は、長岡山丘陵から南へ連なる自然堤防上に立地している。今次対象地は、この自然堤防の西端にあたり、西に傾斜する低地になっている。

遺構・遺物は検出されなかった。TP 3 は他の地点と土層の様相が異なり、湿地性の堆積層が見られることから、TP 3 の位置に小河川跡や溝跡がある可能性がある。

周辺踏査においては、対象地の北に位置する畠地で須恵器片が散布する状況を確認した（周知の遺跡範囲内）。地権者の話では「北西に広がる水田は元は高低差のある川岸地形で、昭和 42 年に均し、高い場所を削った際に多くの土器片や壺が出てきた。素人目にも住居址と思われる場所がいくつか見られ、土器片等は低地に土砂とともに埋めた。」とのこと。調査結果から遺跡の中心は北西から南東方向に延びている自然堤防上にあると思われる。



TP2	1 黄褐色砂質粘土	TP4	1 褐色粘土
	2 噴オーリーブ褐色粘土	2	2 噴オーリーブ褐色粘土
	3 灰黄褐色粘土	3	3 灰黄褐色粘土
	※盛土が無い地点		
TP3	1 噴褐色粘土	TP6 ~ 10	
	2 噴オーリーブ褐色粘土		
	3 噴灰色粘質砂層		
	4 噴灰色粘質砂層(粗砂多い)	1 黄褐色砂質粘土	
	5 噴灰色粘土	2 灰褐色粘質砂層	
	6 黒色粘土		

第 78 図 中ノ目下遺跡柱状図 S= 1/40

15 宮内字三番縄

- (1) 調査日 平成 28 年 10 月 4 日、5 日
(2) 調査場所 南陽市宮内字三番縄 868、869-2
調査対象地（工事）面積 6,016m²
(3) 調査原因 民間開発
(4) 調査方法及び内容

当該地は、齊藤館跡や富貴田遺跡の南南東に位置し、条里制水田があったとされる地域にあたり、遺跡分布調査未実施地域である。農産物出荷施設建設の計画が生じたことから調査対象範囲 6,016m²について、20m グリッドを配し、幅 2 m × 長 20m の試掘溝 5 箇所で試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

遺構は時代不明の溝跡が検出された。遺物は表土層から須恵器片が 1 点出土した。

(6) 考察

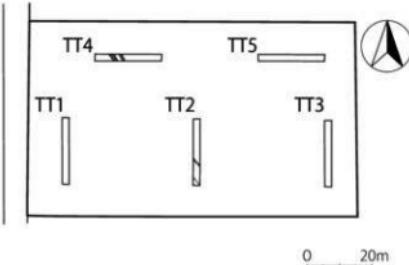
今次調査地は、宮内扇状地の扇央部にあたり、一帯には水田地帯が広がっている。沖郷条里制の推定範囲内に位置し、対象地北側の字名は中ノ坪となっている。現況は、東側の水田より 1 段低い畑地となっている。

遺物は T T 4 表土層から須恵器片が 1 点出土したが流れ込みと考えられる。遺構は、時代不明の溝跡（S D 1 ~ 4）4 条を検出した。S D 1・2 は平行する溝跡で、芯・芯間で幅 3.5m、古道側溝の可能性がある。明治 8 年字限図から S D 3・4 は耕地整理以前の水田区画の可能性があるが S D 1・2 に対応する区画はないことから、より古い溝跡と思われる。T T 1 の北端では面上に湿地性の土壤の堆積が見られた。

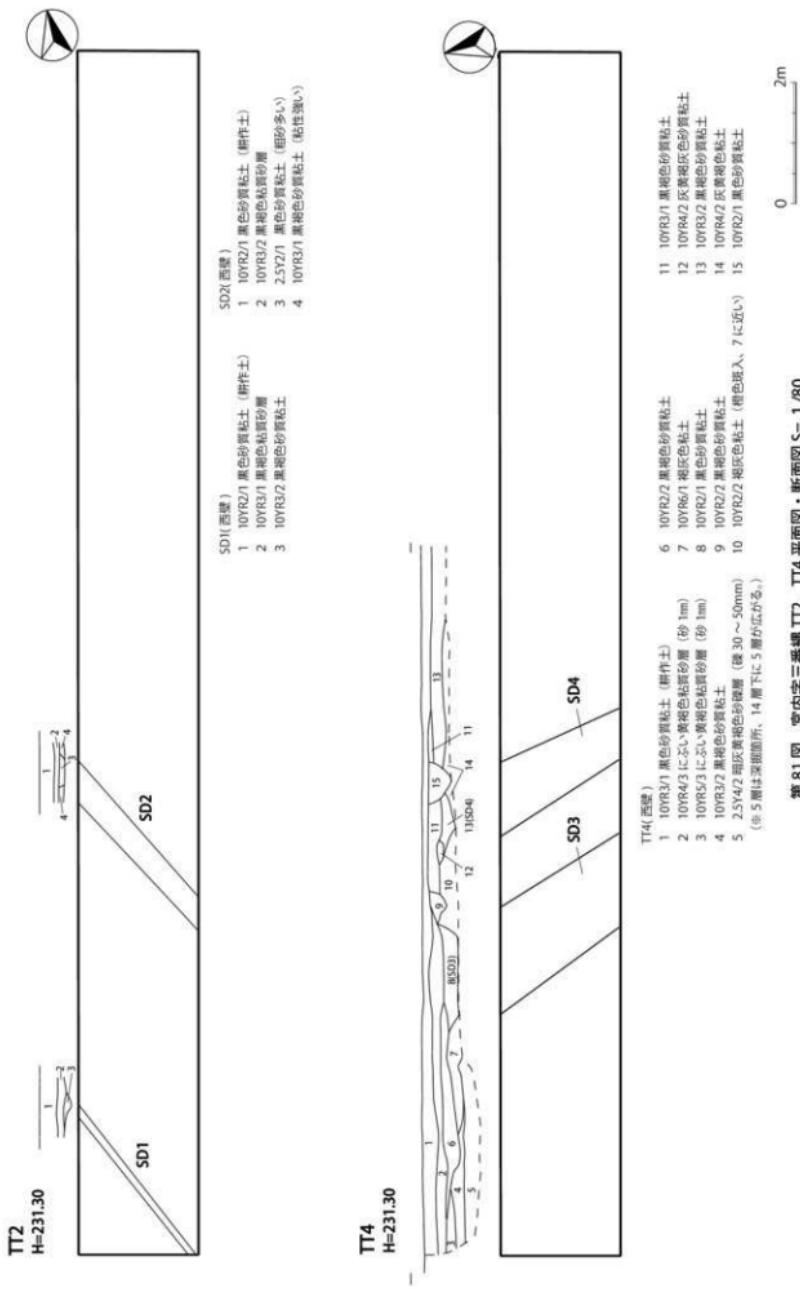
地山は灰黄褐色粘土である。沖郷地区で平安時代の遺構面として検出される土質であるが、他地域に比べ浅い。灰黄褐色粘土層下には礫層や灰色粘質砂層が確認され、比較的流れの強い河川堆積作用を受けた時期がある場所と思われる。



第 79 図 宮内字三番縄開発予定地位置図
S= 1/6000



第 80 図 宮内字三番縄トレンチ配置図 S= 1/1500



第81図 宮内字三番縄TT2、TT4平面図・断面図 S=1/80

16 若狭郷屋敷跡

(1) 調査日 平成 28 年 10 月 13 日

(2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字浦城 693-2、552-1

調査対象地（工事）面積 2,155m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

当該地は、若狭郷屋敷跡の西辺に位置する。集合住宅の建築計画が生じたことから、調査対象範囲 2,155m²について、10m グリットを配し、幅 1m × 長さ 1m の試掘穴 6 箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

遺構・遺物は検出されなかった。

(6) 考察

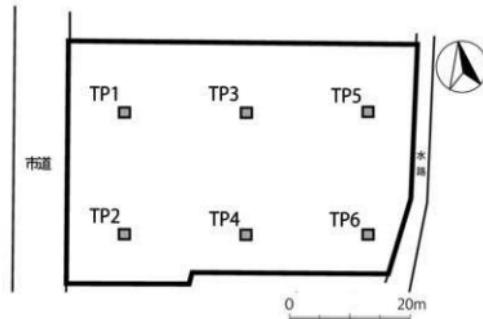
調査地は、吉野川旧河道左岸にあたり、自然堤防西側の低地である。現況は果樹園で、東側の果樹園地より一段低いため、対象地北側では 70 ~ 80cm 盛土されている。

TP 1 ~ 3 は盛土部分にあたり、盛土が厚く硬いため十分な掘り下げができなかった。盛土の無い TP 4、6 では、現地表面から約 70 ~ 90cm 下で湿地性の砂層となる。

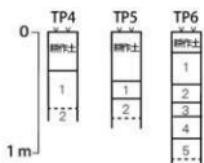
すべての試掘地点で遺物・遺構は検出されなかった。対象地の東に位置する微高地の墓地では小型板碑 1 基（高 40cm、幅 20cm）を確認した。今次調査結果から、遺跡範囲は対象地東側を流れる水路から東と考えるのが妥当であろう。



第 82 図 若狭郷屋敷跡開発予定地位置図
S= 1/6000



第 83 図 若狭郷屋敷跡試掘位置図
S= 1/800



TP4	TP6
1 暗褐色粘質砂層（礫多い）	1 くすんだ褐色砂質粘土
2 灰褐色砂質粘土	2 灰褐色砂質粘土
3	3 褐色砂質粘土
4	4 灰色砂質粘土
5	5 灰色粘質砂層

第 84 図 若狭郷屋敷跡柱状図 S= 1/40

17 西田遺跡

(1) 調査日 平成28年10月13日、11月29日

(2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字西ノ畑（字扇田）363-3、364-1

調査対象地（工事）面積629.23m²

(3) 調査原因 民間開発（93条）

(4) 調査方法及び内容

当該地は、西田遺跡範囲内に位置する。住宅建設の計画が生じたことから調査対象範囲629.23m²について、幅1m×長1mの試掘穴2箇所と幅1m×長4mの試掘溝1箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

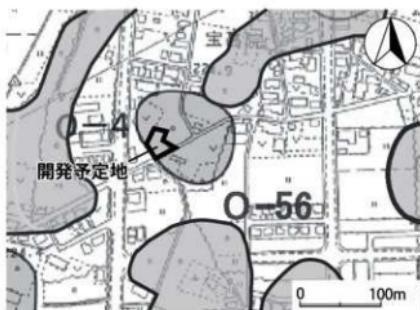
(5) 結果

遺構は、竪穴住居跡を1棟検出した。遺物は、平安時代の土師器、須恵器を検出した。

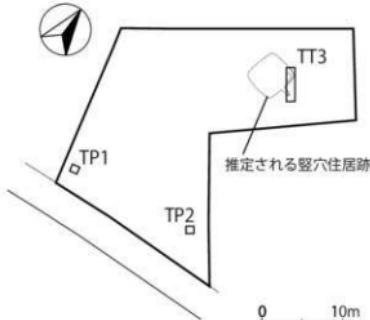
(6) 考察

調査地は、西田遺跡の範囲となっており、吉野川旧河道の右岸の微高地にあたる。地目は宅地及び畠地となっている。字名は段階的に統合され現在は扇田となっている。

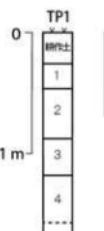
TP1では遺構は確認されず、表土層から土師器片が1点出土した。TP2では遺構は浅い落ち込みが確認され、遺構直上から土師器片が数点出土した。TT3では竪穴住居跡の一部と煙道とみられる落ち込みを確認した。遺物は包含層及び覆土から土師器（甕等）、須恵器（壺、甕等）が出土した。竪穴住居跡の残存状況は悪く、断面で約10cm程度である。煙道付近の上位層（第2層下部）から長胴甕片が多く検出された。竪穴住居跡は西壁に竈を有し、東西南北の方位を意識して建てられているとみられ、大きさは4m程度で形状は隅丸方形と推定される。遺構面は地表下約50～70cmである。



第85図 西田遺跡開発予定地位置図 S= 1/6000

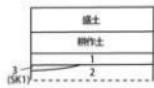


第86図 西田遺跡試掘位置図 S= 1/600



第87図 西田遺跡柱状図 S= 1/40

TP2(南壁)



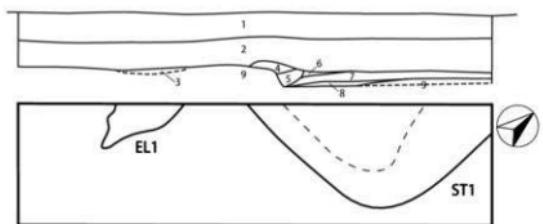
TP2

- 1 褐色粘土
2 灰褐色砂質粘土
3 黑褐色粘質砂層 (燒土含む)

TT3 H=GL(225m)+20cm

南

北



TT3

- | | |
|---------------------|-----------------------------|
| 1 褐色砂質粘土 | 6 褐色砂質粘土 (炭多い) |
| 2 明褐色砂質粘土 | 7 明褐色砂質粘土 (粘土塊混じる。硬く縮まる) |
| 3 暗褐色砂質粘土 (燒土含、炭多い) | 8 明褐色砂質粘土 (炭混じる) |
| 4 明褐色砂質粘土 (燒土・炭含む) | 9 やや灰色味のある褐色砂質粘土 (硬く縮まる。地山) |
| 5 褐色砂質粘土 (褐色粘土粒混じる) | |

0 1 m

第 88 図 西田遺跡 TP2 断面図・TT3 平面図・断面図 S= 1/40



TP2 耕作土層



TT3 第 1 層



TP2 第 1 層



TT3 第 2 層



TP2 第 1 層下部



TT3 第 7 層上部

西田遺跡出土遺物

18 中落合遺跡（中落合館跡）

(1) 調査日 平成 28 年 10 月 24 日

(2) 調査場所 南陽市中落合字宅地 221-6

調査対象地（工事）面積 481m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

当該地は、中落合遺跡及び中落合館跡の範囲内に位置する。住宅建築の計画が生じたことから、調査対象範囲 481m² のうち既設建物を除く地点について、5 m グリッドを配し、幅 1 m × 長 5 m の試掘溝 1 箇所、幅 1 m × 長 2 m の試掘溝 2 箇所を設定し、試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

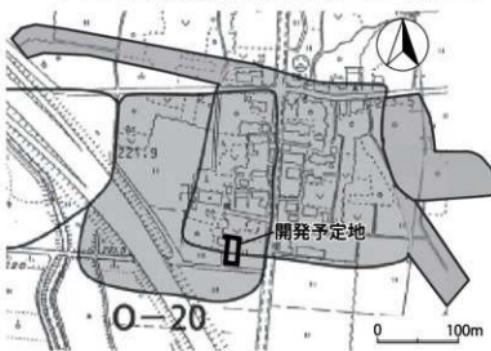
遺構・遺物は検出されなかった。

(6) 考察

中落合遺跡は、古代置賜郡衙に関連するとみられる重要な遺跡である。調査地は、掘立柱建物群が検出された平成 17 年度発掘調査地から東へ約 100m に位置し、中落合館跡の南辺にあたる。北側の微高地より 50cm ほど低い土地で、宅地化される以前は水田であった。

遺構・遺物は検出されなかった。水田の地表面から約 65cm 下、盛土部分では地表面から約 85cm 下で近隣調査例で遺構面となるオーリープ（黄）褐色系の土層となる。

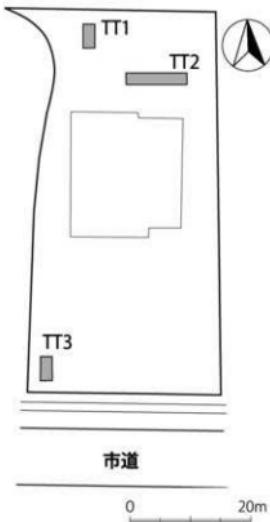
遺構が検出されなかったことから、平成 17 年度に確認された周縁施設を有する掘立柱建物群は、当該地まで広がる可能性は低いと思われるが、官衙における建物配置の特性からすれば、試掘地点が建物と建物の間に位置している可能性も考慮する必要がある。



第 89 図 中落合遺跡開発予定地位置図 S= 1/6000

TP1	TT2	TP3	TP3
盛土	盛土	1	1 暗褐色粘質砂層
1		2	2 灰褐色砂質粘土
2		3	3 増褐色粘土
3		4	4 灰色砂質粘土
		TT2	
		1 暗褐色粘土（粘性強）	
		2 くすんだ暗灰色粘土（粘性強）	
		3 増オーリープ褐色粘土（粘性強）	
		4 明灰色粘土	

第 91 図 中落合遺跡柱状図 S= 1/40



第 90 図 中落合遺跡トレンチ配置図 S= 1/800

19 中里遺跡（1）

(1) 調査日 平成 28 年 11 月 14 日

(2) 調査場所 南陽市高梨字中里 728-1

調査対象地（工事）面積 502m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

対象地は、中里遺跡の範囲内である。太陽光発電施設整備の計画が生じたことから、調査対象範囲 502m²について、10 m グリッドを配し、幅 1 m × 長 5 m の試掘溝 2 箇所と幅 1 m × 長 2 m の試掘溝 2 箇所、縦横 1 m の試掘穴 2 箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

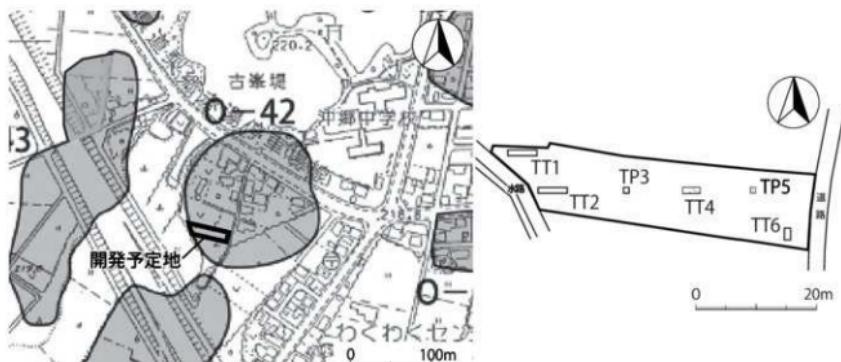
遺構は土壌とピットを検出した。遺物は平安時代の須恵器、土師器を検出した。

(6) 考察

調査地は、中里遺跡の範囲内となっている。中里遺跡は、古代置賜郡衙に関連する郡山遺跡群の中央に位置する平安時代の遺跡である。調査地の約 100 m 南には県埋文センターが平成 16 年に発掘調査を実施した西中上遺跡が位置する。調査地の西に吉野川旧河道が南北に走り、調査地は旧河道左岸の自然堤防にあたる微高地となっている。微高地は TT 4 付近が高く、西側に向かって緩やかに下り、東側の TT 6 付近もわずかに低くなる。

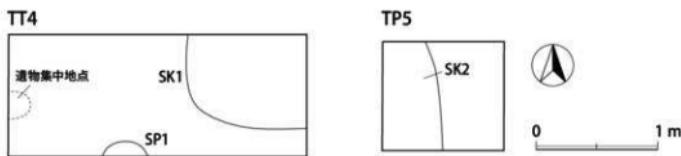
遺物は、TT 4、TP 5 では遺構面の直上から平安時代の須恵器片及び土師器片が多く出土した。TT 1、2 では表土層（第 1 層）から土師器片が各 1 点出土した。TT 2、6 では周辺の地表面で須恵器片が数点採取された。

遺構は、TT 4 と TP 5 で検出された。TT 4 では土壌 1 基、ピット 1 基を確認、土壌（SK 1）は炭や土器小片混じりの粘土層に掘り込まれており、この粘土層自体が竪穴住居の貼床の可能性もある。TP 5 の土壌（SK 2）も竪穴住居の一部である可能性がある。西中上遺跡で確認された南北方位の溝跡（H16 年調査の SD 3・4、6）の延長線上に TT 1・TT 2 を配置したが遺構は検出されなかった。遺構面の深さは、地表面から約 30～40cm で、微高地の最高所（TT 4・TP 5）付近に遺構が集中する状況がみられた。

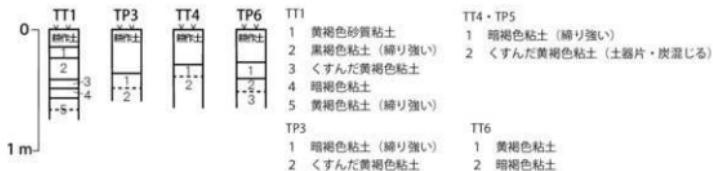


第 92 図 中里遺跡(1)開発予定地位置図 S= 1/6000

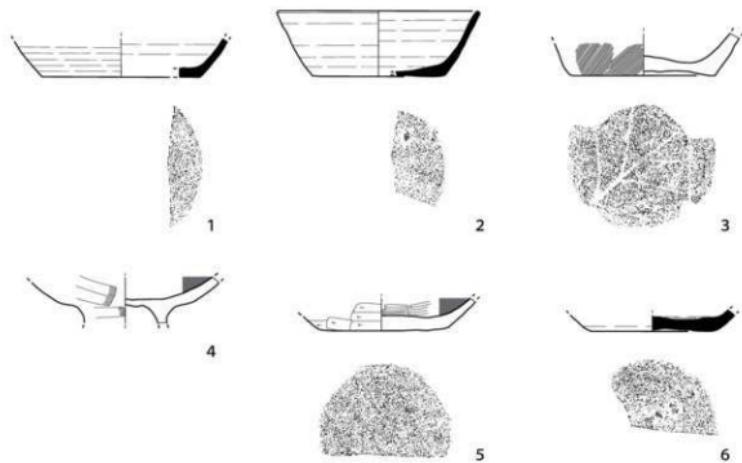
第 93 図 中里遺跡(1)試掘位置図 S= 1/800



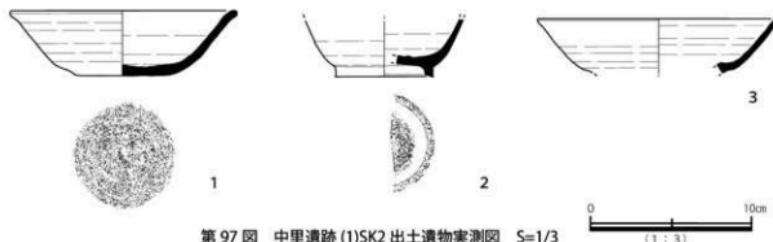
第 94 図 中里遺跡 (1) 平面図 S= 1/40



第 95 図 中里遺跡 (1) 柱状図 S= 1/40



第 96 図 中里遺跡 (1) TT4 出土遺物実測図 S=1/3
0 10cm
(1 : 3)



第 97 図 中里遺跡 (1) SK2 出土遺物実測図 S=1/3

20 中里遺跡（2）

(1) 調査日 平成 28 年 11 月 14 日

(2) 調査場所 南陽市高梨字中里 721-1、720-2

調査対象地（工事）面積 346.90m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

対象地は、中里遺跡の範囲内である。住宅建設の計画が生じたことから、調査対象範囲 346.90m²のうち試掘可能範囲に縦横 1m の試掘穴 1 箇所を設定し、手掘りで試掘を実施した。試掘後は埋め戻しを行った。また、工事立会を行った。

(5) 結果

遺構は検出されなかった。対象地周囲の堀工事の際に須恵器が 1 点出土した。

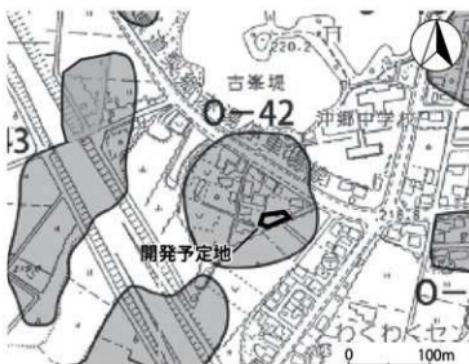
(6) 考察

調査地は、中里遺跡の範囲内となっている。中里遺跡は、古代置賜郡衙に関連する郡山遺跡群の中央に位置する平安時代の遺跡である。今次調査は、吉野川旧河道の左岸に位置する自然堤防上にあたる。対象地東側の境となる用水路の東側にはかつて「こばと保育園」があり、保育園移転による解体工事の際には須恵器片の散布が確認されている。

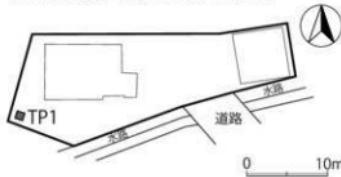
調査は、盛土を実施していない西側において実施した。試掘穴からは遺構・遺物は検出されなかった。敷地を囲う堀の基礎掘りの際に北側中央付近で、残土から須恵器片（稜楕）1 点を採集した。また、敷地西半は表土剥離後に踏査したが遺物は確認できなかった。

試掘は表土剥離後に実施したため、第 1 層は本来第 2 層に相当する層で、近接地での調査例では、遺物包含層または遺構確認面となる層である。同様に、第 2 層の黄褐色粘土層は、周辺では遺構面として検出される層にあたり、深さは現況で約 35cm である。

出土遺物は稜楕 1 点だが、遺跡の東に立地する西原東遺跡でも稜楕が一定数出土している。稜楕は寺院との関連を伺わせる遺物で、沖郷中学校の道路を挟んで東に七堂伽藍の大寺があったとする地域伝承との関連も考えられる。



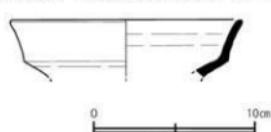
第 98 図 中里遺跡（2）開発予定地位置図 S= 1/6000



第 99 図 中里遺跡（2）試掘位置図 S= 1/600



第 100 図 中里遺跡（2）柱状図 S= 1/40



第 101 図 中里遺跡（2）出土遺物 実測図 S=1/3

21 檜原遺跡

(1) 調査日 平成 28 年 11 月 16 日

(2) 調査場所 南陽市西落合字東原 466-1

調査対象地（工事）面積 479m²

(3) 調査原因 民間開発（93 条）

(4) 調査方法及び内容

対象地は、檜原遺跡の範囲内である。住宅建設の計画が生じたことから、調査対象範囲 479m²のうち昨年度調査で営農のため試掘できなかった西北部の地点について、10m メッシュを基本に幅 1 m × 長 5 m の試掘溝 1 箇所、縦横 1 m の試掘穴 1 箇所を設定し、手掘りにより試掘を行った。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

遺構は溝跡等を検出した。遺物は中世陶器片が出土した。

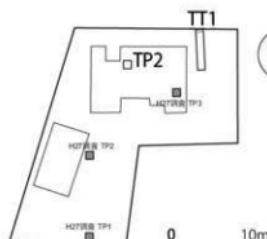
(6) 考察

調査地は、檜原遺跡の範囲内となっている。対象地は、上無川右岸の自然堤防にあたり、対象地の西に位置する道路工事の際には県埋文センターが本調査を実施（平成 18 年度）し、主として中世の建物跡を検出している。立地的には置賜郡衙関連遺跡である中落合遺跡の真西にあたる。

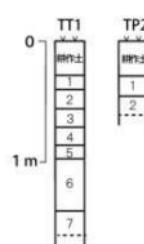
遺構は、T T 1 北端で溝跡 1 条とピット 1 基を検出した。遺物は溝跡直上から中世陶器片（壺器系陶器、甕）が 1 点検出されている。遺構面は地表面から約 55cm 下である。平成 18 年度の報告書では屋敷跡を囲む溝跡があると推定されているが、T T 1 の溝跡は細く浅いことから屋敷跡を囲む溝とは異なると思われる。しかし、調査地北辺沿って東西方向に走る農道状の平坦な区画があり、その北側は一段地表面が高いことから、T T 1 のすぐ北側に屋敷跡に伴う東西方向の溝跡がある可能性は残る。



第 102 図 檜原遺跡開発予定地位置図
S= 1/6000

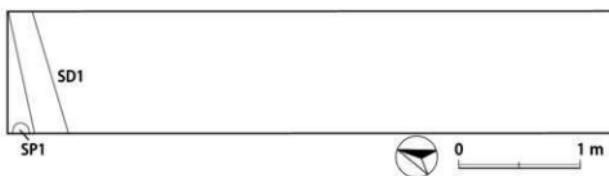


第 103 図 檜原遺跡試掘位置図
S= 1/600



TT1
1 黄褐色砂質粘土
2 黒褐色砂質粘土
3 黄褐色粘質砂層（透構面）
4 褐色粘質砂層
5 黑褐色粘土
6 黄褐色粘土
7 灰褐色粘土

TP2
1 褐色砂質粘土
2 黄褐色砂質粘土



第 104 図 檜原遺跡 TT1 平面図 S= 1/40

第 105 図 檜原遺跡柱状図
S= 1/40

22 長岡字東田中

(1) 調査日 平成 28 年 12 月 13 日

(2) 調査場所 南陽市長岡字東田中 492-1、497-1 他

調査対象地（工事）面積 2,982.02m²

(3) 調査原因 民間開発

(4) 調査方法及び内容

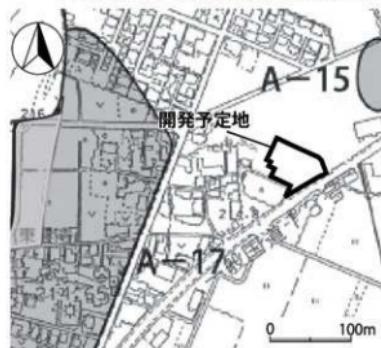
対象地は、長岡山東遺跡の東に位置し、遺跡分布調査未実施地である。民間店舗の建設設計画が生じたことから、長岡山東遺跡の範囲を確認するため調査対象範囲 2,982.02m²について、10m メッシュを基本に幅 1.6 m × 長 10m の試掘溝 2 箇所を設定し、試掘を行った。TT2 は盛土中のコンクリート塊のため掘削できず、長さ 5 m で試掘を実施した。試掘溝は、東端を一部深掘りして土層を確認した。試掘後は埋め戻しを行った。

(5) 結果

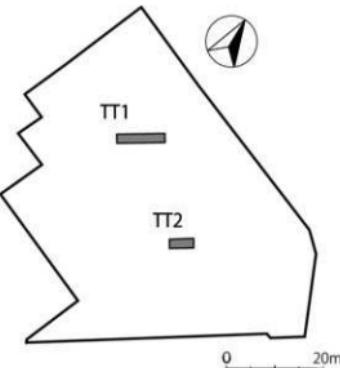
遺構・遺物は検出されなかった。

(6) 考察

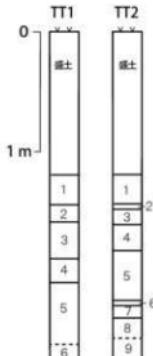
調査地は、長岡山東遺跡の東約 100m の位置にあたる。長岡山丘陵から東へ広がる緩斜面から大谷地低地へ変化し、東へ低くなる地形とみられる。遺構・遺物は検出されなかつたことから、長岡山東遺跡や太子堂遺跡は調査地までは広がっていないと思われる。



第 106 図 長岡字東田開発予定地位置図 S= 1/6000



第 107 図 長岡字東田中トレンチ配置図 S= 1/1000



第 108 図 長岡字東田中柱状図 S= 1/40

IV 立会調査

1 郡山字六百刈（早稲田遺跡隣地）

(1) 調査日 平成 28 年 1 月 8 日～2 月 16 日

(2) 調査場所 南陽市郡山字六百刈、字塚田

(3) 調査原因 下水道整備

(4) 調査方法及び内容

当該地は、周知の早稲田遺跡の隣地にあたる。工事は、現市道にボックスカルバートを埋設する工事である。調査対象地延長 115m の工事に際し、掘削状況を確認し、遺構・遺物の有無の確認と地質の確認を行った。

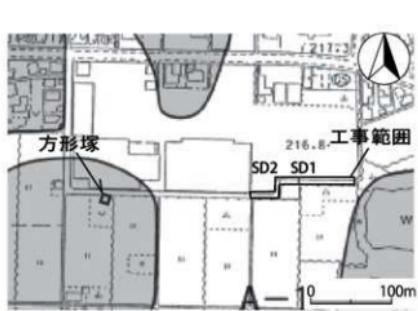
(5) 結果

溝跡 2 条が確認されたが 1 つは新しい溝である。遺物の出土はなかった。

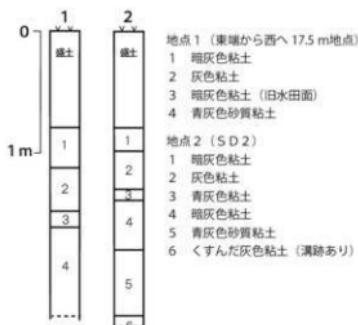
(6) 考察

工事範囲内で南北方位の溝跡が 2 条確認された。SD 1 は盛土層直下（約 70cm 下）で検出され、平成 8 年頃まで使用されていた新しい溝跡である。SD 2 は、工事予定地西端で確認された。地表面から約 230cm の深さで検出され、幅 120cm で溝底付近のみ残存している状況とみられ、溝の深さは現況で 15 ～ 20cm であった。出土遺物が無いことから SD 2 の時代は不明であるが、旧表土面から底部までの深さや周辺土層との比較からすれば平安時代頃まで遡る可能性はある。

周辺踏査では、周知の早稲田遺跡内で約 30cm 高の低平な方形マウンドを確認した。マウンドは上場で縦横ともに 3.5m、下場では縦横ともに 7 m である。マウンド上には小石祠が祀られている。当該地の東側の字名は「塚田」である。近世・中世塚の可能性が考えられるが、市内では塚地名における古墳確認例が多いことから、古墳にも注意が必要である。塚の西側には古墓地があり近世板碑があり、周辺で須恵器片を表採した。



第 109 図 郡山字六百刈開発予定地位置図
S= 1/6000



第 110 図 郡山字六百刈柱状図 S= 1/40

2 西原遺跡

- (1) 調査日 平成 28 年 1 月 12 日～2 月 29 日
- (2) 調査場所 南陽市漆山字西原
- (3) 調査原因 民間開発(93 条)
- (4) 調査方法及び内容

対象地は、西原遺跡の範囲にあたるため立会調査を行い、遺構・遺物の確認と記録を行うこととした。対象地のうち、西側の低地部は埋め立て、微高地部分は旧耕作土を剥いで盛土する予定のため、工事の進捗にあわせ概ね週 3 回の間隔で工事立会を実施した。

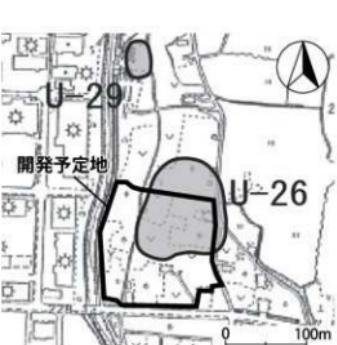
(5) 結果

表土剥離工事後に確認、遺構は竪穴住居跡 3 箇所と溝跡 3 箇所である。遺物は住居址覆土等から土器類、須恵器が検出された。

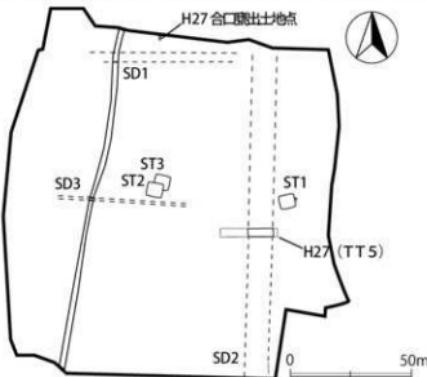
(6) 考察

対象地は、織機川左岸の自然堤防上にあたる。工事範囲北辺から南へ約 50 m までは約 20cm、それ以南では 30 ~ 40cm の表土剥離及び切土が行われ、微高地の中央付近で竪穴住居跡を 3 棟確認した。調査地北側では遺構面まで掘削されないことから従前の調査結果からすれば住居跡がさらに北側にも存在している可能性もある。竪穴住居跡は、粗砂を主体とした黄褐色粘質砂層を遺構面とし、何れも短軸約 5 m × 長軸約 6 m である。S T 1 は東側に竈を有する。S T 2 と S T 3 は切合い関係から S T 3 が先行すると思われる。

S T 2 の覆土からは「生」の刻書がある坏蓋片等が出土した。住居跡は盛土工事直前の最終確認段階になって確認されたため、調査は検出状況の平面図作成のみにとどめざるをえなかった。溝跡を 3 条 (SD 1 ~ 3) 検出、SD 1、3 は東西方位の溝跡である。SD 2 は幅約 10m の南北方位の大溝跡と思われ、条里制水田の区画に関連する可能性がある。



第 111 図 西原遺跡開発予定位置図
S= 1/6000



第 112 図 西原遺跡調査平面図 S= 1/2000



第 113 図 西原遺跡 ST2 覆土出土遺物実測図 S=1/3

3 桁塚字前田

- (1) 調査日 平成 28 年 1 月 13 日、9 月 30 日
- (2) 調査場所 南陽市桿塚字前田
- (3) 調査原因 民間開発
- (4) 調査方法及び内容

対象地は、桿塚館の山遺跡の隣地で遺跡分布調査未実施地である。2 件の住宅建築の計画が生じたことから立会調査を行う。開発予定地 1（地点 1）は、基礎工事の際に深掘地点の縦横 1.5 m を調査し、開発予定地 2（地点 2）は擁壁工事の際に調査を実施した。

(5) 結果

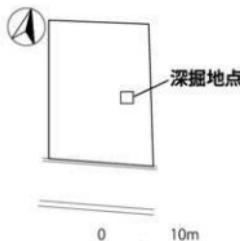
地点 1 で焼土のある層を確認した。遺物は検出されなかった。

(6) 考察

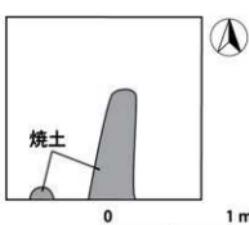
対象地は、桿塚館の山の南緩斜面末端付近に位置し、吉野川の左岸にあたる。地点 1 では、深掘地点で表土から約 90cm の深さで焼土を確認した。焼土層の上位層には炭と若干の土器粒を含むが、明確な遺物は出土しなかったことから時代は不明である。サブトレンチを設け手掘りでさらに下層を確認したが遺構・遺物は確認されなかった。深掘地点以外では掘削は浅く遺構・遺物は確認できなかった。地点 2 では、対象地北辺の擁壁工事の際に確認、長 10 m × 幅 2 m で 90cm の深さまで面的に掘削したが遺構・遺物ともに確認されなかった。



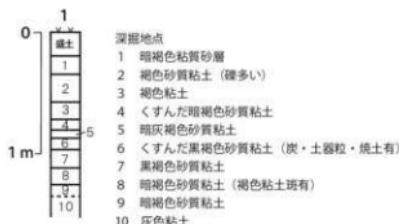
第 114 図 桁塚字前田開発予定地位置図
S= 1/6000



第 115 図 桁塚字前田 (地点 1) 調査位置図
S= 1/600



第 116 図 桁塚字前田 (地点 1)
深掘地点平面図 S= 1/40



第 117 図 桁塚字前田 (地点 1)
柱状図 S= 1/40

4 宮内字八幡田二

(1) 調査日 平成28年1月13日～2月8日、平成29年1月24日～2月3日

(2) 調査場所 南陽市宮内字八幡田二

(3) 調査原因 市道整備

(4) 調査方法及び内容

対象地は、市道旭町高梨線で遺跡分布調査未実施地である。道路側溝兼用水路の付け替え工事に伴い、遺跡の有無を確認するため立会いを行う。既存水路の付け替え工事であるため遺構の確認は主に断面で行った。

(5) 結果

6条の溝跡を検出した。遺物は検出されなかった。

(6) 考察

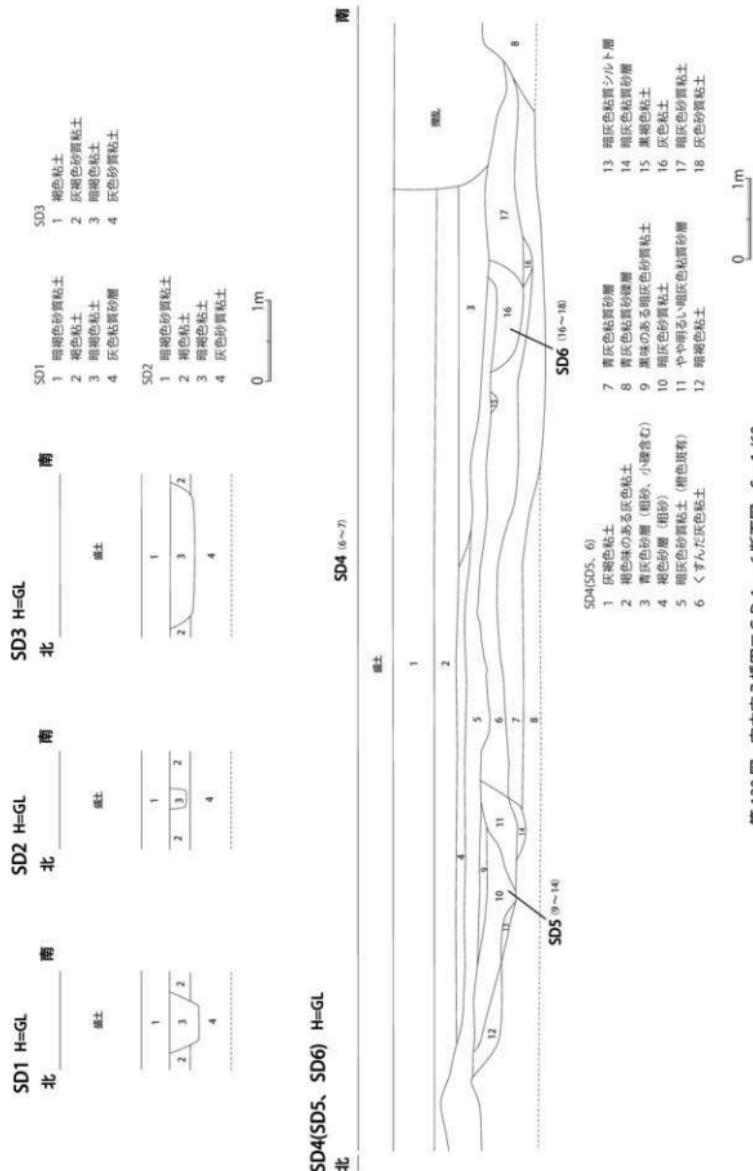
対象地は、宮内扇状地の扇央部にあたり、条里制水田があったと推定される地域である。遺物は出土しなかったため時代は不明であるが溝跡を6条確認した。このうちSD5・6はSD4と重複している。地表から概ね1mは盛土・整地層である。

溝跡は東西方位に掘られており、SD3とSD4の方針は概ねS-8°-Eで、SD1とSD2は概ねS-12°-Eである。SD4は河川跡の可能性もあるが、溝の深さは約80～100cm、幅は10～12mである。SD4の上位層である第5層は北端部で疑似畦畔とも考えられる高まりを示す。SD4(SD5)は、これまで推定されている沖郷条里制の条里の里境ラインに一致する可能性がある。



第118図 宮内字八幡田二開発予定地
位置図 S=1/6000

第119図 宮内字八幡田二調査平面図 S=1/1000



第120図 宮内字八幡田二SD1~6断面図 S=1/60

5 宮内字下田一

- (1) 調査日 平成 28 年 6 月 10 日
- (2) 調査場所 南陽市宮内字下田一 2435
- (3) 調査原因 民間開発(不時発見)
- (4) 調査方法及び内容

対象地は、遺跡分布調査未実施地である。不時発見の連絡があったことから調査を行う。

(5) 結果

遺構は確認されなかった。遺物は古銭(米沢藩の藩銭等)である。はんちゆうせん

(6) 考察

出土地は、宮内字下田一の道路交差点南側の宅地である。住宅を取り壊し後に手掘りで 30cm 程掘削した際に石に混じって古銭が出土した。

穴は既に埋め戻されており、地表面を踏査したが特に遺物は確認されなかった。出土地の辯沿いに縦横 30cm 程の四角い凝灰岩が 2 つ置かれており、石塔等の一部である可能性がある。道路向かいには古峯講の石碑等があることから、出土地点付近にも何らかの祠等があった可能性があり、古銭は奉納又は埋納したものとも考えられる。

出土した古銭は、江戸時代の貨幣「天保通宝」と、明治初期に米沢藩が発行した藩銭で表面に「生産局 價二百」、裏面に「三十四匁 米藩通用換札」と記されている。米沢藩の領内で流通した鉛銭で、新政府の指示により藩札回収のために鋳造された貨幣と考えられており、使用時期は明治初期に限られる。市内での出土例は初めてである。縦 5.5cm × 横 4.6cm、厚さ 5mm、穴は縦長で縦 9mm × 横 7mm である。



第 121 図 古銭出土地点位置図 S= 1/6000



宮内字下田一出土古銭拓本

6 若狭郷屋敷跡

- (1) 調査日 平成28年8月9日～23日
- (2) 調査場所 南陽市若狭郷屋字浦城、字内方
- (3) 調査原因 市道整備(94条)
- (4) 調査方法及び内容

対象地は、若狭郷屋敷跡の東辺にあたることから、工事の進捗にあわせて調査を行う。

(5) 結果

遺構はピットを検出した。遺物は土師器片を検出した。

(6) 考察

対象地は、中世城館址の若狭郷屋敷跡の範囲内で、吉野川旧河道左岸にあたり、小規模な自然堤防が点在する地形となっている。市道の南北方向の工事範囲では、北端(地点1、2)を除いて掘底付近は河川跡と思われる砂礫層で、市道北端から東西方向の工事範囲では、締りの強い黄褐色粘土層が掘底まで堆積する。

遺構は、市道北端付近の地点1で、地表面から105cm下の暗褐色粘土層に掘り込まれた直径約30cmのピットを1基確認した。旧表土からは約50cm下となる。

遺物は、市道が東に折れてから約10m東へ進んだ地点2において、地表面から約90cm下から平安時代とみられる土師器片(長胴甕)が1点出土した。周辺踏査では、隣接する稲荷神社付近で須恵器片が表採された。市道北端角の地点では重機による掘削の際に丸太(面取なし)や四角い板材が数点掘り出されたが、出土層や木材の磨耗状況から木材は近世以降の用水路に伴うものと思われる。

遺構・遺物の状況から、市道北端付近の西～西北側に遺跡の主体があるものと推定され、時代区分に平安時代を追加する必要がある。



第122図 若狭郷屋敷跡開発予定地位置図
S=1/6000



第123図 若狭郷屋敷跡柱状図 S=1/40

7 矢ノ目館跡

- (1) 調査日 平成 28 年 9 月 1 日、23 日
(2) 調査場所 南陽市郡山字両角一 1071-35、1071-1
(3) 調査原因 民間開発(93 条)
(4) 調査方法及び内容

対象地は、矢ノ目館跡の北端にあたる。住宅建築の計画が生じたことから、調査対象範囲 711.783m²のうち建物工事範囲について、工事の進捗にあわせて調査を行う。

(5) 結果

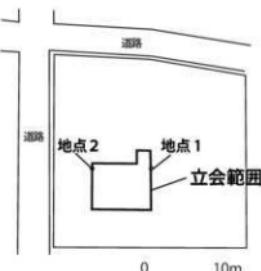
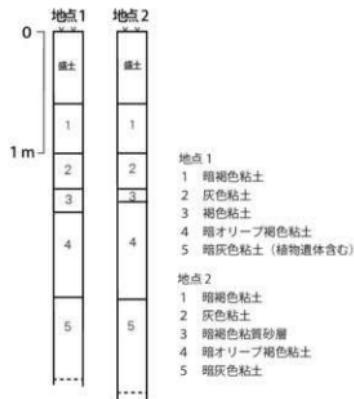
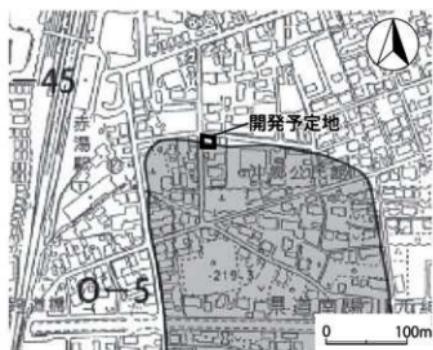
遺構・遺物は検出されなかった。

(6) 考察

対象地は、中世城館址及び平安時代の遺跡である矢ノ目館跡の北端にあたり、JR 赤湯駅から南東約 150m に位置する。現況は更地であるが、かつては物流の集約拠点として各種倉庫が建っていた地域で、対象地も 1985 年地図には「蔵」と表記されている。

1日の土壤改良工事及び 23 日の基礎工事の際に立会を行った。土壤改良掘削は予定地 24 地点のうち 13 地点で立会を行った。基礎工事は盛土内で収まる掘削状況であった。

遺構・遺物は確認されなかった。対象地の東に隣接する旧沖郷公民館建設の際には、多量の須恵器が出土したと言われている。



第 125 図 矢ノ目館跡立会範囲図 S= 1/600

8 漆山字前田

(1) 調査日 平成 28 年 9 月 23 日

(2) 調査場所 南陽市漆山字前田

(3) 調査原因 民間開発

(4) 調査方法及び内容

対象地は、周知の東高堰遺跡の南方約 50m に位置し、分布調査未実施地である。工場拡張の計画が生じたことから、工事の際に立会いを行い、遺跡の有無及び東高堰遺跡の広がりを確認する。基礎工事の深度は盛土内で収まることから、土壤改良工事の掘削時に最初の約 5 m 分を慎重に掘り、掘り上げた土を観察し、土層と遺物混入の有無を確認した。

(5) 結果

遺構・遺物は検出されなかった。土層状況を把握した。

(6) 考察

対象地は、織機川右岸の自然堤防又はその後背湿地に位置すると思われる。土層は、約 0.7 ~ 1 m の盛土下に旧耕作土（水田）及び盤土層を確認、盤土層の下は湿地性の土層が続き、約 3 m 下で黒色砂質粘土層、約 3.5 m 以下は粘質砂層となり河川堆積層となる。約 5 m 以下では砂層となる。なお昭和 61 年ボーリング柱状図を参考に頂いた。

遺物の混入は確認できなかったが、水田の盤土層において炭粒の混入がみられた。東高堰遺跡で遺構面となる褐色系の砂質粘土層は確認されなかったことからすれば、当該地まで東高堰遺跡が広がる可能性は低いと思われる。



第 127 図 漆山字前田開発予定地位置図
S= 1/6000

今次掘削地点の土層

0.5m	盛土
1.0m	黒色砂質粘土（旧水田）
1.5m	暗褐色砂質粘土（盤土）
2.0m	暗褐色粘質砂層（粗砂）
2.5m	暗灰色粘質砂層（細砂）
3.0m	黒褐色砂質粘土
3.5m	暗灰色粘質砂層（粗砂）
4.0m	暗灰色砂層（細砂）

NO1	NO2	NO1
0 盛土	0 盛土	1 黒灰色砂質シルト
1	1	2 暗青灰色粗砂層
2	2	3 黒灰色砂質シルト（軟）
3	3	4 青灰色砂層（粗砂～細砂）
4	4	5 青灰色砂礫層
5	5	6 暗青灰色シルト質細砂層 (下部に腐植物・木片多く混入)
6	6	7 青灰色砂礫層
7	7	8 暗灰色シルト砂層 (腐植物混入、所々にシルト層を挟む)
8	8	9 青灰色粗砂層
9	9	10 暗灰色砂質シルト層 (腐植物混入)
10	10	11 青灰色シルト混じり細砂層
11	11	12 青灰色粗砂層 (14.3m に薄いシルト層挟む)
12	12	13 青灰色砂質シルト層 (腐植物混入)
13		14 青灰色砂礫層
14		15 暗青灰色シルト混じり細砂層 (腐植物含)
15		16 青灰色砂礫層 (粗砂)

NO2

1	黒灰色砂質シルト
2	暗青灰色粗砂層
3	青灰色砂礫層
4	青灰色砂質シルト層
5	青灰色粗砂層 (所々にシルト層を挟む)
6	暗灰色砂質シルト層 (腐植物混入)
7	青灰色粗砂層
8	暗灰色砂質シルト層 (木片等の有機物が多量に混入)
9	青灰色砂礫層
10	青灰色粗砂層 (14.3m に薄いシルト層挟む)
11	暗灰色～青灰色砂質シルト層 (上部に腐植物多い)
12	青灰色砂礫層

第 128 図 漆山字前田柱状図 S= 1/400

9 宮内字桜田二

(1) 調査日 平成 28 年 11 月 8 日

(2) 調査場所 南陽市宮内字桜田二

(3) 調査原因 市道整備

(4) 調査方法及び内容

対象地は、遺跡分布調査未実施地である。市道整備の計画が生じたことから遺跡の有無及び土層状況を確認する。工事地は昨年度からの継続部分で、工事は既存水路をボックスカルバートに交換し道路面拡幅を行うものである。調査は工事の進捗にあわせ、掘削の際に立会いを行った。

(5) 結果

遺構は溝跡と柱穴を確認した。遺物は検出されなかった。

(6) 考察

対象地は、清水上遺跡の北約 170m に位置し、条里制水田があったと推定される地域である。昭和 40 年代に圃場整備が実施されている。

東側の用水路工事で、現地表面から 1.2m 下において溝跡 1 条を確認した。溝は、幅約 85cm × 高約 33cm で柱穴が重複している。既存水路工事の際に既に面的に削平を受けており、遺構は断面のみで確認される状況である。

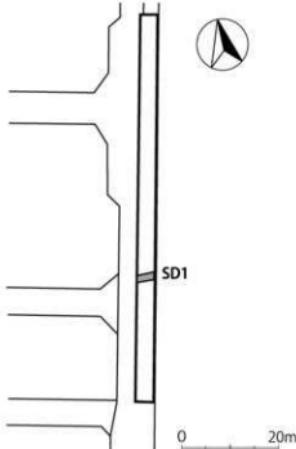
遺物は無く溝跡等の時代は不明であるが、溝跡は条里制の推定ラインに一致する可能性がある。工事区北端付近でも盛土直下に溝状の落ち込みを確認したが、検出層が浅いことから写真のみの記録とした。



第 129 図 宮内字桜田二開発予定地位置図 S= 1/6000



第 131 図 宮内字桜田二 SD1 柱状図 S= 1/40



第 130 図 宮内字桜田二調査平面図 S= 1/1000

10 関根館跡

(1) 調査日 平成 28 年 11 月 8 日、10 日

(2) 調査場所 南陽市関根字屋敷

(3) 調査原因 消防施設整備（94 条）

(4) 調査方法及び内容

対象地は、関根館跡の範囲内である。消防ポンプ庫建替工事の計画が生じたことから、工事の進捗にあわせ立会いを行った。

(5) 結果

遺構・遺物は検出されなかった。

(6) 考察

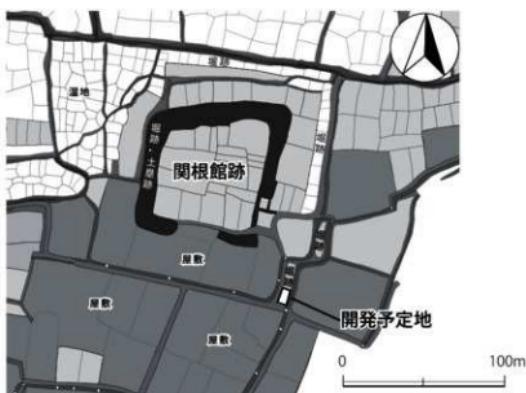
対象地は、関根館跡の堀跡上に位置する。工事では新たな掘削はほとんどなく、掘削は既存建物の盛土内に収まっており、遺構・遺物は確認されなかった。ボーリングステッキによる調査で盛土下に堀跡に堆積した締りの弱い湿地性の粘土層を確認した。

館跡は、明治期の字限図から南側以外を二重堀で囲む形状が確認できる。現況では字屋敷内の道路に沿って館南側にも外堀に相当する大きな水路が東西に走っている。

調査地とその西側の道は、その東西の畠地や宅地から一段低く、南北に大きな用水路が走っており、この低地が外堀跡と思われる。用水路は対象地の北側で道路とともに L 字に屈曲し、馬出のような形状となる。対象地の北西方向にある本丸跡は、周辺よりも微高地になっており現況は大半が畠地である。現地踏査からは、本丸周辺を内堀が巡るとともに土塁もあった可能性が高いと考えられる。



第 132 図 関根館跡開発予定地位置図 S= 1/6000



第 133 図 関根館跡（明治 8 年字限図より）S= 1/3000



第 134 図 関根館跡柱状図 S= 1/40

11 宮内字桜田一

(1) 調査日 平成 28 年 11 月 28 日

(2) 調査場所 南陽市宮内字桜田一

(3) 調査原因 民間開発

(4) 調査方法及び内容

対象地は、周知の桜田遺跡の北方約 55m に位置し、遺跡分布調査未実施地である。

住宅建築工事の計画が生じたことから土工事の際に立会いを行った。

(5) 結果

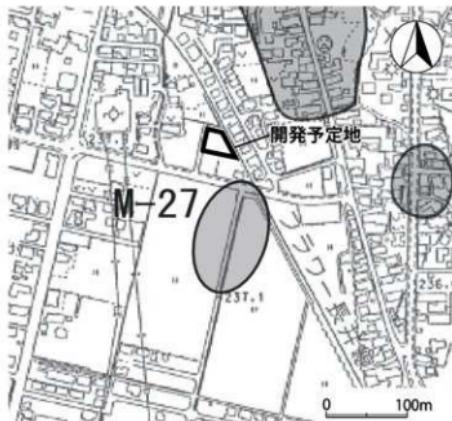
遺構・遺物は検出されなかった。

(6) 考察

対象地は、水田地帯で吉野川の右岸にあたり、条里水田があったとされる地域である。基礎工事の掘削は盛土内で収まっており、遺構・遺物の確認はできなかった。

土壤改良工事地点は、直径 30cm で深さ 3 m まで掘削した。抜き取った土を深度毎に確認したが、排出土に遺物の混入は見られなかった。

土層は、地表から約 30cm は旧水田盛土層である。0.3 ~ 1.1 m 下には青灰色粘質砂層、1.1 ~ 1.6 m に暗褐色粘土層、1.6 ~ 3 m で暗灰色粘土層から青灰色粘質砂層へ推移する。土層状況から、対象地は後背湿地等の低地であったと思われる。



第 135 図 宮内字桜田一開発予定地位置図 S= 1/6000

12 岩屋堂2遺跡

- (1) 調査日 平成28年11月28日
- (2) 調査場所 南陽市川樋字岩屋堂二(市道平岩線)
- (3) 調査原因 市道整備
- (4) 調査方法及び内容

対象地は、周知の岩屋堂2遺跡の北西縁に位置し、大半が遺跡分布調査の未実施地であることから岩屋堂2遺跡の範囲確認を行う。対象地は、既存市道及びため池状になった旧水田であったため事前に試掘ができず、工事の際に立会いを行った。

(5) 結果

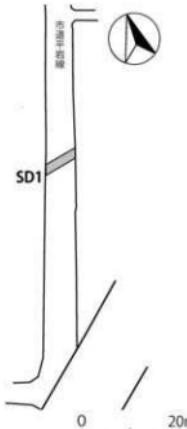
溝跡を1条確認した。溝跡から土師器片を検出した。

(6) 考察

対象地は、西側の山から字北沢を流れる小川の下流にあたる緩斜面で、小扇状地の扇端付近にあたる。岩屋堂2遺跡(平安時代)の北縁にわずかにかかる。対象地から東へ約40mの平成17年度の県試掘調査地では、繩文・奈良・平安時代の遺構、遺物が確認されている。南西約220mの加藤屋敷遺跡では古墳時代の可能性のある方形周溝が確認されている。工事は、道路範囲全面にわたり水田盤土層までを剥離した。遺構は、東西方位の溝跡1条(SD1)を確認したが、その他は確認されなかった。溝跡は粗い砂礫層で、短期間で埋没したような様相を呈している。溝跡底部の一次堆積層から土師器1点を検出した。遺物は器台とみられ、調整法等から古墳時代前半に属する可能性がある。



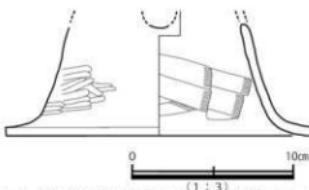
第136図 岩屋堂2遺跡開発予定地位置図 S=1/8000



第137図 岩屋堂2遺跡調査平面図 S=1/1000



76 第138図 岩屋堂2遺跡SD1断面図 S=1/80



第139図 岩屋堂2遺跡SD1出土遺物実測図 S=1/3

V 長岡南森遺跡測量調査

1 調査概要と目的

- (1) 調査期間 平成 28 年 9 月 26 日～3 月 28 日
- (2) 調査場所 山形県南陽市長岡字南森、字南森西、字清水尻、字西田中南、字西田
- (3) 調査目的

対象地は、長岡南森遺跡として知られる独立丘陵である。遺跡は、縄文中期、弥生、古墳、平安、中世の遺跡として登録される。中世又は近世の館跡と考えられ、平野部の館跡としては市内では最も保存状況が良いと思われる。また、以前から地元では大型古墳ではないかと言われていたが中世城館等による後世の改変が大きく、山林及び営農地であったことなどから、これまで十分な調査が行われなかった。近年、周辺土地開発が急速に進んできしたことから、遺跡保護を図るために遺跡の現状と性格を把握する必要性が課題となつた。遺跡台帳を整備し、今後遺跡保護を行うための基礎資料となる地形図等の作成を行うこととした。

2 調査方法

調査地の現況は、畠地、墓地、神社、耕作放棄地及び山林で、民有地であることから、事前に地権者から測量調査を行う承諾を得て、落葉後に航空レーザー測量及び現地での補助測量を実施した。なお、周知の遺跡名は長岡南森遺跡であるが、地名を遺跡名とする原則から本報告においては、古墳は南森古墳、館跡は南森館跡、丘陵名は南森丘陵とする。

3 測量方法と経過

測量計画は、GNSS衛星配置等を考慮し、計測諸元、飛行コース、GNSS基準局の設置場所及びGNSS観測について作成し、1m×1mに4点の計測データを取得するものとした。測量機材は、必要に応じ「公共測量作業規定の準則」に定める検定を第三者機関より受けたものを使用した。

南森丘陵の3次元航空レーザー測量は航空レーザー計測システム及びGNSS/IMU装置を搭載した回転翼機を用いて実施した。調査面積0.04km²について、2コースを対地高度500m、飛行速度72km/hで飛行し計測した。

航空レーザー測量データ(GNSS基準局のGNSS観測データ、航空機上のGNSS及びIMU観測データ、レーザ測距データ)を統合解析し、地表のレーザー照射位置の三次元座標を求めた。調整用基準点を設定し、三次元計測データを補正した。

補正後のオリジナルデータから、建物や植生等の地物を除去したグランドデータを作成、これを基に等高線データ、赤色立体地図となる地形表現図を作成した。



第140図 計測飛行ルート

4 成果

(1) 地理的環境

長岡南森遺跡は、山形県南陽市長岡字南森に所在する。南陽市郡山のJR奥羽本線赤湯駅から南東へ約1.2kmの位置にある。調査を実施した長岡南森丘陵は、宮内扇状地の東南部に位置し、大谷地の西縁をなぞるように北部の山地から平野部に点々と連なる独立孤丘の一つである。

遺跡は南森丘陵とその周辺を囲む低地を範囲とし、県内最大の前方後円墳として知られる国指定史跡稻荷森古墳から南東へ約130mの距離に位置している。地域では、稻荷森の別名「孤山」に対し、南森は別名「狸森」と呼ばれていた。

(2) 南森館跡

南森館跡は、平成3～7年度に市教委が実施した踏査で確認された。平成6年度には山形県中世城館址調査報告書（置賜地域）が刊行されているが、南森館跡は調査段階であつたことなどから未掲載となつた。同様に当時報告書に未掲載となつた館跡には、俎柳館跡、東唐越館跡、斎藤館跡がある。今次調査により南森館跡の城館遺構を把握することができたことは大きな成果である。

南森館跡は、市内平野部に所在する館遺構としては残存状況が比較的良好く、今次測量調査でも、南森丘陵南半部のやや東よりにおかれた主郭を中心とし、主郭を取り囲むように曲輪を配する形状を読み取ることができる（第141図）。館跡の中心となる主郭は東西方向に長い長方形を成し、西辺を堀切又は堀底道で区切る。主郭西端にはわずかに土塁が残る。主郭西方と主郭内には八幡神社と神明神社が祀られている。館跡の南側には二条の豊堀があるが館跡に伴うものか後世の改変であるかは不明である。この豊堀近くの山裾には平成3年頃まで井戸跡が存在していた。

館跡の周辺は湿沼地が取り囲み、さらに西側では湿地の外側に沿うように旧河道が走ることから、これらの窪地形を防衛に利用していたと思われる。

館跡の東北方向は備えが少ないよう見えるが、この付近は古くからの住宅地が広がっている。地区内には大きな水路が縱横に走る。一部には土塁を伴うような箇所もあることから根小屋や関連集落があった可能性もある。

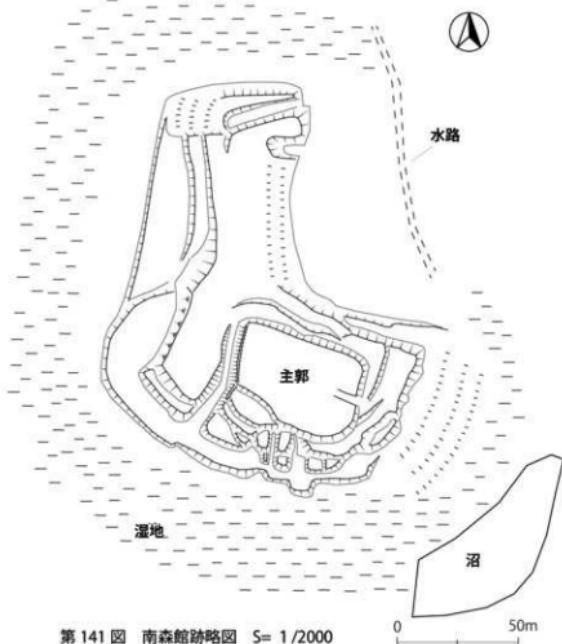
館跡の南方斜面には近世の古墓地が立地する。万年塔型の墓石が多く、その内の1基には屋根部分に、「へ」型の屋根らしき陰刻とその下部に十字の刻印が見られる。刻印は墓石自体よりも新しく見えるが、地域には寛政年間のキリストン弾圧の伝承があり、赤湯町史では「南の森は寛政年間に切支丹信者が斬首された処である」と記され、関連性を考えられる。近世には墓地や刑場として利用されているとすれば南森館はその時期には既に廃絶していたと考えられる。

南森館周辺の中世遺跡を概観すると、南森館跡の南方には、内城館跡、鶴ノ木館跡がある。内城館跡の西隣には卯之木浦という小字名も残り、内城は本来ウノキと読むのではなくいかと思われる。また地区名の俎柳も末尾はギである。城を「キ」と発音するとすれば、周囲を囲う柵の意味を考慮しておく必要がある。中世館跡以外に、中世以前の祭祀遺跡や豪族居館、城柵等の存在も考えておく必要のある地域と言える。

また、中世の南森館跡周辺における土地売買の記録が残っており（市史上巻）、天文年間の湯目文書に、伊達晴宗が湯目七郎左衛門に与えた土地として「中磨」という地名が出てくる。中磨は中磨郷、中丸、中丸郷とも記され、字限図では、字中丸は内城館北側にあ

たる。中磨郷にはきつねさき在家、さい藤在家、みょうの在家等が含まれていたとされる。

きつねさきは、孤山の先又は孤崎という意味であるとすれば、おそらく稻荷森古墳付近と思われる。さい藤は、南森の西側に字名才藤（又は斎藤）が残る。みょう（名）は、享保の絵図に「みょう」と記される場所があり、南森丘陵の南々東約300mに位置し、現在の字名では熊ノ前となっている。南森一帯が中世において一つの郷を成している点は、この地域の歴史を考えるうえで留意すべき点である。



第141図 南森館跡略図 S= 1/2000

(3) 南森（古墳推定地）

南森丘陵は、以前から前方後円墳の可能があると言われており、その確認のために地形と遺跡形状の把握が必要と考えられてきた。今次測量調査により初めてその形状が明らかになった。特に赤色立体地図の成果は大きく、今後、南森丘陵の調査を進めるうえで貴重な情報が得られたと言える。

仮に前方後円墳と考えた場合は、後円部が大規模に改変を受けていると考えられる。丘陵北半部はくびれ部から前方部に相当し、その墳麓線等の形状に加え、各部位の比率等においても古墳である可能性を考えなければならない形と言える。丘陵南半部は後円部に相当する。くびれ部に残る弧線から後円部を推定した場合の正円は南端に残る弧線とほぼ一致すること等から丘陵南半部が前方後円墳の後円部の改変された姿である可能性は残る。

全長は未確定であるが、概ね160~168mと思われる。東北地方でも最大クラスの古墳の可能性があり、前方部形状からは古墳時代前期の築造が考えられる。古墳であるとすれば東北地方の歴史を考えるうえで極めて重要であり、その保護と今後のさらなる調査が必要と考えられる。



第142図 南森丘陵赤色立体地図 S= 1/2000



第143図 南森古墳推定案 S= 1/2000

引用・参考文献

- 黒江太郎 1965 「宮内町の文化財」宮内文化史研究会
- 長井政太郎 1968 「赤湯町史」赤湯町史編さん委員会
- 沖郷村史編纂委員会 1973 「沖郷村史」南陽市役所沖郷支所内沖郷村史編纂委員会
- 黒江太郎 1976 「熊野大社史」宮内文化史研究会
- 金山高砂会 1976 「やすらぎ第4号」金山高砂会
- 錦三郎 1985 「南陽市史編集資料第14号」南陽市市史編さん委員会
- 佐藤鏡雄・佐藤庄一 1987 「南陽市史 考古資料編」南陽市市史編さん委員会
- 佐藤鏡雄・佐藤庄一 1990 「南陽市史 上巻」南陽市市史編さん委員会
- 山形県教育委員会 1995 「山形県中世城館遺跡調査報告書第1集（置賜地域）」山形県教育委員会
- 須崎寛二 2000 「南陽市史編集資料第29号」南陽市市史編さん委員会
- 角田朋行 2001 「南陽市域の条里制及び古墳等について」『山形県地域史研究26』山形県地域史研究協議会
- 村木二郎 2003 「東日本の縄塚の地域性」『国立歴史民俗博物館研究報告第108集』国立歴史民俗博物館
- 川崎利夫他 2004 「埋められた経 こめられた願い—やまがたの縄塚—」山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
- 押切智紀 2007 「榎原遺跡発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第165集』山形県埋蔵文化財センター
- 氏家信行・伊藤純子 2009 「加藤屋敷道路第1・2次発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第179集』山形県埋蔵文化財センター
- 佐藤鏡雄 2011 「やまがたの古墳時代—最上川流域のムラの古墳—」山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館
- 吉田江美子・山田 琢 2013 「郡山遺跡群・富貴田遺跡発掘調査報告書」南陽市教育委員会
- 山田 琢・吉田江美子 2013 「長岡山遺跡・長岡山東遺跡発掘調査報告書」南陽市教育委員会
- 角田朋行・吉田江美子 2014 「南陽市遺跡分布調査報告書（1）」南陽市教育委員会
- 水戸部秀樹 2014 「押出遺跡 第4・5次発掘調査報告書」『山形県埋蔵文化財センター調査報告書第212集』山形県埋蔵文化財センター
- 角田朋行 2015 「南陽市遺跡分布調査報告書（2）」南陽市教育委員会



姐柳字早稻田遠景（南から）



姐柳字早稻田近景（西から）



岩部山南部（山崎神社、南から）



岩部山南部尾根の巨石（南から）



岩部山南部尾根の岩（南から）



岩部山東南枝尾根頂（東から）



岩部山南部中腹の土壠状盛土（東から）



岩部山南部石切り場（南から）



大仏遺跡追加範囲遠景（南から）



大仏遺跡追加範囲（北から）



赤湯字玉坂山（南から）



赤湯字名子山（西から）



別所館跡南斜面の曲輪（南東から）



別所館主郭内の檜台（東から）



別所館跡北側の横堀（北から）



天朝山南側の帯状テラス（南から）

図版2 大仏遺跡、赤湯字玉坂山・字名子山、別所館跡・天朝山



別所山山頂の方形壕状地形(西から)



別所山山頂の円形塚状地形(北東から)



釜渡戸字松ヶ沢下流の転石状況（南から）



釜渡戸字松ヶ沢の石材産出地遠景（西から）



釜渡戸字松ヶ沢の石材



石材の矢穴列



北の沢山遺跡（東から）



字北の沢山の山頂西側の露頭掘跡（西から）



上野山山頂の湿地（北から）



上野山山頂の豊溝（南から）



上野山尾根南斜面の露頭掘跡



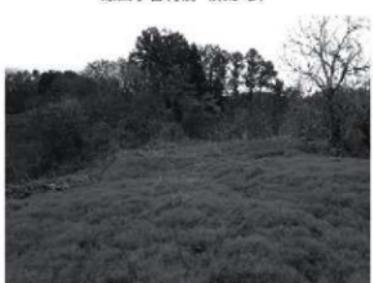
上野山尾根南斜面の露頭掘跡



漆山字曾利橋（東から）



梨郷字寺山の尾根（北から）



宮内字武道作山東尾根頂のテラス（東南から）



宮内字武道作山北側の帯状テラス（南から）



宮内字武道作山尾根頂の平坦面（東から）



宮内字武道作山尾根頂北側の堀切（東から）



宮内字武道作山山頂の平坦面（東から）



宮内字武道作山中腹の神社（東南から）



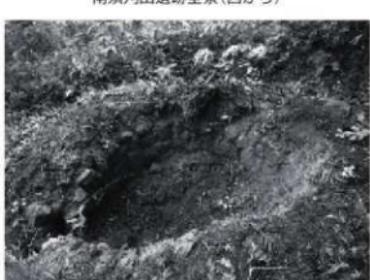
宮内字閑口（南から）



南須刈田遺跡全景（西から）



南須刈田円形塚（南から）



南須刈田円形塚の石壠（東から）



大橋城跡北西櫓台跡と濠跡（南から）



大橋字町浦と字中宿浦の境の溝（北から）



御殿跡北側の館濠（西北から）



大橋城本丸南を東西に流れる旧河道（字九反付近）



梨郷字大森（西から）



梨郷字神楽山下（南から）



芹ヶ窪遺跡（東から）



芹ヶ窪遺跡（南から）



漆山字西寺町付近（南から）



漆山字曾利橋付近（南から）



山居沢山 地点2（北東から）



山居沢山 地点2 灰原



山居沢山A遺跡須恵器出土地点（東から）



山居沢山A遺跡須恵器出土地点（南から）



新兵衛堤遠景（西から）



新兵衛堤（北から）



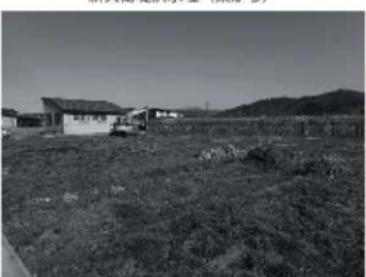
新兵衛堤の堤内（西から）



新兵衛堤洪水吐（東から）



宮内字高日向二（北から）



李の木遺跡調査地全景(東から)



李の木遺跡 TP1



李の木遺跡 TP2



李の木遺跡 TP3



北町遺跡調査地全景（西から）



北町遺跡 TT1（7層上面、西から）



北町遺跡 TT1 南壁（深掘後）



若狭郷屋字沢見調査地全景（北西から）



若狭郷屋字沢見 TP9



若狭郷屋字沢見 TT4



若狭郷屋字沢見 TT6



蒲生田山古墳群調査地全景（西から）



蒲生田山古墳群 TP2（南から）

図版9 北町遺跡、若狭郷屋字沢見、蒲生田山古墳群



中落合館跡調査地全景(西南から)



中落合館跡 TT1 (南から)



中落合館跡 TT2 (北から)



中落合館跡 SP1 (南から)



中落合館跡 SP2 (東から)



中落合館跡 SP3 (南から)



中落合館跡 SP4 (南から)



中落合館跡 SP5 (南から)



中落合館跡 SP6（南から）



中落合館跡 SP7（北から）



中落合館跡 SP8（東から）



中落合館跡 SP9（南から）



中落合館跡 SP10（南から）



中落合館跡 SP11（南から）



中落合館跡 SP12（北から）



中落合館跡 SP13（北から）



中落合館跡 SP14（南から）



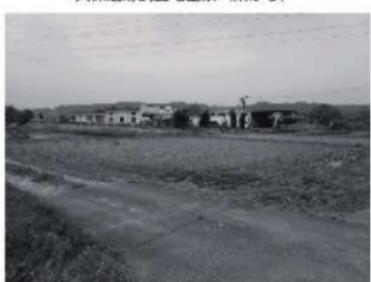
中落合館跡 SD1（北から）



久保遺跡調査地全景（東から）



久保遺跡 TT1（西から）



砂子田遺跡調査地全景（南東から）



砂子田遺跡 TT1（南から）



砂子田遺跡 TT2（南から）



砂子田遺跡出土遺物



長岡山遺跡丘陵部（北から）



長岡山遺跡堤部（北から）



長岡山遺跡 TT1（東から）



長岡山遺跡 TT2（東から）



長岡山遺跡 TT4（東から）



長岡山遺跡 TT6（東から）



長岡山遺跡 TT7（東から）



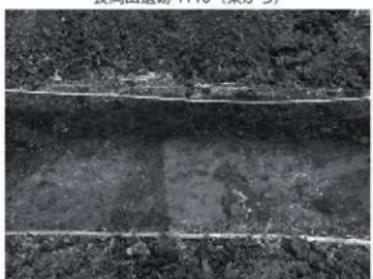
長岡山遺跡 TT8（東から）



長岡山遺跡 TT10（東から）



長岡山遺跡 TP5（北から）



長岡山遺跡 SD1（南から）



長岡山遺跡 TT10 第2層出土遺物



宮内字閻口調査地南半（南から）



宮内字閻口調査地北半（東から）



宮内字閻口 TP3（南から）



宮内字閻口 TP5（北から）



高梨字谷地端調査地全景（北東から）



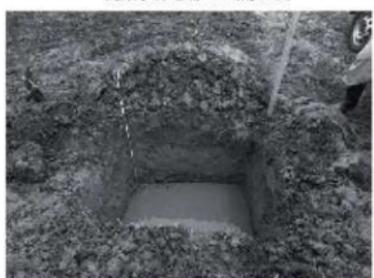
高梨字谷地端 TP1（南から）



高梨字谷地端 TP3（南から）



高梨字谷地端 TP4（南から）



高梨字谷地端 TP6（南から）



高梨字谷地端 TP7（南から）



高梨字谷地端 TP9（南から）



高梨字谷地端 TP10（西から）



姐柳字六百刈調査地全景（北東から）



姐柳字六百刈調査地遠景（西から、旧河道状況）



姐柳字六百刈 TT1（南から）



姐柳字六百刈 TT3（南から）



姐柳字六百刈 TT5（南から）



姐柳字六百刈 TT6（南から）



桶ノ口遺跡調査地全景（北東から）



桶ノ口遺跡 TT1（北から）



桶ノ口遺跡 TT2 (北から)



長岡山東遺跡調査地全景 (北東から)



長岡山東遺跡 TT1 (西から)



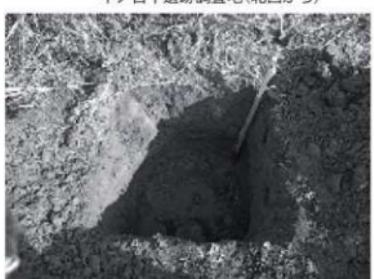
長岡山東遺跡 TT2 (西から)



中ノ目下遺跡調査地 (北西から)



中ノ目下遺跡 TP2 (南から)



中ノ目下遺跡 TP3 (西から)



中ノ目下遺跡 TP4 (南から)



中ノ目下遺跡 TP5 (南から)



中ノ目下遺跡 TP6 (南から)



中ノ目下遺跡 TP8 (南から)



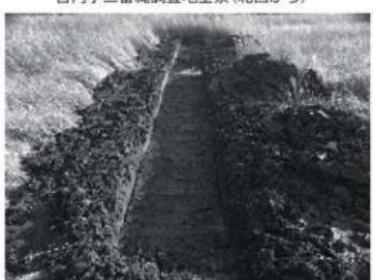
中ノ目下遺跡 TP10 (南から)



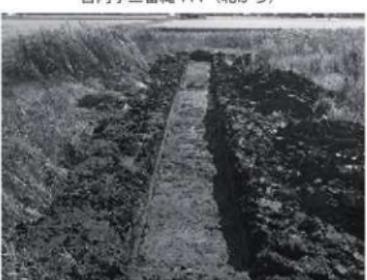
宮内字三番縄調査地全景 (北西から)



宮内字三番縄 TT1 (北から)



宮内字三番縄 TT2 (北から)



宮内字三番縄 TT3 (北から)



宮内字三番縄 TT4（東から）



宮内字三番縄 TT5（西から）



宮内字三番縄 SD1、SD2（北から）



若狭郷屋敷跡調査地全景（西から）



若狭郷屋敷跡 TP4（南から）



若狭郷屋敷跡 TP5（南から）



若狭郷屋敷跡 TP6（南から）



若狭郷屋敷跡調査地東側墓地の板碑（西から）



西田遺跡調査地全景（西南から）



西田遺跡 TP1（南から）



西田遺跡 TP2（北から）



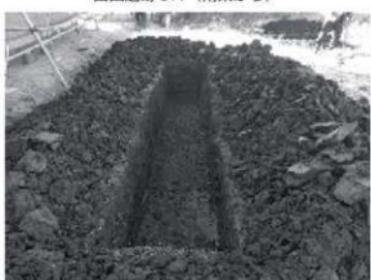
西田遺跡 TT3（南から）



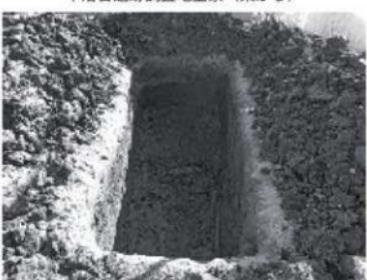
西田遺跡 ST1（南東から）



中落合遺跡調査地全景（東から）



中落合遺跡 TT2（東から）



中落合遺跡 TT3（北から）



中里遺跡(1)調査地全景（東北から）



中里遺跡(1)TT1（西から）



中里遺跡(1)調査地遠景（西北から）



中里遺跡(1)TT2（西から）



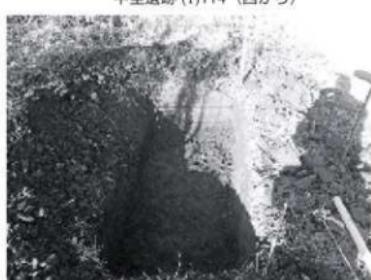
中里遺跡(1)TP3（南から）



中里遺跡(1)TT4（西から）



中里遺跡(1)TP5（南から）



中里遺跡(1)TT6（南から）



中里遺跡(2) 調査地(東から)



中里遺跡(2) TP1(南から)



檜原遺跡調査地全景(南から)



檜原遺跡 TT1(南から)



檜原遺跡 TP2(南から)



檜原遺跡 SD1直上出土遺物



長岡字東田中調査地全景(東から)



長岡字東田中 TT1(東から)



郡山字六百刈立会調査地（西から）



郡山字六百刈立会い（東から）



西原遺跡遺跡立会（西から）



西原遺跡表土剥離状況（南から）



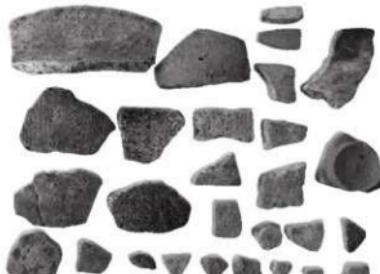
西原遺跡 ST1 検出状況（西南から）



西原遺跡 ST2、3 検出状況（東から）



西原遺跡 ST1 出土遺物



西原遺跡 ST2 出土遺物



柄塚字前田立会状況(南から)



柄塚字前田深掘部(南東から)



宮内字八幡田二立会状況(南から)



宮内字八幡田二立会状況(北から)



宮内字下田一立会地点(北東から)



宮内字下田一出土遺物



若狭郷屋敷跡立会地点(南から)



若狭郷屋敷跡立会状況(南から)



矢ノ目館跡立会状況（北東から）



漆山字前田立会地点（南から）



宮内字桜田二立会状況（北から）



宮内字桜田二 SD1（西から）



関根館跡立会地点（南から）



関根館跡立会状況（南から）



宮内字桜田一立会地点（北から）



宮内字桜田一立会状況（西から）



岩屋堂 2 遺跡立会地点（南から）



南森館跡（西堀切と神社、南から）



南森館跡（南斜面の古墓地、西から）



南森館跡（土壠跡、北から）



岩屋堂 2 遺跡出土遺物



南森館跡（南斜面豎堀、西から）



南森館跡（古墓地内万年塔型墓石の十字刻印）



南森館跡（南斜面の板碑、南東から）

図版 26 岩屋堂 2 遺跡、南森館跡



南森（西から）



南森（北西から）

南陽市埋蔵文化財調査報告書第 15 集
南陽市遺跡分布調査報告書（5）
2017 年 3 月 31 日

発行 南陽市教育委員会
〒 999-2292 山形県南陽市三間通 436 番地の 1
電話 0238-40-3211（代）
印刷 南陽印刷株式会社
〒 999-2221 山形県南陽市二色根 5-11
電話 0238-43-3028

